令和3年度 老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康增進等事業分)

地域における実践的な 「認知症バリアフリー」の取組の 推進に関する調査研究事業

報告書

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 令和4(2022)年3月

目 次

第1章	事業概要	
1.	事業背景	1
2.	事業目的	1
3.	事業構成	1
	1) 実施事項	1
	2) 全体構成	3
	2) 実施内容	4
第2章	経過・結果	
1.	検討委員会1	4
	1) 第1回検討委員会1	4
	2) 第2回検討委員会2	1
	3) 第3回検討委員会2	5
2.	認知症バリアフリー全国調査 3	2
	1) 調査概要3	2
	2) 調査結果概要3	3
	(1)都道府県 3	3
	(2) 市区町村3	8
	(3) 認知症疾患医療センター 4	3
	3) 記述回答4	6
	(1)都道府県 4	6
	(2) 市区町村 5	6
	(3) 認知症疾患医療センター6	9
3.	モデル事業8	2
	1) モデル事業(試行)地域会議8	2
	2) モデル事業(試行)地域経過8	2
	3) モデル事業(試行)地域ワークショップ8	3
	(1) ワークショップ共通資料 (抜粋)8	3
	(2)釧路市:ワークショップ参加者の声8	9
	(3) 大分県:ワークショップ参加者の声9	0

(4) 矢巾町:グループミーティング......93

4) バリ	アフリーアクション	. 96
(1)	御坊市	. 96
(2)	藤枝市	101
(3)	矢巾町	107
(4)	くらしの保健室たま(東京都昭島市)	109
(5)	練馬区(練馬区社会福祉事業団)	112
(6)	標茶町	118
(7)	鳥取市	123
(8)	大分県	127
5) 地域	ヒアリング映像収録	130
(1)	御坊市	130
(2)	藤枝市	133
(3)	くらしの保健室たま(東京都昭島市)	135
(4)	練馬区(練馬区社会福祉事業団)	137
(5)	標茶町	140
(6)	厚岸町	142
(7)	釧路市・釧路町	143
(8)	白糠町	146
(9)	鳥取市	148
(10)	大分県	150
参考資料		
全国調査調査	票(都道府県・市区町村・認知症疾患医療センター)	155
事業ダイジェスト	、(別刷)	

第1章 事業概要

1. 事業背景

認知症の本人が認知症とともに暮らしていく上で、周囲にある様々な「バリア」によって、 不安を強めたり、暮らしにくさを体験することがしばしばある。

それらは、本人の自立や社会参加の困難さを高め、心身不調の引き金にもなり、本人たちは自 らが暮らす身近な地域の中で、認知症バリアフリーが具体的に進んでいくことを希求してい る。

認知症施策推進大綱に「認知症バリアフリーの推進」が掲げられ、関連した研究・事業等が増えてきている一方、本人自らが身近にある認知症バリアを具体的に見出す本人発信型の取組と、見出されたバリアを自治体やその地域の様々な事業体・団体・住民等とともに解消していく(バリアフリーを進めていく)実践的な道筋は未開拓である。

全国で多方面への本人発信や社会参加支援が進みつつあるが、本人の声や力が、自らが住まう地域の共生推進に十分には活かされていない現状がある。

2. 事業目的

「認知症施策推進大綱では、生活のあらゆる場面で、認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けて行くための障壁を減らしていく「認知症バリアフリー」の取組を推進していくこととされ、様々な調査研究などの取組が進んでいる。一方で、認知症の人本人が生活していく中で身近にある認知症に起因する障壁の解消を望んだときに、地域で円滑に解消するための仕組みが十分に講じられているとは言えない。そのため、本研究事業では、①全国における認知症の人本人が抱える障壁の解決に向けた取組の実態を調査するとともに、②認知症の人が自ら暮らす地域の中にある障壁を本人の視点から具体的に明らかにし、その解消のための取組を自治体やその地域の人たち(事業体・団体・住民等)とともに進めていくためのモデル事業を実施し、③モデル事業の成果をもとに、全国で取り組むためのアクションガイド等の推進ツールを作成し、地域における本人視点にたった実践的な認知症バリアフリーを推進することを目的とする。

3. 事業構成

1)実施事項

(1)検討委員会の設置・開催

認知症の本人、家族、医療、介護、福祉等の専門職、生活関連領域の企業、地域づくりに取り組む関係者、学識経験者等、12名からなる検討委員会を設置し、モデル事業の進め方、及び経過、結果の検討を行った。(オンラインにて3回開催)

(2)認知症バリアフリー全国調査の実施

都道府県・認知症疾患医療センター・市区町村を対象に、施策・事業における認知症 バリアフリーに関する取組み状況及び認知症本人の参画に関する調査を行った。

(3)モデル事業の実施

人口規模等の地域特性の異なる9地域13団体(自治体を含む)において、本人が参画しながら地域の中にある障壁を具体的に明らかにし、その解消に向けた取り組みを自治体やその地域の多様な人たちとともに進める試行・検証を行った。

<モデル地域ミーティング>

各地域のコアメンバー同士が、共通ツール「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」の検討、シート活用の取組状況情報を共有、経過等に関する意見交換を行い、自地域の取組を推進していくための会議をオンラインで開催した。(年2回)

<パリアフリーシートの共有と利活用>

「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」を各地域の地域包括支援センター、ケアマネジャー等が共通のツールとして活用し、認知症の本人の変化、支援等の変化を情報化し、地域で本人のよりよい暮らしに向けた活用を検討する。

<モデル地域ワークショップ>

モデル地域のうち、4地域(釧路地域(釧路市・釧路町・厚岸町・白糠町)、大分県、矢巾町(岩手県)、静岡県)で、「バリアフリーシート」利活用等に関する情報提供、及び普及を目的としたワークショップを行った。

<地域ヒアリングと映像資料の作成>

「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」を各地域の地域包括支援センター、ケアマネジャー、認知症の本人等に、実際に活用したシートをもとに、活用したことで起きた本人の変化や周囲の変化、シートへの意見等について、ヒアリング(インタビュー)を行い、映像資料を作成した。

(4)「わがまち認知症バリアフリーアクションガイド」作成

モデル事業における試行の経過や成果・課題をもとに、自治体、地域包括支援センター等が、自地域の本人が参画する「認知症バリアフリー」の取組みを進めていくためのアクションガイドを作成した。(WEB コンテンツ (映像資料) 連携)

(5) 事業報告 WEB コンテンツの作成・公開

本事業の取組と成果に関して、情報提供を行うとともに全国への普及を図るため、WEB コンテンツを作成し、当法人のホームページ(http://www.jdwg.org/)上に事業報告コンテンツを掲載した。

2)全体構成

(1) 検 討 委 員 会

第1回

令和3年10月14日 オンライン開催

第2回

令和3年12月20日 オンライン開催

第3回

令和4年3月4日 オンライン開催

(2) 認知症バリアフリー全国調査

調查時期:令和3年12月~令和4年3月

調査対象:都道府県、市区町村、認知症疾患」医療センター

(3) モ デ ル 事 業

第1回モデル地域ミーティング

令和3年10月6日(オンライン開催)

第2回モデル地域ミーティング

令和3年12月3日 (オンライン開催)





バリアフリーシートの共有と利活用/ワークショップの実施

(令和3年10月~令和4年3月)

- ・各地域での「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」の利活用(試用)
- ・モデル地域 (4地域) とワークショップを実施



地域ヒアリングと映像資料作成

(令和3年12月·令和4年3月)

- ・「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」の利活用による、本人の変化、支援の変化
- ・「本人の今とこれからの暮らしのパリアフリーシート」 への意見等

(4) わがまち認知症バリアフリーアクションガイド

「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」を各地の取組事例で紹介

(5) WEBコンテンツの作成・公開

事業の取組と成果について、映像を含めてコンテンツ化し公開

3)実施内容

(1)事業検討委員会と実施体制

検討委員会

*は委員長 計12名(敬称略)

	氏 名	所属 • 役職
1	粟田 主一*	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
1	来山 土 *	認知症未来社会創造センター センター長
2	藤田 和子	認知症本人(鳥取県鳥取市在住)
	745 - 117 3	認知症本人大使「希望大使」(国)/鳥取市認知症希望大使
3	望月 省吾	認知症本人(神奈川県藤沢市在住)
		かながわオレンジ大使(認知症本人大使)
4	鈴木 森夫	公益社団法人 認知症の人と家族の会 代表理事
5	永田 久美子	認知症介護研究・研修東京センター 副センター長
6	渡邉 敏宏	静岡県健康福祉部健康局健康増進課地域支援班
7	安部 志織	大分県福祉保健部高齢者福祉課地域包括ケア推進班
8	速水 陽	北海道釧路市福祉部介護高齢課
9	鱒沢 陽香	岩手県矢巾町地域包括支援センター
10	谷口 泰之	御坊市市民福祉部介護福祉課
11	酒井 清子	練馬区社会福祉事業団地域支援課
12	間渕 由紀子	くらしの保健室たま(東京都昭島市 訪問看護 宮沢の太陽)

事業実施体制

事業全体のとりまとめ: 粟田 主一 (東京都健康長寿医療センター)

事業担当者: 永田 久美子 (認知症介護研究・研修東京センター) 事業担当者: 宮前 史子 (東京都健康長寿医療センター研究員)

事業担当者: 小森 由美子 (認知症介護研究・研修東京センター客員研究員)

事業担当者: 鈴木 英一(日本認知症本人ワーキンググループ) 事業経理担当者: 渡辺 紀子(日本認知症本人ワーキンググループ)

事業実施協力: モデル事業実施地域(別掲)関係者のみなさん

調査実施協力: 全国自治体(都道府県・市区町村)・認知症疾患医療センター

検討委員会開催経過

第1回検討委員会

日時:令和3年10月14日(木)15時~17時

開催方法:オンライン会議

内容:

- 1) 本事業の検討委員会について
 - ①委員紹介
 - ②委員長選任
- 2) 事業全体説明
 - ①本事業の構成と概要・全体スケジュール
 - ②モデル事業について (モデル地域、試行展開内容)
- 3) 検討
 - ①本人起点のバリア軽減・解消によるよりよい暮らしの実現
 - ②試行地域に関して(重要な点、課題となりそうな点)
 - ③「認知症の」人の見方の転換(先入観の転換)

第2回検討委員会

日時:令和3年12月20日(月)15時~17時

開催方法:オンライン会議

内容:

<モデル事業について>

- 1) 各地の経過
- 2) バリアフリーシート (試行ツール) について
- 3) バリアフリーシート試用実例(御坊市・藤枝市)
 - ①情報化する事柄とツールとしての使い勝手について
 - ②情報の共有と地域でいかすことについて

<全国調査について>

1)調査計画について

第3回検討委員会

日時:令和4年3月4日(金)15時~17時

開催方法:オンライン会議

内容:

- 1) 事業経過について
 - ①モデル事業 (試行地域) について
 - ②全国調査について
- 2) 提案について
 - ①検討点1:本人を起点にする「バリアフリー」の地域アプローチについて
 - ②検討点2:バリアフリーシートの改善点や利活用について

(2)認知症バリアフリー全国調査

本事業では、

- ・本人の暮らしを軸にしたバリアフリーの取組に関する、自治体・認知症疾患医療センター の意識 (関心・実践等)、実情
- ・本人参画に対する意識
- ・本人参画(本人関与)状況等の具体 等

を中心に、本人が抱える障壁 (バリア) の解決に向けた取組の現状や課題を調査し、認知症の人本人が生活していく中で、地域で円滑にバリアを解消するための取組みを、全国の自治体 (都道府県、市区町村)、認知症疾患医療センター等が進めていく上で、参考になる全国情報を提供することを目的に全国調査を実施した。

○調査対象

都道府県、市区町村、認知症疾患医療センター

○調査時期

令和3年12月~令和4年3月(最終締切:令和4年3月23日)

○調査方法

電子メールによる調査票送付と回収。

都道府県調査は、各都道府県認知症担当課に電子メールにて調査票を送付、回答回収。 市区町村調査、認知症疾患医療センター調査は、全都道府県から実施協力を得て、調査票 を都道府県から各対象に送付後、研究調査用メールアドレスにて、各対象から回答ファイ ルを直接回収。

○回答数 (回答率)

対象(数)	回答数	回答率
都道府県(47)	42	89.4%
市区町村(1,741)	878	50.4%
認知症疾患医療センター(488)	224	45.9%

(3)モデル事業

モデル地域(9地域、自治体を含む13団体)を設定し、各試行地域で、本人を起点とした(本人が参画)地域にある障壁(バリア)を具体的に明らかにしながら、その解消にむけた本人自身の工夫、認知症支援関係者、自治体、地域の多様な人たちとともに進めるモデル事業を実施した。

<モデル事業実施地域>

	地 域	都道府県	人 口 (研究班調)
1	釧路市、及び周辺地域 (釧路町・標茶町・厚岸町・白糠町)	北海道	釧路市:162,689 人 釧路町: 19,102 人 標茶町: 7,165 人 厚岸町: 9,064 人 白糠町: 7,377 人
2	矢巾町	岩手県	26, 932 人
3	練馬区 (区社会福祉事業団が運営する 9か所の地域包括支援セン ター)	東京都	737, 317 人 (練馬区全体)
4	昭島市 (くらしの保健室 たま)	東京都	113, 780 人
5	藤沢市	神奈川県	441, 500 人
6	静岡県・藤枝市	静岡県	143, 250 人 (藤枝市)
7	御坊市	和歌山県	22, 304 人
8	鳥取市	鳥取県	184, 185 人
9	大分県	大分県	1, 113, 607 人 (県全体)

<モデル地域ミーティング>

○第1回試行地域会議(モデル地域ミーティング)

日時:令和3年10月6日(水)13時30分~15時30分

開催方法:オンライン会議

内容:

・事業概要の説明と共有

・取組内容の説明と共有、意見交換

・ 今後の進め方

○第2回試行地域会議(モデル地域ミーティング)

日時:令和3年12月3日(金)13時~15時

開催方法:オンライン会議

内容:

- ・各地域の状況等に関する情報共有
- ・「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」について
- ・情報化された事柄の共有と活かし方について

<バリアフリーシートの共有と利活用>

本事業では、「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」を共通の情報ツールとして、認知症の本人とともに利活用し、本人の暮らしの中にある身近なバリアを可視化し、同時に、本人自身が持つバリア解消の工夫等についても情報化し、地域の多様な関わりによる本人にとってのよりよい暮らしへのアプローチを試行した。

モデル地域における試行展開ステップ

第1段階:本人の「今の暮らし」を、本人といっしょに情報化



●本人の言葉から ○周囲の気づきから

続けていくための 本人なりのこれからの工夫は? 続けていくための これからの周囲のアシストは?

第2段階:本人の「これからの暮らし」のための"パリアフリー"

本人起点(第1段階)による、本人に役立つ バリアフリーアクションへ



本人のよりよい暮らしへのアプローチと、地域づくりに活かすための情報化

- ・本人が日常的に関わりがある周囲の人々間の共有
 - ・本人が暮らす身近な地域で共有
 - ・地域全体の「バリアフリーアクション」へ

共通ツール化(本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート)

各プロックの行数が増え、シートが複 . 本人が「ふだんやっているこ 「楽しみにしているこ。 「行っている場所」	●「私(本人)」がふだん(朝・島	
. そのための ①「本人の習慣・工夫」 ②「今ある周囲のアシスト」		には、こんな習慣があって、こんな工夫をし らと関わりを持っていて、こんなことを一覧 ます。
①「本人の習慣・工夫」	ています。周囲のこんな人たち	らと関わりを持っていて、こんなことを

<モデル地域ワークショップ>

本事業では、「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」を共通の情報ツールとして、モデル地域で展開するためのワークショップを4地域で実施した。

矢巾町では、ワークショップを映像収録し庁内関係者及び近隣市町に提供。同様に、静岡県では、映像資料化し希望する管内市町に提供。

	地域	開催日時/場所	対象等
1	釧路市	令和3年12月24日(金) 14時~16時 釧路市生涯学習センター ■協力:釧路市介護高齢課	釧路市地域包括支援センター職員、及び管内介護サービス事業所職員、認知症地域支援関係者 近隣自治体(厚岸町・釧路町・標茶町・白糠町)地域包括支援センター職員 等
2	大分県	令和 4 年 1 月 25 日 (火) 13 時 30 分~16 時 オンライン開催 ■共催:大分県高齢者福祉 課	大分県内市町(11市3町)、地域包括支援 センター、介護保険サービス事業所等、 大分県認知症ピアサポーター(認知症の 本人)、ピアサポーターコーディネータ ー、ピアサポーター補助員 等
3	矢巾町 (岩手県)	令和4年1月26日(水) 13時30分~16時30分 オンライン開催 ■共催:矢巾町地域包括支援センター	矢巾町行政(産業観光課・企画財政課未 来戦略室/企画コミュニティ係・福祉 課・健康長寿課)、地域包括支援センタ 一、町社会福祉協議会、認知症支援ネッ トワーク連絡会、民生児童委員協議会、 コミュニティ連絡協議会、おれんじボラ ンティア、コンビニエンスストア(認知 症にやさしい店)、キャラバンメイト連絡 会
4	静岡県	令和 4 年 2 月 1 日 (月) 13 時 30 分~16 時 オンライン開催 ■協力:静岡県健康増進課	伊東市、袋井市、藤枝市、富士市の行政 職員、及び地域包括支援センター職員

プログラム

1.「本人とはじめる身近な暮らしのバリアフリー」

講義:永田久美子氏(研究班/認知症介護研究・研修東京センター)

2. 「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」実践事例

事例報告 (大分県・矢巾町・静岡県):

谷口泰之氏(モデル地域/御坊市介護支援課地域包括支援センター)

事例報告(静岡県):

横山麻衣氏(モデル地域/藤枝市地域包括ケア推進課)

- 3.情報交換等(地域ごとに実施)
 - ・グループワーク (釧路市・大分県)
 - ・全体ミーティング (矢巾町)
 - ·参加者間意見交換(静岡県)

<地域ヒアリングと映像資料の作成>

本事業では、「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」を共通の情報ツールとして試用し、認知症の本人との対話から始める取組(実践活用)のプロセスにおけるエピソード(本人の話から得られた暮らしの様子、本人の暮らしの工夫、支援者の気づき、地域づくりへのアイデア等)、及びバリアフリーシートに関する意見等について、本人 6 名を含むさまざまな立場のメンバー計 26 名から聴き取りを行い映像で記録した。

(地域ヒアリング実施順)

		①楠山 順子さん(在宅介護支援センター 名田・塩屋)
1	御坊市	②湯川 光永さん(介護老人保健施設 リバティ博愛)
		③玉置 哲也さん(在宅介護支援センター 藤田)
2	練馬区	④酒井 清子さん(練馬区社会福祉事業団地域支援課長)
	採馬丘	⑤奥村 綾子さん(田柄地域包括支援センター)
2	昭島市	⑥能任 智子さん(とうきょう認知症希望大使/本人)
3	帕馬巾	⑦間渕 由紀子さん(くらしの保健室たま)
		⑧安部 志織さん(大分県福祉保健部高齢者福祉課)
		⑨吉川 浩之さん(大分市なでしこガーデンデイサービス)
		⑩荒金 理恵さん(大分市城東地域包括支援センター)
4	大分県	⑪寺野 清美さん(大分県ピアサポーター/本人)
		①首藤 洋子さん(大分県ピアサポーター/本人)
		③大村 恵さん(大分県ピアサポーター/本人)
		⑭戸上 守さん(大分県希望大使/本人)
5	鳥取市	⑤金谷 佳寿子さん(鳥取市福祉部長寿社会課)
		⑥松井 佐恵さん(釧路市東部北地域包括支援センター)
6	釧路市	①宮嶋 奈津子さん(釧路市西部地域包括支援センター)
		⑱玉木 祐次さん(釧路市ケアプランセンターまこと)
7	釧路町	⑨岡田 遥さん(釧路町介護高齢課 地域包括支援センター)
8	厚岸町	②②谷内 健さん(厚岸町保健福祉課 地域包括支援センター)
0	净件叫	②布施 友美さん(厚岸町保健福祉課 地域包括支援センター)
9	標茶町	②西内 美都江さん(標茶町地域包括支援センター)
10	白糠町	③小松 望さん(白糠町介護福祉課 地域包括支援センター)
10	口作來叫」	④林 千恵実さん(白糠町介護福祉課 地域包括支援センター)
		⑤稲葉 知司さん(藤枝市在住/本人)
11	藤枝市	⑬横山 麻衣さん(藤枝市地域包括ケア推進課 地域包括支援センタ
		<u> </u>

(4) わがまち 認知症バリアフリー アクションガイド

A4 判、32 頁



<主な内容>

- ○本人を起点とした認知症バリアフリーアクションの考え方とポイント
 - ・認知症の本人の声を聴く、話しをする。
 - ・「困りごと」だけを聞くのではなく、今の本人の暮らしと暮らしの工夫を聞く。
 - ・「聞いておしまい」ではなく、地域の課題に目を向け、本人のよりよい暮らしに つなげるためのアクションを起こす。
 - ・介護、支援の視点だけではなく、地域づくりの視点を持つ。
- ○認知症バリアフリーアクションの地域での進め方
- ○取組事例:本モデル事業での実例

(5) 事業報告 WEB コンテンツの作成・公開

本事業で実施した「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」の実践(試用)例 及び、試用した地域のみなさんに行ったヒアリングの映像を当法人のホームページで紹介。

http://www.jdwg.org/topic-1/r3roukenjigyo/





第2章 事業経過・結果

1. 検討委員会

1)第1回検討委員会

日時:令和3年10月14日(木)15時~17時

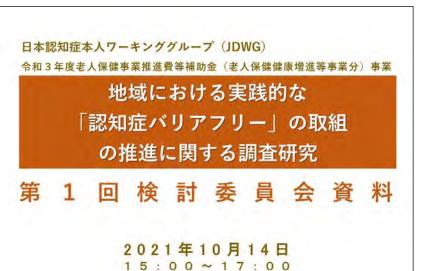
開催方法:オンライン会議

出席者:栗田委員*、酒井委員、鈴木委員、谷口委員、永田委員、速水委員、藤田委員、

鱒沢委員、間淵委員、望月委員、古澤氏(渡邉委員代理) 11名(*委員長に選出)

■研究班/事務局:宮前/鈴木、渡辺

(1)会議資料(抜粋)



オンラインミーティング

1 本日の流れ 15時00分~17時00分 開会:挨拶(事業協力への謝辞):藤田和子(JDWG代表理事) 1. 本事業の検討委員会について ここは、自己紹介で お願いします。 ・検討委員の紹介(自己紹介) ・委員長選任について 2. 事業全体説明 (事務局) 本研究事業の構成と概要・全体スケジュール:事務局 · 全国調査 ・モデル (地域試行) 事業 (試行する地域/試行展開案) 3. 検討 ① 本人起点のパリア軽減・解消による、よりよい暮らし実現 ②地域試行に関して (重要な点・課題となりそうな点) ③認知症の人の見方の転換 4. 今後の予定・その他

2. 事業全体説明

事業の背景

3

4

認知症施策推進大綱では

認知症の人も含め、様々な生きづらさを抱えていても、一人ひとりが尊重され、その本人に合った形での社会参画が可能となる「地域共生社会」に向けた取組を進めることが重要である。認知症の人の多くが、認知症になることで、買い物や移動、趣味活動など地域の様々な場面で、外出や交流の機会を減らしている実態がある。このため、移動、消費、金融手続き、公共施設など、生活のあらゆる場面で、認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていくための障壁を減らしていく「認知症バリアフリー」の取組を推進する。

認知症施策推進大制(認知症施策推進関係閣僚会議:令和元年6月18日) 第2. 具体的な施策 4. 認知症パリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援 【基本的考え方】の抜粋

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000076236_00002.html

2. 事業全体説明

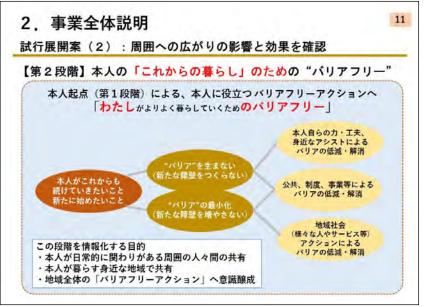
本研究事業の目的

そこで、 JDWGでは、本人の視点から 具体的に考えてみました

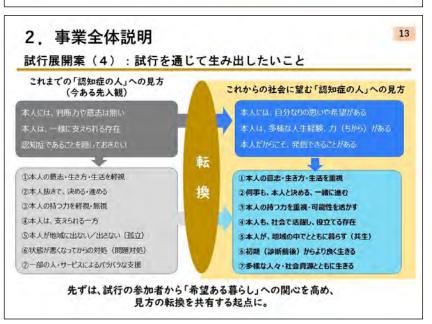
- ①全国における認知症の人本人が抱える障壁の解決に向けた取組の実態を調査するとともに、
- ②認知症の人が自ら暮らす地域の中にある障壁を本人の 視点から具体的に明らかにし、その解消のための取組 を自治体やその地域の人たち(事業体・団体・住民 等)とともに進めていくためのモデル事業を実施し、
- ③モデル事業の成果をもとに、全国で取り組むためのアクションガイド等の推進ツールを作成し、

地域における<u>本人視点にたった実践的な認知症パリアフ</u>リーを推進することを目的とする。

10 2. 事業全体説明 試行展開案(1):普段の暮らしを知ることの有用性の確認と検証 【第1段階】本人の「今の暮らし」を情報化(本人自らが参画して) 本人なりの工夫 ふだん、やっていること 便利だと思うこと 役だっていること (ケア等さまざまな場面)人ひとりの暮らしを個別 今あること 楽しみにしていること 周囲のアシスト B ●本人の言葉から(本人からの発信) 午前 ○家庭菜園の手入れは大事だ ○近所へ散歩が気分転換 ○周囲の気づきや知っていること等から ○妻と近所のスーパーで買い物、 **園でも活用が可能)** かに情報化する 午後 続けていくための ほんとはめんどくさい 本人なりのこれからの工夫は? ○テレビドラマを見る 刑事モノが好き 夜 続けていくための ○たまにピアノを弾くよ これからの周囲のアシストは? ○デイサービスでも合奏する ○農園にも行く ○釣りにも行く







(2)検討事項(委員意見要旨)

<検討点1>

本人を起点として、本人の暮らしを情報化し、地域でさまざまな領域・立場の住民等が、取組に関わる(いろいろなアクションに関わる)ことで本人の身近な暮らしの中でバリアが軽減・解消し、本人のよりよい暮らしにつながっていくことの可能性や価値について

- ○アルツハイマー病と診断された女性が、地元スポーツジムに5年通い続けたが、認知症がだんだん進み、夫と相談して、迷惑がかかるから退会を申し出たら、ジムから「認知症が進んでも通えるよう自分たちも考えるのでずっと続けてください」といわれ、その後も続けている。小さなバリアフリーの出来事かもしれないが、こうしたことがなぜ起こり始めたのか。世の中、文化が変わり始めているのではと感じた。
- ○国が官民共同でバリアフリーガイドを作り、広げているが、形としてのバリアフリーを広げると、新たな意識のバリアを作るかもしれない。今回の事業では、形優先にならないよう、すぐそこにいる人に会って、声を聞いて、その人の暮らしや安心につながる、小さくても意味のある、生きやすくなるバリアフリーを一個ずつ一緒に作ることを大事にすると、可能性や価値が広がるのではないか。
- ○特別なこととしすぎたり、大上段に構えることがバリアになる。知らず知らずのうちにあるバリアを 皆で気づき、日常生活の中で自然とクリアすることが定着すると、バリアをつくらない関係性が広 がり、バリアを自然に無くしていけるのではないか。
- ○本人が暮らしの中で感じる、やりづらさを言葉にして誰かに伝えるステップが十分でない。本人であるから気づいた小さなバリアについての発信が、まちや、次に続く人のためにもなるから、と本人の発信を強くし、発信の扉を開く事業になると、本人自身も解放されていくのではないか。
- ○皆で一緒にワインでも飲みながらやると、難しいことは何もやっていなくても、お互いの間のバリアが低くなる。(言葉で言うのではなく、お互いの間のバリアを低くするところが始まりかもしれない)
- ○一番最初にあるバリアは、自分に認知症があるということを周囲に打ち明けられるかどうか。打ち明けずに自分らしく暮らすのは難しい。「ちゃんとやってます」と言う本人もいるが、実はそのまわりで、いろんな方たちが陰ながらサポートして成り立っていることに、本人が気づいていないこともある。当たり前に、何のバリアも感じずに打ち明けられるようになったらいい。
- ○認知症の人たちの視点にどうやって一緒になって考えることができるかが、自分たちが問われる ところではないか。知らず知らずのうちにバリアになっている所が、知らず知らずのうちにバリアフ リーになっていく感じが、まちが変わっていく姿ではないか。多目的トイレも、障がい者用トイレか

ら気づかないうちに名前が変わり、いろんな人にとってトイレのバリアがなくなった。この事業は、 バリアフリー社会にしていくためのきっかけづくりになればいい。

- ○バリアフリーが大事だと理屈ではわかっていても、家族は、本人がしっかりしていた時の姿をよく わかっているだけに、先回りしたり、保護する方向になってしまう。人に迷惑をかけてはいけな い、と社会から遠ざかる方向に行くこともある。いろんな経験をともにして、本人も家族も自信がな くなる。気づくことで本人が変わり、それによって家族も変わっていくと思うので、気づく機会をま わりでどうつくるか。是非家族も一緒に入れながらやってほしい。民間業者がバリアを下げてくれ た話があったが、家族も本来はそういうことを願っていたと思う。
- ○AI や ICT 等でまちづくり(スーパーシティ構想)を進めているが、高齢者が今まで出来ていた事が出来なくなるという逆転現象が起きている(レジ:現金払いはできたがチャージ支払いはできない、電話:ガラケーならできていたがスマホではできない、巡回バス:デマンド運行となり予約して家まで来てもらうのができない等)。こうした方が多く、福祉の部署だけではすまない状況。関係機関と連携して、便利になるはずのもので不便になっている人を取り残さない働きかけができたらいい。
- ○当事者の声を聞かずに行政主導で考えて、使いづらく、結局使われずに終わってしまうパターンが繰り返されてきたのではないか、と行政職員として感じる。住民へわかりやすく説明しよう、全て話そうとして、くどくなって結局伝わらなかったり、話が終わらないこともある。自分の反省も踏まえ、本人からの声をきいてシンプルにやることが、今回の事業のとっかかりとしていいのではないか。
- ○本人と一緒に交通機関を利用した人から、IC カード類は自分で用意して使っていたが、乗り継ぎの駅では手伝ったという話を聞いた。自分が直接さいていないので、それがバリアだったかわからない。暮らしの中でできることできないことは、ちゃんと本人の声をきかないとわからないと思う。
- ○本人に、普段困っていることを時間をかけて聞いた時、「ATM が使えない、操作を間違えた時に後ろに並ばれると緊張する、でも時間をかければいける」という話があった。困ってる点は細分化されていて、ゆっくりやる ATM コーナーがあればいいとか、ちょっと考え方を変えるだけでふだんの生活が楽になるのではないかと感じた。自分も何百人の前で話せといわれたら緊張すると思う。本人の思いを聞く時も、大々的な場ではなく、信頼関係を築きながら自分のことを話してもらうことが大切だと思った。
- ○行政計画に本人の思いを反映させようと、本人に意見を聞く機会が多いが、困りごとはありますかと直接的に聞くと「考えたことなかった」と言われることが多い。本人ミーティングや、ちょっと会ったときに話すと、PASMO やレジの話が出てきた。本人は「言っていいのかな」という思いがまだ

強く、行政に言ってもらえると解決できるところもあるが、本人が諦めてしまうという声も聞いた。本 人が言った言葉を周りがどう拾い上げて展開していくかも大きいと思う。

○先日のケアパス会議で、行政がわかりやすくしようとどんどん情報を入れて、本人にどう思うかきいたら、診断直後に見る気にならないのでこれは使えませんといわれてしまった。本人目線は、本人の意見をゆっくりきかないと、反映というところまでは難しいと感じた。

<検討点2>

試行において、各地域の共通事項として、重要と考えられる点・課題となりそうな点、本事業へ取組むことを通じて、認知症の人への見方を"転換する"きっかけにできると考えるか。

- ○「本人を起点として」がとても重要だと思う。本人はこういうことに困っているからという視点ではなく、個人を起点として暮らしを情報化し、そこからなにを展開して、暮らしやすい、バリアフリーにしていくのかを、各地域で考えながら、いろんな人とつながって試行錯誤して積み重ねていけば、見方を転換することにつながると信じている。
- ○試行地域の方たちの、本人の声を起点としているかについて、もし現段階でそうでなければ、ちょっと見直してもらったり、逆に本人の声を起点とせずに進めてしまったことがあればその現実を発表してもらうのもありではないか。認知症の人は、と大雑把にひとくくりにした視点で、こうしたらバリアフリーになるという考え方を広めたいとは思わない。本当はこれまでも本人は声を出していたと思うが、その声を拾って展開することがなかったのかもしれない。今は本人の声を起点として、いろんなことを変えている途中と思うので、この事業を通じて、さらに深まっていったらいいと思う。
- ○自分の家で認知症の方達と一緒に楽しむ女子会や鍋パーティー等をやっていて、毎日の認知症カフェにも、認知症の方が半数ぐらい、元気な人も高齢者も若い人も来る。認知症に対して、人が一番のバリアというものが私の友達にもあったが、家に来て一緒にトランプをしていると、お互い様ということが分かる。この地域が少しでも認知症の人といっしょに生活する風土ができないかなと、一緒に楽しみながら、仲間を増やしている。私たちは小さなチカラなので、少しずつこんなことをしてよくなったよと、行政が理解してもらえるよう、ちょぼちょぼとやっていければいいと思う。
- ○何かを変えていく最初の起点にあるのは、一緒に楽しんで過ごすことではないか。一緒にワインを飲んだり、音楽聞いたり、そういうことなしに、なかなかバリアは変わらないだろう。同じ体験を共有することが大事。自分も、困りごとないですかといわれても、しゃべれないよと思う。チームを作る前に、ちゃんと本人の声をきくということは、この委員会で2015年からやってきたこととで、こうした基礎が大事と思う。

○行政のフォーメーションづくりについて、当市では、庁内全部の部署から一人ずつ参加する、認知症施策庁内連携会議がある。コロナ禍で集合開催はできていないが、情報共有は、すぐに共有できるチャットを利用している。消防士から、救急搬送の要請の現場で、認知症の方と接することが多いが、本人の言うことがコロコロ変わり、状態が全然つかめなくて困ったり、あとで家族から謝られることもあって、そのことや迅速に救急搬送できなかったことが悔しいという熱い声があった。行政にはバリアだらけといつも思っているが、行政のバリアを取り除くにも、本人が発する言葉にヒントがあるのではないかと思う。この事業で庁内連携会議も活用しながら、行政の中のバリアもとっていけたらいい。

2)第2回検討委員会

日時:令和3年12月20日(木)15時~17時

開催方法:オンライン会議

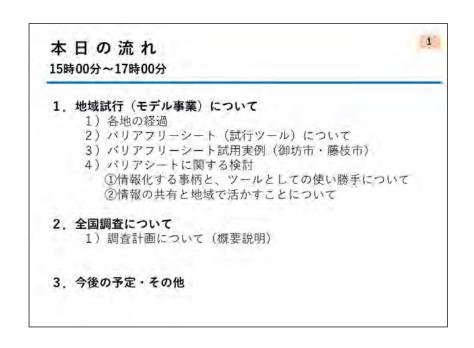
出席者:栗田委員長、安部委員、酒井委員、鈴木委員、谷口委員、永田委員、速水委員、藤田

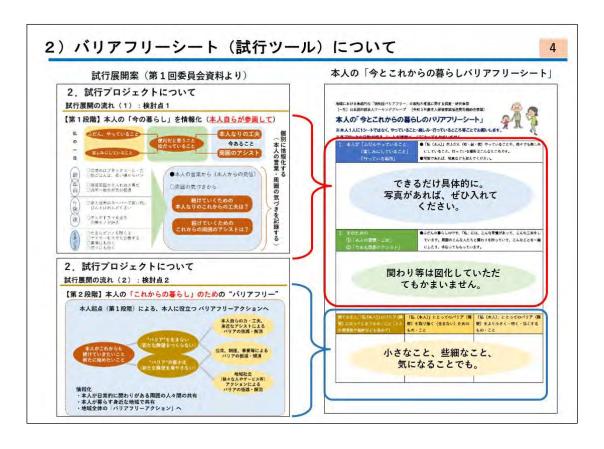
委員、鱒沢委員、間淵委員、望月委員、渡邉委員 12名

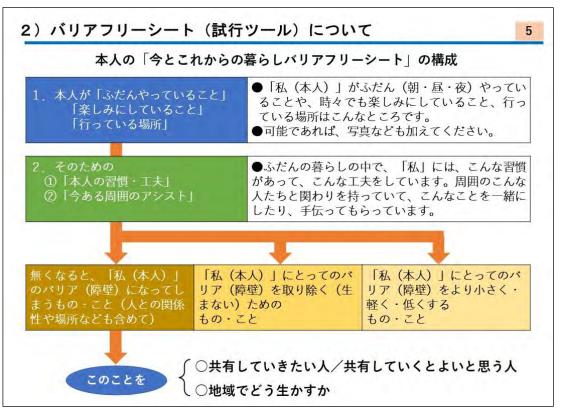
■研究班/事務局/オブザーバー:宮前、小森/鈴木、渡辺/中島(日本福祉大学)

(1)会議資料(抜粋)









(2)検討事項(委員意見要旨)

<バリアフリーシートに関する検討>

- ①情報化する事柄と、ツールとしての使い勝手について
- ②情報の共有と地域で活かすことについて

改善点等	理由	提案
最初みたときに、とまどった。	これだけをぱっと渡されて、難し	
	く考えてしまった。	
【本人と取り組む人が】	埋めようとしてしてしまうため。	本人がどう取り組むか、もしくは本
こちらから答えを出してしまった。	「なにもない」といわれると、焦っ	人と一緒にどう取り組むか、工
・聞き出すことに、重きをおいてしま	てしまう。	夫が必要では
った。		
【本人と取り組む人が】	地域の課題について職員が思っ	ここ3(段目)を先にみると、ここに
・3段目で、職員的・教育的な視点に	ているほうに、あてはめてしま	向かってなにかを聞き取ろうと
切り替わってしまった。	う。	するかもしれない
・現状維持のためのシートになって	夢や希望に向かっている方向性	
いるような気がした。	のものを書くところがない。	
発展していくところが見えなかっ		
た。		

改善点等	内容
シートの名称	(バリアフリーがうたってあると)
	・結果・答えを重視したり、そうした印象をもってしまう。
	・むずかしく考えてしまい、本人はなにを答えていいのかわからなくなる可能性が
	ある。
シートの目的	バリアが何かを探るのではなく、「自分(本人)の暮らし」は何だろうと本人もまわりも
	確認することで、やってみたいことにつながるシートになるとよい。
シートの構成・内容	・3段目の「バリアになってしまうこと、・・」は最後に分析、という認識がもてる工夫が
	必要。1段目・2段目とわけてもよい。
	・3段目をわかりやすい文章へ。まずは知ろう、というサジェスチョンが必要。
	・3段目を、本人の感じることと、サポートする側・専門職の視点を分けて記入でき
	るとよい。(知識のある専門職や、いろいろなかかわりをもつ人の視点も大事)
	・ねらっていること・大事なことが、具体事例をとおして伝わるといい。
シートへの取り組み	・「今の生活を継続したい、今のままでずっと続けたい」の声があり、それを一人一
	人ひも解いているが、これを阻害するするものがなにかと考えたらいい。
	・【本人と取り組む人が】まずは自分が本人になって自分のことを書いてみると、う
	まくいくのでは。
	・本人と一緒に活動して一緒に使ってみるとよいのでは。

- ・埋めるのではなく、本人と話をしていく中で、埋められるものを埋めて作り上げる イメージで使うと使いやすいのではないか。
- ・範囲が大きい分何を書いてもよいと考えたら、書きやすくなった。
- ・通り一遍に「楽しんでいたことは何、いつも行っていたところは何」だけでは、御坊 や藤枝のような話は出てこない。
- ・それまでの生活を、初期段階で大切にしながら備え、できなくなることが増えてきてもできるだけ大切にするということを、支援者側が学ぶシートにもなるのではないか。
- ・まずは本人と一緒に楽しくしゃべろう、今と未来を一緒にしゃべろう、として、それ を落とし込むのがよいのでは。録音して文字化する最新ツールの活用もよい。

シートで得られた情報の活かし方

- ・得られる情報は、みんながよく知らなかったこと。自治体の中で共有したり、身近な人に知ってもらうだけでも、認知症フレンドリーな社会環境を作っていくために、 意味がある。
- ・本人の生活の具体を知ることで、難しくなってきたらこうすればいいという準備ができる。

<バリア・バリアフリーについて>

- ○今のあたりまえの暮らしが続けられたらいいなということが、本人である自分の願い。新しい夢や希望をもつ人もいるかもしれないが、ささやかなものもある。
- ○(本人である)自分の得意なことが2つあって、1つは日本のワインの良さをみなさんに伝えていきたい。あとは 私のマンドリンをきいて喜んでいただける人がいたら、それだけでハッピー。 すごく単純なこと。
- ○専門職の先入観とそれに基づいて導入された支援やサービス自体がバリアになることもあることに気づかされた。このことはいろいろな形で共有した方が良い。
- ○先入観はキーワードとして大きい。
- ○先入観をもつことがよくないとわかっていても、やってしまうことがある。今回の試行を通じて見えてきたことを活かすことで、わかっているのにやってしまうことからは、すこし違う方向へいけるのではないか。
- ○この事業は、平成 27 年からずっと、本人と対話する大切さがテーマだった。今回のバリアフリーというテーマでも対話がポイントであると思う。
- ○本人とかかわっている人や、場合によっては本人も自分自身が先入観をもっていることもある。心のバリアもある。 る。意識面・文化面のバリアフリーを今回出せれば、大きな実証の一つになるのではないか。

3)第3回検討委員会

日時:令和4年3月4日(金)15時~17時

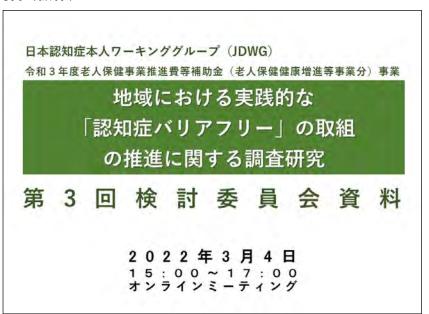
開催方法:オンライン会議

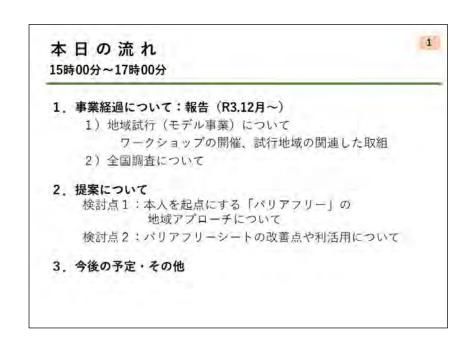
出席者:栗田委員長、安部委員、酒井委員、鈴木委員、谷口委員、永田委員、速水委員、藤田

委員、鱒沢委員、間淵委員、望月委員、渡邉委員 12名

■研究班/事務局/オブザーバー:宮前、小森/鈴木、渡辺/中島(日本福祉大学)

(1)会議資料(抜粋)





1. 事業経過について

2

1) ワークショップの開催

地 域	概要
1. 釧路市 (北海道)	日時:令和3年12月24日(金)14時~16時 場所:釧路市生涯学習センター 多目的ホール 協力:釧路市介護高齢課 対象/参加者:釧路市地域包括支援センター、及び市内事業所職員 釧路市周辺地域の認知症施策等関係者等 約30名
2. 大分県	日時:令和4年1月25日(火)13時30分~16時場所:オンライン開催 共催:大分県高齢者福祉課 対象/参加者:管内市町村(行政)及び地域包括職員、 認知症ピアサポーター及び関係者約40名
3. 矢巾町 (岩手県)	日時:令和4年1月26日(水)13時30分~16時 場所:オンライン開催 共催:矢巾町地域包括支援センター 対象/参加者:町行政、社協、地域関係者、地域包括職員 約20名
4. 静岡県	「バリアフリーシート活用の利活用に係る勉強会」として実施 日時:令和4年2月1日(月)13時30分~15時 場所:オンライン開催 対象/参加者:県内の本人参画事業実施地域 (4市町の行政・認知症地域支援推進員)

各地のワークショップ・勉強会は、共通した資料で実施しました。 同送の別添資料をご参照ください。

2. 提案について

22

検討1:本人を起点にする「バリアフリー」の地域アプローチについて

地域への提案アプローチ	ポイント
1. 先ずは、本人の日々の暮らしを知る	日々の暮らしを知る ・先ずは本人に聞く ・本人の言葉をヒントに周囲の人に聞く ・本人と一緒の行動してみる ・スマホ等で録音や記録できると便利(→情報化)
2. そして、本人の暮らし情報を共有	本人から聞いたこと等の記録、承諾を得て情報化し、 関係者で共有する。 ・日々の暮らしの様子 ・本人なりの工夫 ・多様な立場・領域とも、適宜適切に共有 → 新たなこと・人へつながる
3. 本人のよりよい暮らしへつなぐ	地域でよりよく生きること(共生実現)へのスタート・今の暮らしをできるだけ長く続けていくための資源機会、場を得る・やってみたいことへチャレンジできる資源、機会、場を得る・専門職の先入観とそれに基づいて導入した支援がパリアになることもある。・本人自身の心にパリアがある場合がある

23

2. 提案について

検討2:バリアフリーシートの改善点や利活用について

第2回委員会時の意見等から

改善点等	理由	討議から
最初みたときに、とまどった。	これだけをぱっと渡されて、難し く考えてしまった。	
【本人と取り組む人が】 ・こちらから答えを出してしまった。 ・聞き出すことに、力を入れてしまった。	・埋めよう、としてしまう。 ・「なにもない」といわれると、 焦ってしまう。	本人がどう取り組むか、または本人と一緒にどう取り 組むか、工夫が必要では
【本人と取り組む人が】 ・3段目で、職員的・教育的な視 点に切り替わってしまった。	職員が思っている地域の課題に、 あてはめてしまう。	ここ(3段目)を先にみる と、ここに向かってなにか を聞き取ろうとするかもし れない。
・現状維持のためのシートになっ ている気がした。 ・発展していくところが見えな かった。	夢や希望に向かっている方向性の ものを書くところがない。	

24

改善点等	内容
シートの名称 (変更)	(バリアフリーが名称にあると)・結果・答えを重視したり、そうした印象をもってしまう。・むずかしく考えてしまい、本人はなにを答えていいのかわからなくなる可能性がある。
シートの目的	・バリアが何かを探るのではなく「自分(本人)の暮らし」は何だろう、と本人 もまわりも確認することで、やってみたいことにつながるシートになるとよい。
シートの構成・ 内容	 ・3段目の「バリアになってしまうこと、・・」は最後に分析、という認識がもてる工夫が必要。1段目・2段目とわけてもよい。 ・3段目をわかりやすい文章へ。まずは知ろう、というサジェスチョンが必要。 ・3段目を、本人の感じることと、サポートする側・専門職の視点を分けて記入できるとよい。(知識のある専門職や、いろいろなかかわりをもつ人の視点も大事) ・ねらっていること・大事なことが、具体事例をとおして伝わるといい。
シートで得られ た情報の活かし 方	・得られる情報は、みんながよく知らなかったこと。自治体の中で共有したり、 身近な人に知ってもらうだけでも、認知症フレンドリーな社会環境を作ってい くために、意味がある。 ・本人の生活の具体を知ることで、難しくなってきたらこうすればいいという準 備ができる。

改善点等	内容
シートへの取り 組み	 「今の生活を継続したい、今のままでずっと続けたい」の声があり、それを一人一人ひも解いているが、これを阻害するするものがなにかと考えたらいい。 【本人と取り組む人が】まずは自分が本人になって自分のことを書いてみると、うまくいくのでは。 ・本人と一緒に活動して一緒に使ってみるとよいのでは。 ・埋めるのではなく、本人と話をしていく中で、埋められるものを埋めて作り上げるイメージで使うと使いやすいのではないか。 ・範囲が大きい分何を書いてもよいと考えたら、書きやすくなった。 ・通り一遍に「楽しんでいたことは何、いつも行っていたところは何」だけでは、御坊や藤枝のような話は出てこない。 ・それまでの生活を、初期段階で大切にしながら備え、できなくなることが増えてきてもできるだけ大切にするということを、支援者側が学ぶシートにもなるのではないか。 ・まずは本人と一緒に楽しくしゃべろう、今と未来を一緒にしゃべろう、として、それを落とし込むのがよいのでは。録音して文字化する最新ツールの活用もよい。

(2)検討事項(委員意見要旨)

<検討点:本人を起点にする「バリアフリー」の地域アプローチについて>

①本人を起点にすること

- ○まずは本人に聞くことだが、聞き方も大事。2、3人の本人同士が話をするのを、少し周りで聞くのがいいのか。いわゆる一対一のインタビューや、3人ぐらいで一人の本人を取り囲んで聞くと、本人の本音はあまり出てこないというのは、これまでいろんな本人のミーティングを経験して感じた。
- ○支援する人支援される人という関係性の中でのインタビューとはちょっと違う、違わなきゃいけない、いわゆる ケアマネジメントとは違う、という視点がとても重要。専門職は、専門職としての先入観や、アセスメントするこ とが目的化してしまうことが起こりがちだが、こうしたアプローチでは、心構えが全然違うということが必要と思 われる。
- ○本人にインタビューする人は必ず「困っていることは何ですか」から始まる、という話を以前から聞き、それは良くないとだんだん意識されるようになってきたが、今度は「やりたいこと、やってみたいことはなんですか」と最初から聞かれ、やはり唐突だという話もきく。日々の暮らし・生活について、本人にも「工夫」ということを意識してなかったりする。起点として、まずは、いわゆる日々の暮らしを「知る」ということから始めることが大事ではないか。

- ○試行にあたり、まずは自分で書いてみた方が書きやすくなるかなと自分で自分のシートを書いてみた。自分の暮らしでも、自分のやりたいことに家族の理解がない等、いろんなバリアに気づいた。こうしたことを繰り返すと、アセスメントではなく、その人の暮らしぶりをちゃんと見れるようになるのではと思う。まずはこのシートを行政職も専門職も、一度自分でやってもらうといいのかなと思う。
- ○本人のバリアや暮らしぶりを知ろうと色々考えてくださって、本人に聞こうとするのはいいが、まずは自分の暮らし、自分のことを書いてみたというのはいいと思った。専門職や本人に関わる方は、仕事として、こうしなければいけない作業として、シートを埋めることに力を入れようとするかもしれない。シートに取り組むことで、本人も気がつかない、自分の暮らしぶりを振り返れるし、ちょっと一緒に、自分はこうだけど、あなたはどうみたいな感じで、一緒に考えるような関わりをしてくれると、本人もどんどん、あ、そうだそうだ、と出てくるのかもしれない。認知症の人だから、してあげる、聞き出そうではなく、一人の人として、この人の暮らしはどうなんだろう、ときくことで、少しずつやりたいことや必要なことが見えてくる、そんなアプローチの仕方をみんなで考えていけたらいいと思う。
- ○精神医学のドイツの教科書に、精神科の医師は、医師であると同時に、一人の友人でなきければいけない、そういう二つの顔を持っていないと精神医学はできないと書いてある。精神科の医師として話をきくと本人の本当の思いをきけない、一人の友人として相対する態度を持っていなければいけない、とあって、先ほどの話のようなことがシートの冒頭にうまく書いてあると良いのでは。
- ○自分はこんな感じだけどあなたはどうですか、ときくのと、単純にあなたはどうですかと聞くのとでは違う。回答例、記載例がないと、聞かれたほうも答えにくい。認知症があるかに関係なく、ふだんの会話でも、質問責めにあうと答えにくいし、自分がどういう生活をしていますかと聞かれても答えが出てこないこともある。ニュアンスが違って伝わると危ないかもしれないが、ふだん本人と接しているケアマネや包括職員が、押しつけ・決めつけ・型にはめるのではなく、こういったことが楽しそうにみえますよ、好きですかと、例のように提示して、話を伺うのも方法としてはありではないか。職業、接し方、立場によって、シートの見方も変わってくると、ワークショップをやり、アンケートを見て感じた。職種や立場にあわせて提案する形が、より分かりやすく使いやすくなるのではないか。
- ○バリアフリーの研修会参加者から、谷口さんの事例が参考になったとあった。行政職員や推進員は、本人の 意見を聞いて一緒に取り組むことは、いろんな研修で聞いて意識しているが、それをどう地域につなげてい くか悩んでいて、いろんな事例をもっと聞きたいという声が多かった。今回のような研修会や、なんらかの形 で他県の事例も聞けたら、アプローチがより具体的になるのではと思う。
- ○本人の暮らしの情報共有について、なんのために情報を共有するのかを見落とさないようにしてほしい。何かやりたい事があり、それに対してしづらいことを、少しでも壁を低くしたり、なくすために、必要な人に繋いで、その人の暮らしが豊かになる、安心できる、そのために情報共有が必要だと考えてほしい。あまり四角四面に考えず、今まで全くかかわっていなかった人たちも、実は共有した方がいいと思ったら共有していくような、多様な立場、適宜適切に柔軟に共有することが大事だと思う。本人としては、人と繋がるために、私

の情報を開示しますという感じなので、そういうことをちゃんとふまえておかないと、変なことになり、バリアフリーに向かっていかないと思う。

- ○一歩間違えるとバリア作りになる危険もあるので、シートの2の記載方法は、工夫が必要。バリアフリーに向けて、関係する人たちで、バリアに関する情報を共有しよう、バリアフリーにむかって行動していこう、ということにフォーカスを当てた記載を、見出しでしっかりしておいた方がいいと思う。
- ○暮らしの情報は、あなたが暮らしやすくなるためだが、本人自身が知って欲しいと思うことと、知られたくないことは当然あるから、本人が周りには知っといてほしいというのをはっきりさせる。そうしないとこの共有というのが、えっ、ということになりそうな気がする。ある意味、自分の色んな事をさらけ出すと言うことになるわけだから、書き方の表現も難しいし、共有することを前提で話を聞くけれど、共有されたくないことははっきり言ってねということもちゃんと保証しておかないといけない。
- ○「承諾を得て情報化し関係者で共有する」ではちょっと言葉足らずではないか。本人がまわりの人に知って もらいたいことを確認して、それを皆で共有していくというニュアンスがここにないと、個人情報の共有みたい に見えてしまうので、表現に配慮しなくてはいけない。

②「より良い暮らし」

- ○「より良い暮らし」は、なんとなく分かるようでわからない。本人が、より良いと思ってる暮らしと、周囲の人がより良いと思ってる暮らしは、差があることが多いかもしれない。より良い暮らしといわれた時に、これは本人にとってより良い暮らしか、まわりの人に知ってほしい情報か、きちんと毎回本人と話し合って考えるべきなのか、ある程度周囲の人達が推測をしてもいいのか。
- ○「より良い暮らし」は、本人にとってのより良い暮らしと思うが、周囲の人が本人にとってより良いと思ってる暮らしは、なにか違う気がする。今の暮らしがダメと思っているわけではなくても、今よりもっと楽しく、今よりもっといろんな経験ができる、だろうか。本人になってから、経験することが減っていくような気がしている。経験が少なくなると、自分の残された機能を使う機会も減って、持っている機能さえ落ちていく感覚もある。今で満足だねと周囲の人が決めちゃうのはダメと思う。本人は、どういう楽しいことがあるかわからなくても、こんな楽しいことがある、やってみようよとすると楽しいということにも出会える。ものすごく環境を整えるのではなくても、ちょっと新しい経験ができる、新しい人と出会って楽しく話ができた、新しい場所に行ってみる、また行ってみたいと思っていた場所に行くことができる、こんなのも、より良い暮らしと思う。常にできなくても、やってみたいことにチャレンジできる資源、機会を得ることが、より良い暮らしに近づくのではないか。○困った時に、自分は、楽器という、逃げる先がある。楽器を弾き始めると、それでしばらくすると、気になってたことも、そんなに問題じゃなくなってきたり、そういう意味では、便利だなと思っている。そういうこと自体がより良い暮らしなのかもしれない。
- ○今できていることが継続し続けることができるというのも、より良い暮らしが継続できていることにつながるのではないかと思う。

○共生実現につながるかよくわからないが、身近なこと、日々のことを楽しめるといったことを含めて、より良く 生きれるということを意味している。今が不満だという意味ではなく、今のより良い暮らしを継続できることが、 より良い暮らしである、ということをうまく説明する言葉があるといい。ここに深い意味があることがよくわかっ た。

<全体を通じて感じたこと>

- ○認知症の方が頻繁にくらし保健室に来るが、保健室機能は、生活の中に入り込むことできるので、困っていることや工夫が如実にみえてくる。公園に行ったり、ゲームしたり、ほとんど一緒に取り組むので、お互いさまとか、友達感覚で一緒に生活できればいいかなと思う。
- ○私はあまり自分の情報を知られたくないので、こういうのを書くのは嫌。 きっとそういう人もいるだろうと思う。 そういう方から、どのように私たちがお話をきいていけるのか、今後考えていきたい。
- ○後段の、日々の暮らしを知るというところと、より良い暮らしにつなぐ、そこの2つがキーワードかなと思う。真ん中の共有はなくても、残りの2つだけでも、すごくシンプルでいいのではと思った。
- ○本人がチャレンジできる関係性と、環境が大事だとあらためて思った。個の関係と、地域とをどう展開していけるか、この研究事業で一つずつ具現化したり、形にしていただけていると感じた。
- ○本人にとってのより良い暮らしについて、具体化する機会がなかった。今回の取り組みが、こういうことをす すめていくときの、とてもわかりやすい切り口になるのではないか。
- ○バリアフリーに取り組もうという目的が設定されて、話し合いをしたり、本人かきいても、話し合うこと自体の姿勢や在り方が、仕事モードだったり、本人が対象者のような関係で話し合われたり、本人ぬきの話し合いがされていたりすると、いろんなプロセスで具体があっても、結局は生み出されるものが、前と同じになり、みんなの負担だけが増える。ともに対話して、一緒につくる。本人とともにより良い暮らしと地域をどうつくるか、話し合う在り方も変えていくことが必要で、これを提案したい。
- ○大事な点は、今までどおりに暮らせることがどれだけかけがえのないことなのか。やりたいことができない状態をつくったり、わくわくする新しい体験の情報がだれからも入らなくなったり、自分が今大事にしている暮らしが損なわれないように、今あるバリアを取り除くだけではなく、新しくバリアができないことも、認知症の人にとって、とても大事なバリアフリーではないかと思う。

2. 認知症バリアフリー全国調査

1)調査概要

(1)調査対象

•都道府県:47

•市区町村:1,741

・認知症疾患医療センター:488

(2)調査時期

令和3年12月~令和4年3月

(3)調査方法

電子メールによる調査票送付と回収。

都道府県調査は、各都道府県認知症担当課に電子メールにて調査票を送付、回答回収。 市区町村調査、認知症疾患医療センター調査は、全都道府県から実施協力を得て、調査票を 都道府県から各対象に送付後、研究調査用メールアドレスにて、各対象から回答ファイルを 直接回収。

(4)回答数(回答率)

区分	回答数	回答率
都道府県 (47)	42	89.4%
市区町村 (1,741)	878	50.4%
認知症疾患医療センター (488)	224	45.9%

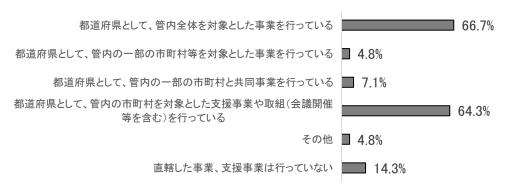
2)調査結果概要

(1)都道府県

問1 認知症バリアフリーに関連した事業(※)の取組状況について

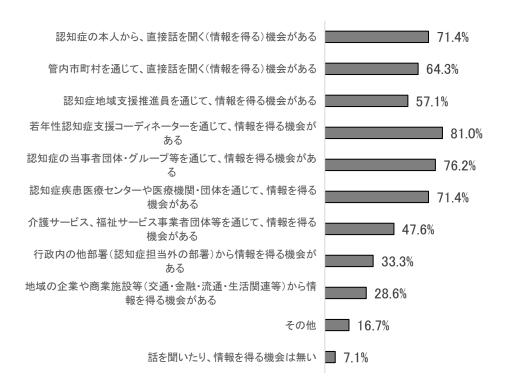
※「認知症施策推進大綱(令和元年6月18日、認知症施策推進関係閣僚会議)」に示された「認知症のバリアフリーの推進に関連した取組」

N=42(複数回答)	回答数	%
都道府県として、管内全体を対象とした事業を行っている	28	66.7%
都道府県として、管内の一部の市町村等を対象とした事業を行っている	2	4.8%
都道府県として、管内の一部の市町村と共同事業を行っている	3	7.1%
都道府県として、管内の市町村を対象とした支援事業や取組(会議開催等を含む)を行っている	27	64.3%
その他	2	4.8%
直轄した事業、支援事業は行っていない	6	14.3%



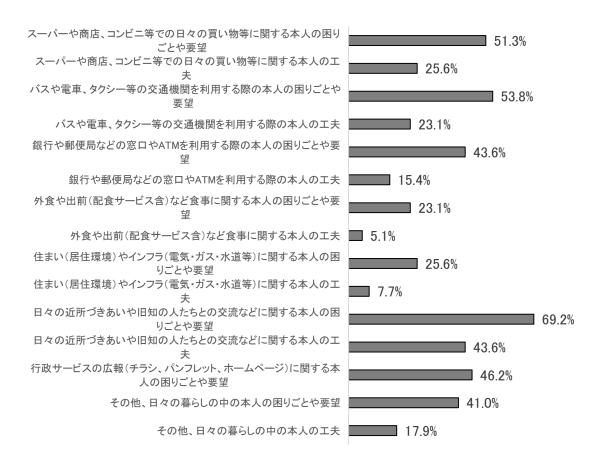
問2 自地域に住んでいる認知症の人の日ごろの暮らしの様子について、認知症施策担当者が情報を得る機会がありますか。

N=42(複数回答)	回答数	%
認知症の本人から、直接話を聞く(情報を得る)機会がある	30	71.4%
管内市町村を通じて、直接話を聞く(情報を得る)機会がある	27	64.3%
認知症地域支援推進員を通じて、情報を得る機会がある	24	57.1%
若年性認知症支援コーディネーターを通じて、情報を得る機会がある	34	81.0%
認知症の当事者団体・グループ等を通じて、情報を得る機会がある	32	76.2%
認知症疾患医療センターや医療機関・団体を通じて、情報を得る機会がある	30	71.4%
介護サービス、福祉サービス事業者団体等を通じて、情報を得る機会がある	20	47.6%
行政内の他部署(認知症担当外の部署)から情報を得る機会がある	14	33.3%
地域の企業や商業施設等(交通・金融・流通・生活関連等)から情報を得る機会がある	12	28.6%
その他	7	16.7%
話を聞いたり、情報を得る機会は無い	3	7.1%



問3 どのような情報を得ることがありましたか。(問2で「情報を得る機会は無い」以外に該当した方)

N=39(複数回答)	回答数	%
スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物等に関する本人の困りごとや要望	20	51.3%
スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物等に関する本人の工夫	10	25.6%
バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する際の本人の困りごとや要望	21	53.8%
バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する際の本人の工夫	9	23.1%
銀行や郵便局などの窓口や ATM を利用する際の本人の困りごとや要望	17	43.6%
銀行や郵便局などの窓口や ATM を利用する際の本人の工夫	6	15.4%
外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の困りごとや要望	9	23.1%
外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の工夫	2	5.1%
住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の困りごとや要望	10	25.6%
住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の工夫	3	7.7%
日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の困りごとや要望	27	69.2%
日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の工夫	17	43.6%
行政サービスの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する本人の困りごとや要望	18	46.2%
その他、日々の暮らしの中の本人の困りごとや要望	16	41.0%
その他、日々の暮らしの中の本人の工夫	7	17.9%



問4 以下に関する本人の希望をきいたことがありますか。

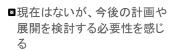
N=42(複数回答)	回答数	%
本人が行きたいところややりたいことについての、本人の希望	33	78.6%
地域の中での集まりや楽しみについての、本人の希望	27	64.3%
就労についての、本人の希望	28	66.7%
医療機関や介護サービスについての、本人の希望	26	61.9%



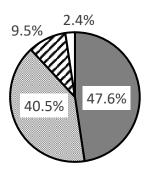
問5 本人の暮らしの様子に関して得られた情報をもとに、都道府県としての認知症施策や関連事業に活か す取組がありますか。

	全体	
(回答数)	42	
ある	20	47.6%
現在はないが、今後の計画や展	17	40.5%
開を検討する必要性を感じる		40.5%
取組は無いが、関連する担当部		
署や管内市町村等に、情報提供	4	9.5%
(共有)を行っている		
無い	1	2.4%

■ある



- ■取組は無いが、関連する担当 部署や管内市町村等に、情 報提供(共有)を行っている
- □無い



問6 本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、介護保険事業支援計画等に活かしていますか。

		全体	
	(回答数)		42
活かしている		29	69.0%
活かしてはいない		13	31.0%

■活かしている

□活かしてはいない



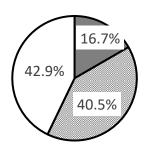
問7 本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、都道府県の他部署や関連組織(交通機関、警察等)と の連携による地域づくり事業等に活かす取組はありますか。

	全体	
(回答数)	42	
ある	7 16.7%	
取組は無いが、適宜、庁内や関		
連組織に情報提供(共有)を行っ	17	40.5%
ている		
無い	18	42.9%

■ある

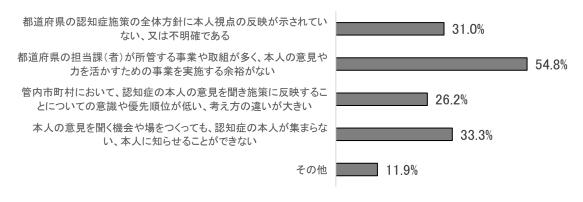
■取組は無いが、適宜、庁内 や関連組織に情報提供(共 有)を行っている

回無い



問8 「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、課題と感じていることを教えてください。

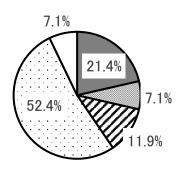
N=42(複数回答)	回答数	%
都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である	13	31.0%
都道府県の担当課(者)が所管する事業や取組が多く、本人の意見や力を活かすための事業を実施	23	54.8%
する余裕がない	23	34.0%
管内市町村において、認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての意識や優先順位が	11	26.2%
低い、考え方の違いが大きい	11	20.2%
本人の意見を聞く機会や場をつくっても、認知症の本人が集まらない、本人に知らせることができない	14	33.3%
その他	5	11.9%



問9「認知症施策推進大綱」では、都道府県における「地域版認知症本人大使(希望大使)」の創設に言及しています。 貴都道府県における大使の創設状況について教えてください。

	全体	
(回答数)	42	
既に創設している(今年度	9	21.4%
内の創設を含む)	ภ	21.4%
次年度(2022年度)創設予	0	7 10/
定で計画している	3	7.1%
時期は不確定だが、創設を	5	11.00/
具体的に計画している		11.9%
創設について、今後検討を	00	52.4%
行っていく	22	32.4%
検討や計画を行う予定はな	3	7.1%
l)	3	7.170

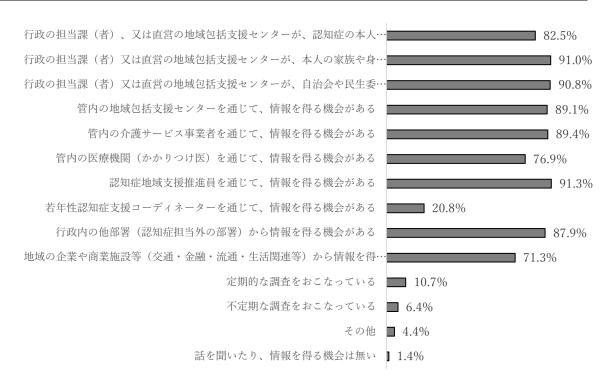
- ■既に創設している(今年度内 の創設を含む)
- ■次年度(2022年度)創設予定 で計画している
- □時期は不確定だが、創設を具体的に計画している
- ■創設について、今後検討を 行っていく
- □検討や計画を行う予定はない



(2) 市区町村

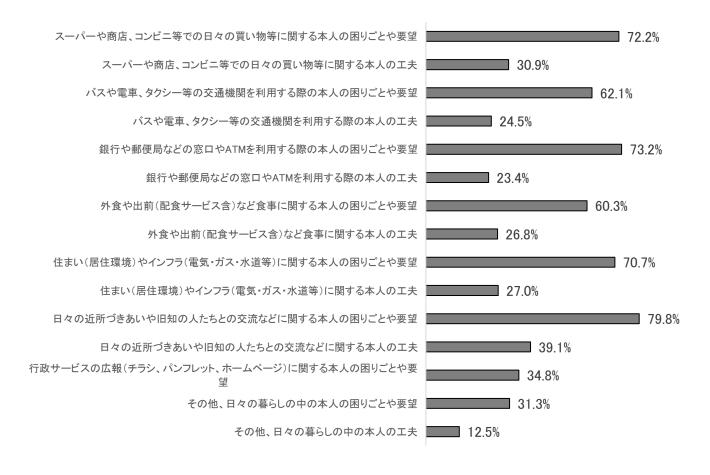
問1 自地域に住んでいる認知症の人の日ごろの暮らしの様子について、行政担当者が情報を得る機会がありますか。

N=878(複数回答)	回答数	%
行政の担当課(者)、又は直営の地域包括支援センターが、認知症の本人から、直接話を聞く機会がある	724	82.5%
行政の担当課(者)又は直営の地域包括支援センターが、本人の家族や身近な人から、直接話を聞く機会が	799	91.0%
ある	799	91.0%
行政の担当課(者)又は直営の地域包括支援センターが、自治会や民生委員、近隣住民の方等から、直接話	797	90.8%
を聞く機会がある	797	90.6%
管内の地域包括支援センターを通じて、情報を得る機会がある	782	89.1%
管内の介護サービス事業者を通じて、情報を得る機会がある	785	89.4%
管内の医療機関(かかりつけ医)を通じて、情報を得る機会がある	675	76.9%
認知症地域支援推進員を通じて、情報を得る機会がある	802	91.3%
若年性認知症支援コーディネーターを通じて、情報を得る機会がある	183	20.8%
行政内の他部署(認知症担当外の部署)から情報を得る機会がある	772	87.9%
地域の企業や商業施設等(交通・金融・流通・生活関連等)から情報を得る機会がある	626	71.3%
定期的な調査をおこなっている	94	10.7%
不定期な調査をおこなっている	56	6.4%
その他	39	4.4%
話を聞いたり、情報を得る機会は無い	12	1.4%



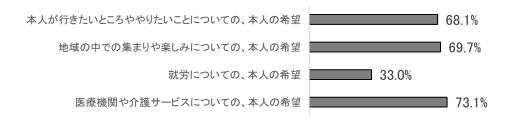
問2 どのような情報を得ることがありましたか。(問1で「情報を得る機会は無い」以外に該当した方)

N=866(複数回答)	回答数	%
スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物等に関する本人の困りごとや要望	625	72.2%
スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物等に関する本人の工夫	268	30.9%
バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する際の本人の困りごとや要望	538	62.1%
バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する際の本人の工夫	212	24.5%
銀行や郵便局などの窓口や ATM を利用する際の本人の困りごとや要望	634	73.2%
銀行や郵便局などの窓口や ATM を利用する際の本人の工夫	203	23.4%
外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の困りごとや要望	522	60.3%
外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の工夫	232	26.8%
住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の困りごとや要望	612	70.7%
住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の工夫	234	27.0%
日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の困りごとや要望	691	79.8%
日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の工夫	339	39.1%
行政サービスの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する本人の困りごとや要望	301	34.8%
その他、日々の暮らしの中の本人の困りごとや要望	271	31.3%
その他、日々の暮らしの中の本人の工夫	108	12.5%



問3 以下に関する本人の希望をきいたことがありますか。

N=878(複数回答)	回答数	%
本人が行きたいところややりたいことについての、本人の希望	598	68.1%
地域の中での集まりや楽しみについての、本人の希望	612	69.7%
就労についての、本人の希望	290	33.0%
医療機関や介護サービスについての、本人の希望	642	73.1%



問4 本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、本人や家族のよりよい暮らしへ活かそうとする仕組みや 取組がありますか。

	全体	
(回答数)	878	
ある	267 30.4%	
現在は無いが、仕組みづくりや取 組の必要性を感じる	535	60.9%
無い	74	8.4%
無回答	2	0.2%

■ある

■現在は無いが、仕組みづく りや取組の必要性を感じる

□無い

□無回答



問5 本人の暮らしの様子に関して得られた情報をもとに、自地域の認知症施策や関連事業に活かす取組がありますか。

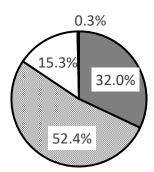
	全体	
(回答数)	878	
ある	281 32.09	
取組は無いが、関連する担当部署	460	52.4%
等に情報提供(共有)を行っている		32.4%
無い	134	15.3%
無回答	3	0.3%

■ある

■取組は無いが、関連する担当 部署等に情報提供(共有)を

□無いている

□無回答



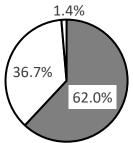
問6 本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定に活かしていますか。

		全体	
	(回答数)		878
活かしている		544	62.0%
活かしてはいない		322 36.7%	
無回答		12	2.2%

■活かしている

□活かしてはいない

□無回答



問7 得られた情報を、行政の他部署や関連組織(交通機関、警察等)との連携による地域づくり事業等に活 かす取組はありますか。

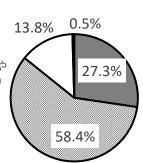
	全体	
(回答数)	878	
ある	240	27.3%
取組は無いが、適宜、庁内や関		
連組織に情報提供(共有)を行っ	513	58.4%
ている		
無い	121	13.8%
無回答	4	0.5%

■ある

■取組は無いが、適宜、庁内や
関連組織に情報提供(共有)
を行っている

■無い

□無回答



問8「認知症施策推進大綱(令和元年 6 月 18 日、認知症施策推進関係閣僚会議)」で示されている「認知症パリアフリー」の推進にもとづいたなんらかの取組を行っていますか。

	全体	
(回答数)	878	
行っている	306	34.9%
現在は行っていないが、取組の	450	51.3%
必要性を感じる		011070
行っていない	118	13.4%
無回答	4	0.5%

■行っている

■現在は行っていないが、 取組の必要性を感じる

□行っていない

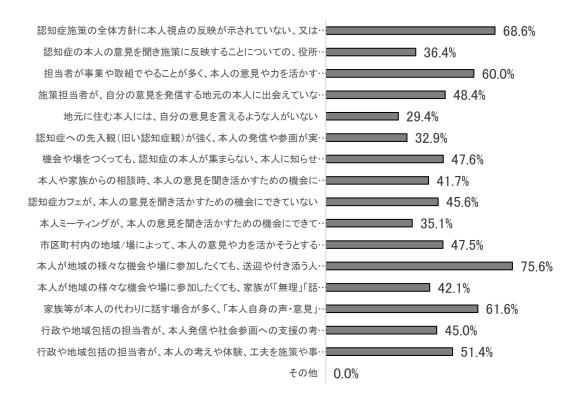
□無回答



問9 「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、課題等、感じていることを教えてください。

N=878(複数回答)	回答数	%
認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である	602	68.6%
認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての、役所内の意識や優先順位が低い	320	36.4%
担当者が事業や取組でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない	527	60.0%
施策担当者が、自分の意見を発信する地元の本人に出会えていない、出会う場・機会がない	425	48.4%
地元に住む本人には、自分の意見を言えるような人がいない	258	29.4%
認知症への先入観(旧い認知症観)が強く、本人の発信や参画が実現できるような状況ではない	289	32.9%

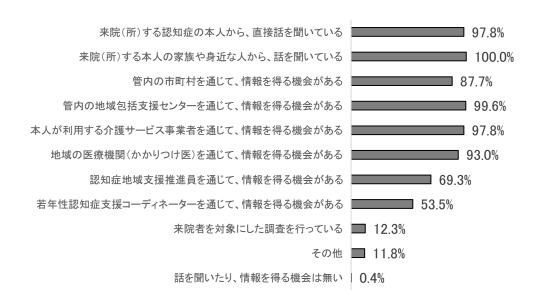
機会や場をつくっても、認知症の本人が集まらない、本人に知らせることができない	418	47.6%
本人や家族からの相談時、本人の意見を聞き活かすための機会にできていない	366	41.7%
認知症カフェが、本人の意見を聞き活かすための機会にできていない	400	45.6%
本人ミーティングが、本人の意見を聞き活かすための機会にできていない	308	35.1%
市区町村内の地域/場によって、本人の意見や力を活かそうとする意識に差がある	417	47.5%
本人が地域の様々な機会や場に参加したくても、送迎や付き添う人の確保ができない(課題がある)	664	75.6%
·•/		
本人が地域の様々な機会や場に参加したくても、家族が「無理」「話せない」等と考えていて、理解・協力が得られない	370	42.1%
家族等が本人の代わりに話す場合が多く、「本人自身の声・意見」を聞けないことが多い	541	61.6%
行政や地域包括の担当者が、本人発信や社会参画への支援の考え方や方法がわからない	395	45.0%
行政や地域包括の担当者が、本人の考えや体験、工夫を施策や事業等にどう反映させていけば いいかわからない	451	51.4%



(3)認知症疾患医療センター

問1 認知症の人の日ごろの暮らしの様子について情報を得る機会がありますか。

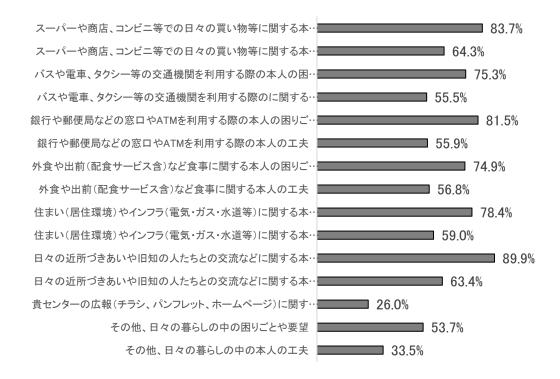
N=228(複数回答)	回答数	%
来院(所)する認知症の本人から、直接話を聞いている	223	97.8%
来院(所)する本人の家族や身近な人から、話を聞いている	228	100.0%
管内の市町村を通じて、情報を得る機会がある	200	87.7%
管内の地域包括支援センターを通じて、情報を得る機会がある	227	99.6%
本人が利用する介護サービス事業者を通じて、情報を得る機会がある	223	97.8%
地域の医療機関(かかりつけ医)を通じて、情報を得る機会がある	212	93.0%
認知症地域支援推進員を通じて、情報を得る機会がある	158	69.3%
若年性認知症支援コーディネーターを通じて、情報を得る機会がある	122	53.5%
来院者を対象にした調査を行っている	28	12.3%
その他	27	11.8%
話を聞いたり、情報を得る機会は無い	1	0.4%



問2 どのような情報を得ることがありましたか。(問1で「情報を得る機会は無い」以外に該当した方)

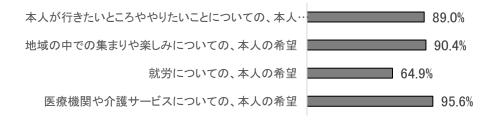
N=227(複数回答)	回答数	%
スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物等に関する本人の困りごとや要望	190	83.7%
スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物等に関する本人の工夫	146	64.3%
バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する際の本人の困りごとや要望	171	75.3%
バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する際のに関する本人の工夫	126	55.5%
銀行や郵便局などの窓口や ATM を利用する際の本人の困りごとや要望	185	81.5%
銀行や郵便局などの窓口や ATM を利用する際の本人の工夫	127	55.9%

外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の困りごとや要望	170	74.9%
外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の工夫	129	56.8%
住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の困りごとや要望	178	78.4%
住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の工夫	134	59.0%
日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の困りごとや要望	204	89.9%
日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の工夫	144	63.4%
貴センターの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する本人の困りごとや要望	59	26.0%
その他、日々の暮らしの中の困りごとや要望	122	53.7%
その他、日々の暮らしの中の本人の工夫	76	33.5%



問3 以下に関する本人の希望をきいたことがありますか。

N=228(複数回答)	回答数	%
本人が行きたいところややりたいことについての、本人の希望	203	89.0%
地域の中での集まりや楽しみについての、本人の希望	206	90.4%
就労についての、本人の希望	148	64.9%
医療機関や介護サービスについての、本人の希望	218	95.6%



問4 本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、本人や家族のよりよい暮らしへ活かそうとする仕組みや 取組がありますか。

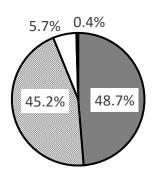
	全体	
(回答数)	228	
ある	111	48.7%
現在は無いが、仕組みづくりや 取組の必要性を感じる	103	45.2%
無い	13	5.7%
無回答	1	0.4%

■ある

■現在は無いが、仕組みづくり や取組の必要性を感じる

□無い

□無回答



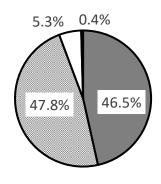
問5 本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、地域の認知症支援や関連事業に活かす取組がありま すか。

	全体	
(回答数)	228	
ある	106	46.5%
取組は無いが、今後、地域の		
自治体や関係団体等と協議し	109	47.8%
ていきたい		
無い	12	5.3%
無回答	1	0.4%

■ある

■取組は無いが、今後、地域の 自治体や関係団体等と協議し ていきたい ロ無い

□無回答



3)記述回答

(1)都道府県

問2-① 担当課(者)が、認知症の本人から、直接話を聞く(情報を得る)機会

No.	回答内容
1	本人ミーティング等への参加
2	本人ミーティング
0	・本人ミーティングや居場所づくり事業において把握する情報
3	・認知症の人の声を研修会で取り入れたり、本人の発信支援を行う際に聴取する情報
4	本人ミーティング、オレンジカフェ、認知症ピアサポート活動支援事業、各種部会・委員会
4	の場
5	認知症本人ミーティング、若年認知症ネットワーク会議
6	各市や、認知症の人と家族の会開催の本人ミーティング
7	県で設置している認知症カフェ及び若年性認知症の人の集いの場での交流
8	移動認知症カフェを開催し、認知症本人にスタッフとして協力いただいている。
9	各市町村等が行う認知症カフェ等への参加 (随時)
10	認知症カフェや本人ミーディングの場で。
11	会議や研修等において登壇いただいた認知症のご本人からお話を聞く機会がある。
12	普及啓発等参加時
13	若年性認知症の集いなど本人が集まる場で情報を得ることができる。
14	若年性認知症当事者のつどい等に参加して
15	若年性認知症実態把握調査、認知症施策推進協議会、若年性認知症自立支援ネットワーク会
10	議
16	若年性認知症の人と家族の会に参加した際
17	若年性認知症フォーラムにて、当事者に登壇いただいた。認知症サポーター養成講座にて、
11	若年性認知症支援コーディネーターが当事者に帯同している際に、話を聞く機会があった。
18	若年性認知症施策総合推進事業意見交換会、認知症施策推進会議
19	本人・家族交流会への参加
20	交流会及び県認知症施策推進会議ワーキンググループ
21	認知症コールセンターの運営及びつどいへの参加の機会等
22	若年性認知症ピアサポーターへ聞くことが可能。 (Zoom など)
23	ピアサポート事業
24	県委嘱のピアサポーターや希望大使へのヒアリング、市町や家族会開催の集いや認知症カフ
24	ェへの参加
25	認知症希望大使と協働した普及啓発事業(本人発信支援)
26	認知症希望大使との連絡調整
27	認知症希望大使企画運営会議、本人ミーティングへの参加
28	認知症希望大使より情報を聴取できる。

29	県認知症希望大使へのヒアリング、認知症の本人を構成員とする認知症施策推進会議
30	認知症希望大使活動や、本人ミーティング、若年性認知症の会、若年性認知症自立支援ネッ
	トワーク会議、健康づくり審議会認知症対策部会にて情報を得る機会がある。

問2-② 担当課(者)が、管内市町村を通じて話を聞く(情報を得る)機会

-	担当味(有)か、 <u>官内巾町村を通じて</u> 品を闻く(情報を待る)機会
No.	回答内容
1	年間に2回程、集合会議があり、その場面で聴取できる。
2	市町村ヒアリング時に市町村の持つ情報を共有している。
3	市町村連絡会 等
4	市町ヒアリング
5	・市町村を対象としたヒアリング・市町村を構成員とする認知症施策推進会議
6	市町村等認知症担当者研修、認知症疾患医療センター医療連携協議会など
7	市町担当者から事業実施にあたっての相談等がある際に情報を得ている。
8	地域包括ケアシステムに関する市町ヒアリングの場で情報を得ることができる。
9	認知症関連施策市町村連絡会議
1.0	認知症施策の関係者から構成される認知症施策推進協議会を設置しており、委員として市町村にも
10	参画していただいており、情報を得ている。
1.1	認知症施策推進協議会、県・政令指定都市・中核市・保健所政令市認知症施策担当者会議、市町
11	村·保健福祉事務所認知症担当者会議
10	市町の認知症施策担当者等を対象とした推進会議において市町が認知症の人の声を施策に反映
12	している取り組みを聴取
13	市町村の認知症施策の取組について、情報を得る中で話を聞く機会がある。
14	市町村認知症施策担当者会議等
15	市町村の担当者が集まる連絡会等で定期的に意見交換を行っており、情報を得ている。
16	市町村連絡会議、各地域の疾患医療センター協議会
17	認知症市町村連絡会・圏域別認知症地域支援推進員会議(市町村向け会議の附属会議)
1.0	認知症初期集中支援チーム員スキルアップ研修会や広域的認知症高齢者見守りのための検討会
18	等
19	県民局研修会
20	チームオレンジコーディネーター研修会企画や直接電話相談の機会
21	各種会議や研修における事例報告
22	研修会や会議、適宜情報交換をした際
	各研修会における市町活動報告。
23	本人ミーティング・認知症希望大使の該当者を募集する経過の中で、情報を得る機会がある。
24	本人ミーティングやオレンジカフェなどの開催時に、担当者から直接話を聞く
25	個別支援に関する相談時、圏域単位や県主催での担当者会議、アンケート
26	電話や研修などで会う機会に聞く
27	必要に応じて随時聞き取り

問2-③ 担当課(者)が、認知症地域支援推進員を通じて話を聞く(情報を得る)機会

No.	回答内容
1	チームオレンジコーディネーターを兼務する推進員の方を通して、当該チームのメンバーである当
	事者の情報を得ることができる。
2	毎年市町から提出していただいている、認知症地域支援推進員活動報告から情報を得る機会があ
2	ప ం
3	本人ミーティングやオレンジカフェなどの開催時に、担当者から直接話を聞く
4	個別支援に関する相談時、圏域単位や県主催の担当者会議、アンケート
5	個別意見交換等(随時)
6	認知症施策の関係者から構成される認知症施策推進協議会を設置しており、委員として認知症地
0	域支援推進員にも参画していただいており、情報を得ている。
7	認知症疾患医療センター主催の地域の関係者による連携協議会(認知症地域支援推進員も参加し
•	ている地域がある)
8	認知症地域支援推進員ネットワーク会議の開催(県全域、推進員を対象とした会議)
9	市町村等認知症担当者研修、認知症疾患医療センター医療連携協議会など
10	認知症地域支援推進員連絡会を開催する等し、情報を得ている。
11	市町村連絡会議、各地域の疾患医療センター協議会
12	キャラバンメイト研修企画に情報提供頂いた
13	認知症地域支援推進員研修
14	認知症地域支援推進員を対象とした研修(グループワークの場)や意見交換会
15	地域支援推進員研修等を行う中で、情報を得る機会がある
16	認知症地域支援推進員ネットワーク研修会等
17	推進員研修時に情報を共有している。
18	研修会開催時に情報を得ている。
19	認知症地域支援推進員を対象とした研修を通じて情報を得ることができる。
20	推進員が会議や研修等に参加しており、その場で情報を得ている。
21	県民局研修会
22	電話や研修などで会う機会に聞く

問2-④ 担当課(者)が、若年性認知症支援コーディネーターを通じて話を聞く(情報を得る)機会

No.	回答内容
1	若年性認知症支援コーディネーターから、その都度、電話や事業実施に向けた打合せで情報を得
	ている。
2	若年性認知症支援コーディネーターと日頃から連絡を取り合っている。
3	適宜、行っている打合せや情報交換、自立支援ネットワーク会議等を通じて
4	電話やZoomによる情報共有、県若年性認知症自立支援ネットワーク会議等
5	コーディネーターと行政担当者の電話やメールでのやりとり

	コーディネーターが支援している本人・家族の希望や支援状況の共有(電話、対面による情報共
6	1 - 1 1 1 1 1 1 1 1 1
7	・若年性認知症支援コーディネーターからの相談実績報告
	・毎年若年性認知症セミナーを開催。本人・家族から発言をいただいている。
	・本人・家族交流会を開催し、支援ニーズの把握を行っている
8	・本人ミーティングを共催しており、ミーティング参加者の様子を事前に共有する。
	・本人発信支援を行っているケースでは、必要に応じた情報共有をしている。
9	本人ミーティングなどの開催の様子をうかがう機会がある。
10	適時、若年性認知症コーディネーター主催のアドバイザー会議があり、その場面で聴取できる。
11	地域の方の居場所を運営するコーディネーターの方を通じて、当該居場所に参加する当事者の情
	報を得ることができる。
12	定期的に集まる機会があり、またそれ以外でも必要時情報提供をしてもらっている。
13	定期的な連絡会
14	コーディネータ―が開催するネットワーク会議や、随時の連絡調整にて
15	個別支援に関する相談時、県主催会議、認知症疾患医療センター推進会議、アンケート
1.0	県主催研修会に参加しているコーディネーターより情報を得る機会がある。また日頃の情報共有で
16	密に連携を取っており年1回の活動報告でも情報を得る機会がある。
17	若年性認知症支援コーディネーターを常設しており、月1回以上情報交換を行っている。
10	認知症施策の関係者から構成される認知症施策推進協議会を設置しており、委員として若年性認
18	知症支援コーディネーターにも参画していただいており、情報を得ている。
19	若年性認知症支援コーディネーター連絡会議
20	若年性認知症相談・支援センターネットワーク会議や情報交換時
21	若年性認知症自立支援ネットワーク会議や直営等での研修参加・企画時
22	若年性認知症相談支援業務委託に係る報告書、個別の打合せ等
	若年性認知症自立支援ネットワーク研修や会議の企画検討の場(コーディネーターと県担当者間で
23	実施)
24	若年性認知症施策総合推進事業意見交換会
25	若年性認知症自立支援ネットワーク会議等
26	若年性認知症支援コーディネーターが開催する支援会議に出席する機会があるときなど。
27	 若年認知症サポートセンターとの直接のやりとり
28	 若年性認知症支援コーディネーターから打合せ等の際に、情報を得ることができる。
29	 月1回開催している定例会にて、コーディネーターより相談者について報告がある。
30	認知症コールセンターへの相談に関する報告の機会等
31	電話やメール、打合せなどで聞く
32	電話やメールのほか、会議や研修企画時等に直接話を聞く
33	業務報告、事業打ち合わせ、意見交換会等
34	報告書(毎月)
0.1	INH B (PM)

問2-⑤ 担当課(者)が、認知症の当事者団体・グループ等を通じて話を聞く(情報を得る)機会

No.	担当妹(有)が、 <u>認知症の当事有凶体・グループ等</u> を通じて品を聞く(情報を持る)機会
1	認知症対策連携会議
2	当事者団体の関係者が委員として参加している会議体
3	当事者も含めた民間組織への参画
4	若年性認知症オンラインカフェ等
5	年1回、認知症カフェ研修会にて、カフェ運営団体より事例発表の中で報告がある。
6	認知症コールセンター事業報告
7	認知症関係団体を構成員とする認知症施策推進会議
	県世界アルツハイマーデー普及啓発イベント実行委員会と連携したイベントの開催、認知症の人と
8	家族の会県支部と連携したオレンジパートナーネットワーク活動推進事業等の実施
	認知症相談交流支援事業(県施策)の受託先が認知症の人と家族の会であり、月1回以上の打ち合
9	わせで情報交換を行っている。
10	認知症施策の関係者から構成される認知症施策推進協議会を設置しており、委員として家族の会
10	の方にも参画していただいており、情報を得ている。
11	認知症施策推進懇談会において、認知症の人と家族の会に参加していただき、介護者の目線か
11	ら、本人の様子や困りごとなどを伺っている。
12	認知症の人と家族の会やレビー小体型認知症サポートネットワーク等から
13	(公社)認知症の人と家族の会支部と事業実施に向けた打合せ等において情報を得ている
14	公益社団法人認知症の人と家族の会県支部が開催する集いや世話人会
15	認知症の人と家族の会
16	認知症の本人・家族の会などを通じて、会議や研修の場で情報を得ている。
17	認知症の人と家族の会(支部)との連携。認知症カフェ連絡会には当事者も参加しており情報を得る
11	機会がある。
18	認知症の人と家族の会に聞く、会報などを読む、電話相談の結果報告(家族の会へ委託)
19	認知症の人と家族の会等の開催する講演会で登壇した認知症の人の発表により情報を得ることが
10	ある。
20	認知症の人と家族の会県支部との直接のやりとり
21	認知症の人と家族の会支部が実施する会議等
22	認知症の人と家族の会県支部に若年性認知症の人の居場所づくり事業を委託しており、事業を通
	じ情報共有を行っている。
23	認知症に関する会議等を開く際に、認知症の人と家族の会から出席いただいているときなど。
24	事業を認知症の人と家族の会に委託しているため、情報共有している。
25	認知症の人と家族の会と事業や打合せの場で情報を得ることができる。
26	認知症の人と家族の会との連絡会の機会等
27	県の委託事業で認知症の人と家族の会(県支部)に相談窓口を設置しており、その相談内容等につ
	いて報告を受けている。
28	家族会等との意見交換の場や各種会議等の委員として参画して貰う中で情報を得る機会がある。

29	日本認知症本人ワーキンググループに参加されているご本人から、ワーキンググループでの話し合
	いや活動について直接聞く
30	電話やメール等を活用した情報共有
31	各種委託事業等打ち合わせ、業務報告、会議等
32	審議会

問2-⑥ 担当課(者)が、<u>認知症疾患医療センターや医療機関・団体</u>を通じて話を聞く(情報を得る) 機会

No.	回答内容
1	認知症疾患医療センター連携会議にて、日頃医療機関で本人からどのような相談があるか伺って
	いる。
2	認知症疾患医療センターとは連携協議会の場等で情報を交換し、また医師会ともサポート医に関す
4	る会議等で連携を取っている。
3	偶数月に認知症疾患医療センターの連絡会議があり、その場面で聴取できる。
4	認知症施策の関係者から構成される認知症施策推進協議会を設置しており、委員として認知症疾
4	患医療センターにも参画していただいており、情報を得ている。
5	認知症疾患医療センターの医療相談室担当者との意見交換会を行っており、センターを受診する
5	患者さんの状況について情報を得ている。
6	認知症疾患医療センター担当者意見交換会
7	担当者会議で情報共有している。
8	認知症疾患医療センター医療連携協議会、センター実務者会等を通じて
9	認知症疾患医療センター連絡会の開催や、認知症疾患医療センターが開催する地域連携協議会
9	に参加することで情報を得ている。
10	認知症疾患医療センター主催の地域の関係者による連携協議会
11	電話等による情報共有、認知症疾患医療センター実務者会議 等
12	認知症施策推進協議会、県認知症疾患医療センター連絡会議、県指定認知症疾患医療センター
12	連絡会議
13	担当者会議や、認知症疾患医療センター認知症疾患医療連携協議会参加時
14	各センターへの調査や日々の協議会参加時
15	各認知症失案医療センター主催の地域認知症疾患医療連携会議
16	認知症疾患医療センター担当者連絡会及び協議会
17	認知症疾患医療センターが開催する会議への参画 ・認知症疾患医療センターの事業評価の実施
18	認知症疾患医療センター連携協議会
19	認知症疾患医療センター推進会議、認知症施策推進会議、若年認知症自立支援ネットワーク会議
20	認知症疾患医療センター連絡会で情報共有
21	認知症疾患医療センター協議会
22	認知症疾患医療センター連絡会等
23	認知症疾患医療センター連絡会議

24	年3回、疾患医療センターの連絡協議会にて、事例発表の中で個人を特定されない形での報告が
	ある。
25	認知症疾患医療センターが実施した事業内容について報告を受けるときなど。
26	認知症疾患医療センターとの会議において情報を得ることができる。
27	認知症疾患医療センター事例検討会の機会等
28	施策会議の場
29	センター運営の当事者・家族の居場所に関する活動報告や事例検討等から情報を得る機会があ
29	る。又、本人ミーティング・認知症希望大使の該当者を募集する経過の中で情報を得る機会がある。
30	認知症疾患医療センター職員研修等や業務の連絡調整の中で情報を得る機会がある

問2-⑦ 担当課(者)が、<u>介護サービス、福祉サービス事業者団体等</u>を通じて話を聞く(情報を得る) 機会

No.	回答内容
1	認知症施策の関係者から構成される認知症施策推進協議会を設置しており、委員として、介護サー
	ビス事業者団体にも参画していただいており、情報を得ている。
2	認知症施策推進会議に出席の各種団体、認知症介護指導者から
3	認知症対策推進会議において情報を得ている。
4	介護サービス事業者団体(認知症 GH 連絡協議会)を構成員とする認知症施策推進会議
5	認知症介護実践研修、認知症施策推進協議会
6	県認知症施策検討委員会等
7	認知症対策連携会議
8	施策会議の場
9	地域包括ケア推進ネットワーク会議
10	介護事業所職員向け研修のグループワークの傍聴
11	老人福祉施設協議会、地域包括ケアシステム協議会との意見交換
12	認知症サポーター養成講座や研修会等委託している県介護実習普及センターの活動を通じて
13	健康づくり審議会認知症対策部会、チームオレンジ推進研修、キャラバンメイト養成講座、若年性認
15	知症自立支援ネットワーク会議にて意見交換をする中で情報を得る機会がある。
14	介護従事者向けの研修(実践者研修等)にて、聴講時に受講者の発表を聞く機会がある。
15	県の認知症研修事業等に関わっていただいている介護事業所の方から、情報を得ることができる。
16	認知症介護指導者から情報を得ている
17	認知症介護指導者
18	情報交換時
19	会議や研修において講師等を依頼しており、その場で情報を得ている。
20	若年性認知症実態把握調査

問2-⑩ その他、自担当課(者)が話を聞く(情報を得る)機会

No.	回答内容
1	電話にて、認知症(疑い、MCI等)の方や家族等から相談、アンケート調査等
0	当事者や家族、支援者による評価調査を行うため「認知症施策評価のためのアンケート調査」を実
2	施。結果を「高齢者保健福祉計画(第8期)」に反映。
3	高齢政策課、ユニバーサル推進課、障害福祉課との会議を通じて情報を得る機会がある。認知症
3	サポート店登録企業より情報を得る機会がある。
4	協定締結企業との意見交換会
5	本人交流会を委託にて実施。ファシリテーターをした委託先の職員より、情報提供を受ける。
6	モデル事業(認知症の人の社会参加活動支援事業)受託事業者からの報告
7	研修会に招聘した講師等から事例紹介として伺うときなど。
8	認知症施策推進協議会(行政、医療、福祉、学識経験者等)による情報提供

問3-4 得た情報について:その他、日々の暮らしの中の本人の困りごとや要望

No.	回答内容
1	移動手段、認知症と診断されたことを周囲に伝えるか、買い物には一人で行けない、仕事を継続し
1	たい等
2	趣味等本人が行いたいと思っていることに関すること
3	物を忘れて置いて来てしまう。歩いて行ける居場所がない。行政窓口で自筆のサインを求めないで
3	ほしい。
4	当事者・家族の集いの充実や周知、地域での本人の居場所の確保、
4	市町村・認知症疾患医療センターでの対応事例を通した広範囲な困りごと 等
5	体は元気なので自転車を使ってどこへでも行けるが、日時、場所を指定されたとき、それを忘れてし
J	まい、自力で行くことができなくなってきた。
6	自動車が運転できなくなることによる移動の困りごと
7	車の運転、運転免許の返納、それに伴う移動手段の確保
8	自転車に乗ることが好きなので、サイクリングがしたい。
9	受診、入院に関すること。認知症カフェ、通いの場への移動手段等
10	介護保険のみではなく、診断後すぐに使える情報がほしい。
	認知症診断後、自主退職を迫られた。スーパーが自宅から遠い。鍵の場所がわからなくなる。道に
11	迷う。未会計の商品を誤ってエコバッグに入れてしまうことがあるが、意図的ではなく見当識障害に
	よるものであることを理解してほしい。
12	就労や雇用継続、介護サービスに関する本人の困りごとや要望
13	就労や居場所に関すること
14	就労継続
15	本人交流会にて、本人より「認知症への偏見があるのではないかと感じる」と言われた人がいた。

問3一⑤ 得た情報について:その他、日々の暮らしの中の本人の工夫の内容

No.	回答内容
1	近所の方に自分を知ってもらい、助けてもらうタイミングもわかってもらう。(ふらふらと歩いている時、
1	声かけしてもらいたい。道が分からなくなる可能性がある。)
2	周囲の人に、自分へ日時や場所を伝えるときは、妻にもそれを伝えて欲しいとあらかじめお願いして
2	おく。
3	仲のよい友達には認知症と診断されたことを話している、買い物はカードを利用等
4	認知症でもできることから認知症だからこそできることへの考え方の変換。
5	荷物は1つにまとめる。アプリを活用する。など
6	スケジュール管理
7	スマートウォッチの活用など
8	スマートフォンをうまく活用(地図アプリ、緊急連絡、JR の時間など)することで、1 人でも外出できる

問5 本人の暮らしの様子に関して得られた情報をもとに、都道府県としての認知症施策や関連事業に活かす取組(その他)

No.	回答内容
1	・本人のやりたいこと(発信活動)の支援・研修会や会議等を通じて、医師や市町等へ本人の声を
1	伝える
2	若年性認知症の人の通いの場として、地域活動や就労に近い内容に取り組む場が必要とする声が
	あったことから、若年性認知症の人の社会参加の機会を創出するためのモデル事業を実施。
3	認知症本人同士で話したい→認知症本人ミーティング、ピアサポート事業
4	本人ミーティングで、外出して話をしたいという声があり、ハイキングやお花見などをしながら話をす
	る機会を作っている。
5	認知症本人発信事業の講演の内容検討
6	認知症施策推進協議会、若年性認知症自立支援ネットワーク会議、希望大使企画運営会議に出席
	している本人の意見を施策に反映している
7	認知症の人や家族に対する相談事業を実施しており、そこで得られた情報を参考に、必要に応じ、
	施策化を検討している。
8	県認知症希望大使と協働した普及啓発の取り組み、若年性認知症就労支援モデル事業の県内へ
	の周知
9	認知症希望大使のメッセージ動画を作成し、県ホームページに掲載、働き盛り世代を対象とした研
	修やキャラバンメイト養成講座にて上映。本人の声を生かした市町の取組は管内市町に共有。
10	普及啓発、研修等の取組
11	主催する研修の内容を検討する際などに情報を活用している。
12	チームオレンジ養成研修の講義等に取り入れている
13	若年性認知症支援コーディネーター配置、ピアサポート事業の促進、本人による普及啓発促進事
	業
14	「相談・サービスガイドブック」などのツール作成

15	認知症にやさしい異業種連携協議会、高齢者あんしんサポート企業の取組など
1.0	「高齢者の生活実態と介護保険サービス等に関する意識調査」を実施し、結果を踏まえて、高齢者
16	計画(認知症施策推進計画を含む)を策定。
17	高齢者福祉計画及び介護保険事業支援計画
18	企業向け認知症研修にて、若年性認知症の方の家族に講義をしていただき、企業が提供するサー
18	ビス等に生かしてもらうよう働きかけた。
19	企業向けの認知症の人への対応ガイドラインの作成
20	企業との連携が不可欠であるとの課題認識にいたり、企業連携に関する事業の新設
21	県の施策会議委員として本人が入っており、その中で共有し展開させていくことは可能。(新たに取
	り組んでいることはまだありません)

問7 本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、都道府県の他部署や関連組織(交通機関、警察等)との連携による地域づくり事業等に活かす取組(その他)

No.	回答内容
1	企業向け認知症の人への対応ガイドラインの配布(企業)
2	ネットワーク会議
3	認知症高齢者の見守り支援にあたり、県警と連携を図っている。
4	認知症地域包括ケア推進研修において、県警交通部と連携しR2 改正道路交通法における高齢運
	転者対策の充実・強化について取り上げ関連する地域の取組の活動報告を行った。
5	・認知症を含む高齢者の移動支援について、交通担当部署と連携・情報共有している
	・行方不明対応について県警と連携している
6	行方不明者への取組等

問8 「認知症バリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で感じる課題(その他)

No.	回答内容
1	認知症であること隠したいと思われる方や、家族がおり、まずは認知症の正しい理解の普及啓発が
1	必要と感じている。
2	本人の意見を聞く機会や場があまりない。
3	認知症の本人・家族から意見を伺う機会はあるが、どうしても同じ人に話を聞くことが多くなってい
3	వ _ం
	本人の集まりをもつ機会は持てており、県内の市町とも連携した本人ミーティングを実施している。た
4	だし県内は広域であり、コロナ禍でもあることからオンラインを活用している。本人同士の親密さの深
	まりには制限がある。本格的な実施は R3 からなので、今後も継続し充実させていきたいと考える。
5	現在、新型コロナウイルスに関する業務量が増大し、BCPで業務の遂行をせざるを得ない状況であ
	ప .

「認知症バリアフリー」についての自由記述

No.	回答内容
1	認知症バリアフリーにおける一番のバリアは、自分が認知症であると周囲に伝えることができないこと
	であり、認知症と周囲に言える環境作りが大切と考える。物理的なバリアだけで無く、認知症の本人
	と家族・支援者が互いに気負わない関係性を構築していくため、普段の生活から無理せず取り組め
	るようなアクションガイドを希望する。
	認知症バリアフリーの展開にあたっては、認知症本人の視点の把握・反映が必要と考えるが、市町
2	においても認知症本人へのアプローチがほとんどできていない状況であり、まずはそうしたアプロー
	チをどのようにしていくかが課題と感じている。
3	企業や事業所と連携し、認知症の方を含めて、認知症バリアフリーの取組を発展させていきたい。
4	企業との連携を進めていきたい。
-	県内高齢者見守りネットワーク研修会を毎年開催していますが、企業も多く参加してくださるので、
5	ぜひ認知症の本人とのマッチングも考えていきたいと思います。
	本県では、特に認知症の人本人の社会参加や発信等、認知症への社会の正しい理解の促進、地
	域共生社会の実現に向けた取組に重点を置いた施策を推進している。県内の各市町では、それぞ
	れに地域の状況に応じた地域共生社会に向けた取組も進められ、全体としては以前と比較して社
	会における認知症への理解が得られるようになってきている状況と認識している。一方で、「認知症
6	バリアフリー」について、県職員も含め、施策を担っている関係職員自身が認知症観について新た
6	に学び直し、気付く過程も重要な取組のひとつと考えている。県内外の取組事例の活動報告や、市
	町間の相互の取組について情報交換する機会を設け、県としても認知症本人大使による発信等、
	認知症バリアフリーを牽引できるよう取り組むことと併せて、認知症施策に関わる職員がそれぞれの
	認知症観について意見交換しながら学び合える機会を提供し、県をあげて認知症バリアフリーの地
	域社会の実現を目指していきたい。

(2)市区町村

問1-① 担当課(者)が、認知症の本人から、直接話を聞く(情報を得る)機会(抜粋):

来庁・来所時(電話相談含む)、事業を通じて(啓発活動打合せ、ケアパス事業、等)、自宅への訪問時(介護認定調査、認知症初期集中支援チームの支援介入、個別に相談があった際、等)、介護サービス利用時、個別支援時(買い物支援等)、認知症地域支援推進員の活動を通じて、地域の場・機会(地域の集いの場、認知症カフェ、本人ミーティング、本人交流会、チームオレンジ活動、等)

※「他課に来庁した方で、認知症を疑われるような場合に紹介されて話を聞く機会」「きっかけとして、家族から相談を受けた時、地域から情報提供を受けた時、ケース対応時(対応に苦慮等)」などの回答があった。

問1-② 担当課(者)が、本人の家族や身近な人から話を聞く(情報を得る)機会(抜粋)

来庁・来所時(電話相談含む)、事業を通じて(認知症サポーター養成事業、啓発事業、電話相談事業、等)、自宅への訪問時(介護認定調査、認知症初期集中支援チームの支援介入、個別に相談があった際、等)、介護サービス利用時、認知症地域支援推進員の活動を通じて、

地域の場・機会(家族会の集い、認知症カフェ・本人ミーティング・チームオレンジ活動、等) 等

問1-⑪ 定期的な調査 調査(事業)名、頻度、対象等」の概略(抜粋):

高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定前に行う各調査(3年に1回、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」「在宅介護実態調査」)の他、「認知症地域支援推進員と実績報告を兼ねた話し合い(月1回)」「介護保険組合からの要介護認定者の寝たきり度や認知症度等の情報提供(年1回)」「民生委員による、ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯への訪問による実態調査(年1回)」の回答があった。

問1-① 不定期な調査 調査(事業)名、頻度、対象等」の概略(抜粋):

- ・認知症当事者に訪問を実施し、生活状況や希望する暮らしに関する聞き取り調査
- ・認知症の人および家族への聞き取り調査(不定期、認知症ケアパス等改定時期)
- ・当町のキャラバン・メイトより、認知症の本人や家族の声を情報収集(R2年とR3年に各1回)
- ・本人・家族・介護事業者へ認知症条例に関するアンケート調査(1回のみ)
- ・介護保険サービスも町福祉サービスも利用していない高齢者の実態調査を実施(5年ごとに1回程度)
- ・GPS 利用の本人と家族へ、お出かけサポート位置情報サービス利用状況調査(R3 年度に初)
- ・さまざまなルートで得られた情報をもとに気になる方にはチェックリストを取ったり、要介護認定のある方は、 期限に応じて調査 等

問1一③ その他、担当課(者)が、情報を得る機会(抜粋):

- ・「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」での看護師訪問時
- •介護保険サービス以外の支援が必要なケースや事例のアンケート
- ・日々の業務を通して認知症の人の日頃の暮らしについて情報が得られるようにしている
- ・地域が小離島で狭いため、訪問によりCMが日常的に直接話を聞いている
- ・他部署から情報あり等

問2一個 得た情報について:その他、日々の暮らしの中の本人の困りごとや要望(抜粋):

- ・家事:料理が作りづらい、ゴミ区別ができない・ゴミ出しがわからない、洗濯物をとりこむのを忘れる、家電の 使い方がわからない、切れた電球の買い替え・交換方法がわからない、不衛生
- ・食事:配食サービス利用だがご飯を届けてもらったことを忘れて届くのを待っている
- ・郵便物:書いてある内容がわからない、紛失してしまう
- ・お金:財布がみつからない、金銭管理ができない、契約・解約で困る、消費者被害、金銭問題、生活に困窮
- ・買い物:(洋服の試着に時間がかかり洋服を購入できない
- ・外出・楽しみごと:出かける場所がほしい、タクシー以外の交通手段がない、一人で外出したい、好きな時に好きな所へ行きたい、声掛けや付き添いをしてほしい、散歩で道に迷う、地元のグランドゴルフを続けたい
- ・車:免許がなくなり移動に困る、車を運転したい
- ・仕事:今まで通り働き続けたい、働ける場があれば働きたい、就労支援がほしい、収入が減った
- ・医療機関:受診を忘れる、一人ではいけない
- ・薬:服用を忘れる、もらったはずが見つからない
- ・家族:認知症の理解がない、自分のことを信用してくれない、接し方で困る
- ・近所:世間話がしたい、認知症の理解がない、自治会の当番がこなせない、コミュニケーション

- ・コロナ禍:ワクチン接種予約が分からない、会場に行けない、地域の活動が自粛されて行く場所がない、ネット環境がなくネット交流は難しい
- スケジュールを管理できない、メモをなくしてしまう
- ・生活上の些細なことの相談先がない
- ・一人暮らしに不安がある(現在、これから)
- ・自分の役割がない
- ・記憶がまだらに失われるため分からないことが分からない 等

問2一⑤ 得た情報について:その他、日々の暮らしの中の本人の工夫(抜粋):

- ・予定:カレンダーに記入する、タイマーを多数購入してセットする、スマホアプリを使う、予定前に友人から 電話をもらう、家族に伝える
- ・服薬:カレンダーを使う、薬に日付を書いてもらいカレンダーに貼る
- ・家電:多機能でなく単一機能を選ぶ、操作手順を明記しておく、時計は表示がわかりやすいものにする
- ・料理:移動スーパーを利用、ヘルパーと一緒に料理する、配食サービスを利用する
- ・食事:食べたものの写真を撮る、ビール飲みすぎ注意のため1日2本ずつ買う
- ・外出:出来るだけ慣れた交通ルートを使う、明るいうちに近隣のみ外出する、高校近くの歯医者に行くときは学生が通学する時間のバスに乗る(降りる場所がわかる)、電車に乗ったら降車駅に迎えに来る家族へ何処まで来たかをメールの定型文で知らせる
- ・近所: 隣近所に認知症であることを知らせた、日ごろからの近所付き合いを大切にする
- ・家族:別居している家族と日頃から連絡や相談をするようにしている
- ・公共料金の支払いを引き落としにする
- ・SNS などで同じ若年性の仲間とつながり交流している
- ・毎日歩くようにしている
- できることは続けるようにしている 等

問4 得られた情報を本人や家族のよりよい暮らしへ活かす取組(抜粋):

- ・家族と面談し、ご本人の希望を伝えたり、困っていることを伝える
- ・地元ボランティアにつなげていく(ゴミ出し、見守り等)
- ・本人がグランドゴルフを続けられるように、行政区のグランドゴルフ仲間とともに認知症講座を計画し実施
- ・サポーター養成講座や認知症カフェでの啓発
- ・情報を認知症サポーターやキャラバンメイトと共有し地域で考える機会を作っている
- ・認知症本人活動支援推進ワーキンググループがあり、その場で良い方法がないか検討
- ・本人ミーティングで情報を聞き、実現に向けて活動方法を検討
- ・医療へつなぐ際への情報提供書への記載、介護へつなぐ際へのケアプランへの反映
- ・関係機関・スタッフで情報共有・協議し、反映へ:チームオレンジ、ケアパス、初期集中支援チーム、SOS ネットワーク、高齢者福祉計画・介護保険計画、個別ケア会議、地域ケア会議、自立支援ケア会議等

問5 得られた情報を、自地域の認知症施策や関連事業に活かす取組(抜粋):

- ・本人や家族の声を掲載したアクションガイドブックを作成・更新し、市民への周知啓発に努めている
- ・本人の住んでいる地域で認知症サポーター養成講座やオレンジカフェを開いた
- ・認知症ステップアップ講座・かかりつけ医等研修にて、本人が出演(ビデオ動画を撮影し放映)
- ・関係機関・スタッフで情報共有・協議し、反映へ(問4と同じく):

チームオレンジ、ケアパス、初期集中支援チーム、SOS ネットワーク、高齢者福祉計画・介護保険計画 個別ケア会議、地域ケア会議、自立支援ケア会議、認知症施策を推進・検討する会議等

問7 得られた情報を、行政の他部署や関連組織(交通機関、警察等)との連携による地域づくり事業等に活かす取組(抜粋):

・安心して安全に外出できる地域づくりの検討: SOS ネットワーク事業、セーフティネット事業、見守り事業、 地域ケア会議、地域包括ケア会議、生活支援体制整備事業 等

(警察、消防、郵便、金融機関、社会福祉協議会、介護事業所、地域の方、庁内の各部署等とともに)

- ・いきいき運転健康教室(警察・自動車学校と連携した教室)
- ・ゴミ出し支援の仕組みづくりを担当課と検討中
- ・認知症の専門職同士の会議に警察や交通担当課を招き、情報共有
- ・運転免許返納時等、管内警察署と連携・情報共有
- ・銀行と担当包括の顔の見える連携づくり
- ・役場内各部署と必要な情報を共有(防災担当課と連携し、個別避難計画の策定に反映等)等

問8「認知症施策推進大綱(令和元年 6 月 18 日、認知症施策推進関係閣僚会議)」で示されている「認知症バリアフリー」の推進にもとづいたなんらかの取組(抜粋):

- ・認知症の本人からの発信する講演会の開催、本人ミーティングの実施
- ・「認知症になっても、安心して生活できるまちづくり宣言」を行い、認知症本人や家族、誰もが安心して生活できるまちづくりを目指している。
- ・「バリアフリーシティ」の実現に向け、バリアを明らかにするために本人ミーティングや本人の声の収集に着手した(CM からの情報が上がってこないため、CM 対象の説明会を開催する予定)
- ・「認知症地域支援アクションミーティング」や「チームオレンジ」の活動で認知症の人や家族が地域の人と活動の場を共有する機会を通し取組を推進
- ・買い物しやすい環境整備について、生活支援コーディネーターを中心に移送支援や移動販売車の導入 を取り組んでいる。
- ・キャッシュレス化等によりレジの支払いにとまどう高齢者の方々に対し優しい対応について町内店舗と連携 し「笑顔のゆっくりレジ」に取り組んでいる
- ・一人歩き高齢者の登録制度(登録番号の記載されたステッカーを交付)
- ・成年後見制度の利用促進(中核機関の整備、市町村計画の策定) 等

※チームオレンジ、ケアパス、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座、等の回答も多くみられた

問9-⑪「認知症バリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で感じる課題: その他(抜粋)

No.	回答内容
1	「認知症になったことを地域へ知られたくない」との思いがまだ多くあり、自身や家族の考え自体がバリ
1	アになっているのではないかと、感じることが多くあります。
2	認知症本人の意識を変えることも重要だが、時間がかかる。家族も同様な理解が必要である。
3	地域包括支援センターを含む専門職の認知症に対する発想の転換が進まず、旧い考えで立ち止まっ
3	てしまっており、個別支援の中で本人の声を聴くことが十分にできていない。
4	一つの地域の中にも認知症観の違いがあり、声が大きい人の意見が優先されてしまう。
5	支援の方向性を検討するにあたり、家族の意向が大きく反映される場合が多い。地域性として周囲の目
J	を気にする人が多く、前に出て発信できる人が見つからない。
	限られた支援者には言えるが、多数の人に自分が認知症と知られたくない、言いたくない方が多い。バ
6	スやタクシーに乗る習慣がなく、車がないと外出しにくい。送迎や付き添う家族や支援者も、仕事されて
	おり確保が難しい。
7	本人に直接かかわり関係構築できている支援者の規範的統合が必要
8	本人の意見を聞く機会少ない。買い物支援を行っているが、送迎車・付き添いの方を希望する声があ
0	ప 。
9	本人の思いより、家族や周囲の意見や声を聞く機会が多かった
10	認知症施策の全体方針は、認知症高齢者本人を介護する家族等の視点の反映が主となっている。
11	認知症の方の活動モデルが身近にないため、取り組みのイメージが持ちにくい。
12	認知症の方の中に情報発信できる方がなかなかいない。
13	本人の意志や要望を発信できるレベルの認知症の方が発見できていない。
14	認知症の人ご本人についての意見聴取や調査を実施していないため、実態が把握できていない。
15	本人の意思発信の支援を行うとしているが、他の事業や業務に追われ、優先されていない現状がある。
16	本人の話を聞き取りながら事業を進めるが症状の進行等状況が変わり継続させにくい。
17	自分の意見を発信することができる方に出会えていないため、関係機関の協力が必要と考えている。
18	本人の声をきく場の設定方法、運営方法の工夫について、次年度は取り組もうと計画中。
19	老々介護の高齢者が多く、集いの場へ出向くことが困難であったり、意見や声を発することを遠慮して
13	いる
20	思いを話してくださる本人やパートナーはいるが、その声が全地域に伝わっているわけではなく、地域
20	によって取組に差があるのは現実である。
21	転入者が多く近隣との関係が希薄,独居者が多い等の地域特性から,地域に潜在的に存在する認知
21	症高齢者を把握することが難しい。
	まだ、ご本人の声を聴く機会の設定がなく、おひとりの当事者の方に丁寧にかかわっていくところから始
22	めたいと思うが、圏域の地域包括支援センターが主な相談窓口となており、包括支援センターとの連携
	が大事と思っている。
23	個々の対応を優先となっており、今後は共通する意見を政策に反映する必要がある。

24	もっと地域に出て関係を築けばご本人の声をキャッチできるかもしれないが、目の前の業務に追われそ
	こまでできていない。
25	地域性もあるため、できないことを無理に事業に充てはめて実行しようとすることを考えていない。
26	事業ごとの担当となっており、認知症施策について包括的に取り組みができにくい。
27	事業展開をしようとしても、予算の獲得が困難である。
28	認知症と診断された方を把握しているのは医療機関なので、医師との連携が必要。
29	認知症本人の方が意見を言う場をどう設定し、施策に活かしていくかまだ協議できていない。今後他市
	町村の取り組みを見ながら進めていきたいと考えている。

「認知症バリアフリー」についての自由記述

No.	回答内容
	市職員に対して「庁内連携」に関するアンケートを行ったところ、行政サービスでも「バリア」がたくさんあ
1	るのがわかりました。職員から認知症の人と接したとき「話が通じない」「担当の思うように話が進まない」
	等の意見が多く見られ、本人視点から見ると、行政側からのサービス提供がうまくできていない部分が
	あり、今後、「認知症施策庁内連携会議」での検討課題となります。
	認知症になってからも、できる限り住み慣れた地域で、普通に暮らし続けていくための、障壁を減らして
2	いくことが地域ケアシステムの構築であり、認知症バリアフリー社会は、認知症以外の人にとっても暮ら
	しやすい社会、地域共生社会を目指すものと考えます。
3	認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、地域共生社会を目
3	指すべく普及啓発していく必要があると考える。
4	認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていける村にしたい
	認知症バリアフリーは、小児から高齢者まで誰にとっても過ごしやすい環境づくりに繋がる。認知症に
5	なっても暮らしやすい環境を整備していくためには、認知症ご本人の視点を知り、ご本人の話を丁寧に
	伺っていくことが重要と感じる。
6	各取り組みの理念に「認知症バリアフリー」を意識して実施したい。
7	本人と出会う機会が少ない。出会っても困っているという話を聞かない。
	本人の希望がきけていない。中等度~重度になると地域で対応が難しい場合がある。企業や金融機
8	関等が認知症バリアフリーに取り組む機運が高まっていない。企業や地域住民が認知症の方を受け
8	入れるという気持ちを持つ支援が必要。行政(警察、消防、学校)の方にも、もっと理解してもらう仕組
	みが必要。
	本人の希望等をきく段階までに至っていない(事業等を調整・整備することで、現段階として精一杯で
9	ある)。市町村が具体的な進め方を、具合的にきくことができる。研修や指導・助言体制を整えてほし
	۷٬۰
10	本人の声を施策等に反映させていく必要性は感じているが、行政・包括等関係者間でまだ取り組めて
10	いない段階である。
1.1	本人ミーティングが、開催できていないため、家族と一緒に認知症カフェ等に参加しやすい環境づくり
11	を行っていきたい。

	T
	本人ミーティングを実施する前提としてご本人が認知症であることを受け入れておられることや家族の
12	協力を得られていることが第一にある。そのため様子やタイミングをみながら慎重に進める必要があり
	容易ではないと感じる。
13	本人発信だけではなく、本人を取りまく環境(近隣住民の意識の変化など)をまず変えていくことが必要
	であると考える。
	当事者の意見を大切にしたいと思っていますが、相談が寄せられるのは、認知症の中等度進んだ高
14	齢者が多く、自分の意見を発信する地元の本人に出会えていない。若年性認知症の方の把握はでき
	ていない。
	個々の相談は受ける機会はあるものの、本人ミーティング等の機会を持つことができていないため、本
15	人や家族の生活についての困りごとを具体的にくみ取れていないように感じる。認知症バリアフリーに
	ついては、官民が一体となって実施しなければならないと感じている。
	若年性認知症ではない高齢者の場合(特に後期高齢者)、自分の希望や以降を伺っても「いいです」
16	「大丈夫です」と本心を表現することがないことが多い。そういう気持ちを持つことをあきらめているの
	か、依存的になっているのか、判別がつかない。
	出会うことのできた本人の思いは施策に活かそうと努力している。しかし、まだ出会えていない人、地域
17	に住む全ての認知症の本人の思いを反映できておらず、より多くの意見を施策に取り入れる必要があ
	ると考えている。今後そのような機会を増やすよう努めたい。
	ご本人と話す機会はあっても、意見を述べれるような人と接する機会は少なく思います。
18	若年性認知症と診断された人は比較的意見を述べれる傾向があり、ケースが少ないからこそ、地域の
	認知症疾患医療センターや精神科病院と情報共有ができるような連携が必要と考えました。
19	本市としては本人の意見を聞く機会が増えてきてはいるものの、うまく繋げれていない状況。
	認知症本人だけではなく、家族支援に対しての環境整備も必要と考えます。
20	認知症本人が参加できる(したいと思える)カフェづくりが必要と考えます。
	認知症推進員が交流する機会がほとんどない為交流する場の必要性を感じます。
	非常に重要な取り組みと感じているが、実際にはまだ事業で取り組めていません。チームオレンジ構築
21	をすすめていく際に、本人の声を聴くことなども意識して取り組んでいくことで、認知症の人本人発信に
	もつながっていければよいと思っております。
	地域包括支援センターがスタートしたころより、認知症サポーター養成講座も浸透し認知症の理解や
22	地域での支えあいが出来てきている。 ここからの各自治体の取組みによってバリアフリーが進むと考
	える。
23	本人、家族及び地域住民や支援者が気軽に集えるカフェの運営方法や、周知方法に工夫が必要。
0.4	本人のことばや意見を聴く機会を増やし、発信の場づくりへに取り組みを進めていくために地域に出向
24	いていく段階である。
	認知症の方やその家族以外の周囲の方は他人事なためバリアフリー意識は育められるが、いざ自分
25	や家族が該当者になった場合は困難ではないかと考える。
	認知症の方本人が疾患の影響から自分の問題を問題として捉えていなかったり、支援を必要としてい
26	ない印象があります。家族や地域の方からの困りごとを聞くことが多く、本人の声を政策に反映させるこ
	とは難しいと感じます。

	家族から個別の相談として話を聞く機会は多いが、本人と認知症を踏まえたうえでの話し合いができて
27	いない。(本人が自分は認知症と思っていないことが多い。)そのうえで、どのように本人から意見を聞
	き、事業に反映さえていくといいかについて担当者としての悩みがある。
28	家族の交流の場だけでなく、本人同士が交流できる場について、市内の認知症疾患医療センターと協
	力して実施が出来ないか検討中。本人がどんな生活を送っていきたいのか、何がしたいのかを聞くこと
	から始める必要がある。
	家族の困りごとのほうが見えやすく、(施策担当者の)認知症の当事者の意見を聞く力が低いと感じて
29	いる。当事者は「何も困っていない」と言われ、困りごとがある前提で話をしてしまうと話が進まない。ど
	のように当事者のニーズをつかめばいいか模索している。
	周囲の人間が「自転車で外出しないで」「車の運転はやめて」「お金をあまり持たないで」と本人のした
30	いことを制限してしまい、安心のために先回りしすぎてしまう様子がある。家庭内のことで明るみに出な
	いため、そういった実情が相談を受けたときに初めて分かるということが多い。
	・認知症は進行していくため本人参加ができる期間が限定されてしまう。
31	・また周りのサポート(送迎や付き添い等)が必須となることが多いため、家族の協力も不可欠となるた
	め家族の負担も大きくなると考える。
32	チームオレンジの必要性はわかるが、小規模自治体では認知症施策の担当職員も様々な仕事を兼務
52	しており、仕組み作りに専念できる余裕がない。
	高齢者の認知症患者については、介護保険サービス等も充実しており、理解も深まってきているが、
33	若年性認知症については、出会う機会も少なく、十分理解されていないところもある。集まる場や就労
	等の支援体制が、単独の市町村では難しく感じる。
34	今は、認知症に対しての普及啓発の方がメインであり、本人や家族の要望などの聞いていき反省する
	取り組みまで至っていません。
	施策の検討には、ご本人やご家族の声を聴くことが大切だが、なかなかそのような機会の確保が難し
35	い。またお会いできても日頃感じているニーズを、担当者が把握するには担当者の知識や経験が重要
	になってくると感じる。
36	自分の意見を発信できる当事者と出会う機会を創出するのに苦労している。
	実現するには認知症の本人やその家族、地域住民、民間事業者、行政等が一丸となって取り組む必
37	要があるが、自治体による仕掛け(仕組み)づくりが肝要と感じる。特に民間事業者にとっては参画する
	メリットがなければ協力しないこともあり得るし、行政の担当者と民間の対話が非常に難しい。
38	若年性認知症へのバリアフリー化を先に進めるとよいと考えるが、対象者が把握できないことや少数で
30	あることで施策が具体化しにくい。
	小規模な地域であり、認知症になっていても地域がなんとなく把握し自然と補うことで、困り感が少なく
39	自宅での生活を続けられているケースが多い。認知症バリアフリー推進前からのこういった地域の関係
	性を次世代に持続させていくことが課題となると感じている。
	成年後見制度の利用促進は、中核機関が置かれたことである程度進んでいると感じる。若年性認知症
40	の方への支援はそういったケースに出会っていない、もしくは把握できていない。認知症の方の受け入
40	れとして認知症サポーター養成やオレンジカフェの開催を行っているが、どこまで地域に浸透している
	のか不明。意識や知識に個人差はある。

めに, 人の意 を変えたり高め
を変えたり高め
区交/四月间
。多くの国の施
求められてお
えってきている
ら始める必要
壁を減らす事が
で共有する。
リアフリー社会
が実際ほとんど
言っても病態
ジア解消は難
の人には理解し
ません。
るところです。
支援体制の強
『難しく、働き世
容が難しいと
牛の緩和が必要
きているが、地
が同居していな
恩知症に対する
ぶ不可欠だと感
言することが難し
ではないと言わ
こや交通事情の
対する理解の
社会参加がで
く方向で関係

	and the transfer of the transf
52	認知症ということを気軽に他者にカミングアウト出来ない状況が障壁だと考えています。病院等で高血
	圧症であることや糖尿病であることを人に自慢するかのように話しているように、認知症も気軽に言い合
	える世の中になるとよいと思います。
53	認知症というワードが付くだけで拒否反応を示す程、認知症に対する偏見が根強く残る地域もあること
	から,予防への関心は高いが,当事者・家族共に認知症である事を周囲に打ち明けたくないという人
	が多い。また、診断されたくないということで早期受診・治療に繋がらないケースも存在する。その為、
	他自治体の様に当事者や家族が前面に立ち推進する事は難しい状況である。
54	認知症について、正しい事実を自治会町内会などで話をしようとしても、元気高齢者の方の中には、自
	分事として考えていただけず、他人事の意識がまだ根強い印象がある。認知症の方の生活になかでど
	のようなことがバリアになっているのか、本人ミーティングや、チームオレンジの活動のなかで明らかに
	していきたいと思う。
55	認知症に関する偏見も地域にはまだあると思われる。認知症だけでなく、高齢者等地域でささあい見
	守りのできる地域づくりを進めている。本人が発信できるようになるにはまだ時間がかかると思われる。
	認知症に対する意識を変えることが必要であると健康な方に理解を求めているが、認知症当事者や家
	族が受入れ、外に発信できる力を持ってもらうことが必要で、いかにお互いの意思疎通が図れるのか
56	にかかっており、簡単に出来ることではないと認識している。ましてや、人事異動もある中で、当事者と
	職員の人間関係を構築していくのは難しい。
	認知症は誰もがなる可能性があるにも関わらず、認知症を全面に出して事業を企画すると町民に抵抗
57	感があり、事業名に「予防」を入れてほしいと言われることがある。
58	認知症をかくしたいとか、認知症になっていることを認めたくないと言うような、偏見の気持ちが強いこと
	を感じる。
59	まずは認知症サポーターを増やし、認知症への偏見等をなくすことが第一と考える。
60	まだまだ「痴呆」等認知症への正しい理解が不十分だと思う。
	まだまだ認知症に対する偏見があり、認知症本人が声を上げることが難しい状況だと思います。認知
	症カフェを開催していますが、認知症本人が参加することはほとんどありません。本村では「認知症に
61	なっても、安心して生活できるまちづくり宣言」を行っていますが、日本全体で認知症に対する偏見を
	なくす取り組みが必要だと思います。
	ご家族へ認知症が「我が事」として定着しておらず、症状が進み、本人との関係が悪化したり家族が困
62	った状態にならないと相談や受診に至らない。地域での認知症への理解を深める取り組みが更に必
	要と感じている。
	「認知症本人からの発信支援」や「認知症の人の視点」を取り入れ、施策に反映させるよう努めるとはさ
	 れているが、当市はマンパワー不足や他業務との兼合いにより、認知症サポーター養成講座による支
63	 接者の意識啓発や、カフェ開催による本人参加等に取り組むことしかできていないのが現状である。ま
	 た、地域的にも認知症であることを公表することをためらう方が多い中で、本人の視点をどう把握してい
	くかが大きな課題と感じている。
	まだバリアフリーに関してどう推進していくのかまだ決められてない中、問9は回答しにくく補足してお
64	きます。(5:意見を言える人が地域にいるかもしれませんがまだ探していません。 7:まだ集まる機会
	や場を作っていません。10:本人ミーティングをやっていません。 15:まだ本人発信や社会参加につ
	いて考えることが出来ていません。)
<u></u>	

65	個人の意識に関することなので、専門職、本人、家族、地域住民等多くの人へ浸透するには時間がか
	かると思うので、地道にやっていくしかない。
66	認知症バリアフリーについては、現状進んでいません。
67	認知症バリアフリーには認知症の人の困っていることを可視化し、その障壁をなくすことが必要だと思
	いますが、認知症本人の困りごとが把握できておらず、取組ができていません。
68	認知症バリアフリーを行うには、地域全体の認知症等に関する理解・習熟が必要であり推進が重要で
	ある。また、その内容も細部に渡るため、そのことを全て成し遂げるまでには、行政は認知症地域支援
	推進員と連携しつつも、時間、労力(連携調整含む)、タイミングが必要であることから、実現化に数年
	はかかる。
69	認知症施策担当部署である健康福祉課の中に、直営の地域包括支援センターがあります。包括へ相
	談に来所される方の多くは、日常生活上に困りごとが出てきており、認知症の程度が進んでおられる方
	です。そのため、設問 2「本人の工夫」については、工夫をされ生活してみえた期間を過ぎていることも
	あり、本人へ聞き取るというよりは、家族をはじめとした周囲の支援状況について情報収集することが多
	いです。地域への認知症啓発(本人発信の重要性を含めて)を行っていけると良いと考えています。
	認知症当事者に会う機会が少なく、認知症の人と家族の会等が構成されていない。
	認知症キャラバンメイトの養成が進んでおらず、各種事業を実施するのが全て地域包括支援センター
70	になってしまうことや、当事者、家族、キャラバンメイト、サポータ等を集結したオレンジチームを構成し
	たいが、できていない現状である。
71	認知症本人からの意見を聞く機会が少ないので、そのような場を増やす必要がある。
7.0	認知症本人の意見や思いを聞く姿勢や機会は徐々に増えているが、十分ではない。また、認知症施
72	策に活かすことはできていない。
	 コロナ禍により、本人への聞き取り場面を積極的に作れない状況もあり、施策が思うように進まない現
73	実はあります。
	コロナ物 スナーの主た古位地域(トロック) とては新げわれたわれてもわれ、「もっしん」 早担に ズノ () の問
	コロナ禍で本人の声を直接地域住民に伝える活動はなかなかできなかった。しかし、居場所づくりや関係なり、専門際日本の連携は発えってきているとうに感じている。またした人が、のかがり、並中さに生
74	係作り、専門職同士の連携は強まってきているように感じている。本人と本人がつながり、前向きに生活ができるしが増えるわが見ば見るでいくとなる。鎌座のひなくず広想の新聞記事、翌知忘れるよう
	活ができる人が増えそれが目に見えていくように、講座のみならず広報や新聞記事、認知症カフェや
	普段の活動に本人が参加したり声が見えるかするような工夫をしていきたい。
75	コロナ禍による外出自粛や、高齢者が集まる活動(認知症カフェ、サロン等)が中止した時期もあり、認知症 スプリーに関する取り組みが上分できなかった
	知症バリアフリーに関する取り組みが十分できなかった。
76	新型コロナの関係で、対策を講じても機会や場を作ることが困難でした。認知症疾患医療センターと連携したい機会の確保に対象がおいた思います。
	携し、より機会の確保に努めたいと思います。 ************************************
77	施策の必要性は感じるが、具体的にどこから手をつけて良いのか分からない。
78	他業務に追われており、標記取り組みを行えていないのが現状です。
	認知症施策が次々に打ち出されますが、形ばかり整えるだけになってしまいます。小さな自治体では
	難しいと考えます。
79	誰もがなるであろう認知症だが、手がかかるようになると家族からも見放されてしまう。どこでどう対応し
	ていったらよいか悩む。ほとんどが無償のボランティアになってしまうので、もっともっと関心をもってい
	けるよう、声を上げていかないといけないのかもしれない。

80	認知症の個別対応や家族への対応・会議等はしているが、バリアフリーの推進や社会参加支援施策
	からの、具体的な動きがよくわからない。
81	「共生」と「予防」の力加減が難しく感じる。予防の啓発が強すぎれば偏見を助長させることにはならな
	いか。当町では認知症ということではなく、要介護となる前の元気なうちから地域や人のとのつながりを
	推進する啓発に取り組んでいる。
82	認知症バリアフリーは誰もが生きやすい社会にもつながると思われるので、認知症にこだわらず取り組
	むことが大切だと思います。
83	「認知症あんしんまちづくり条例」(令和4年4月施行予定)に基づき、認知症の本人も参加できる地域
	づくりに向け、認知症に対する正しい理解の啓発等に取組んでいきたい。認知症サポーター養成講座
	やそのステップアップ講座を積極的に行い、まちのみんなで認知症の人とその家族を支えるまちづくり
	を推進する。
84	ご本人に発信の意思があることで今年度講演の実施など活動に繋がりました。発信支援に力を入れて
	いく工夫を支援者や行政が積極的に関わっていかなければならないと思います。
	当市では認知症の方やご家族にとって、生活のあらゆる場面での障壁を減らす認知症バリアフリーの
	取り組みを推進するため、やさしい取り組みを実施している企業・店舗を増やすことを目的に今年度か
85	ら新たに「たかおか認知症パートナー宣言事業所」の登録制度を開始した。認知症の当事者の立場に
	立って、生活環境の中でできる部分を改善していくのが認知症バリアフリーの目的であるため、認知症
	の当事者から直接話を聞く機会を持っていきたい。
	運転免許返納後の交通手段として町内の高齢者専用バスを運行しています。決まったコースで停留
0.0	所はなく、乗降の際は手上げするバスです。多くのメリットはありますが、時間が把握できない、利用の
86	ルールがわからないなどで実際の利用が困難となる方が多いです。認知症の人への適切な外出支援
	を考えたいと思います。
0.7	自ら発信してくれる人は少ないと思いますが、いると思います。発信できない人の思いを引き出すことも
87	大切だと思いますので、話ができるような「場づくり」の取組が今後当町には必要だと思っています。
00	担当が色々悩むことに時間を費やすことが多かったので、今後は、もっと回りの力を借りて一緒に行え
88	る関係づくりを心掛けたいと思っている。
	地域では、認知症の方が地域活動や趣味活動に参加し他の参加者が見守っている状況があり、見守
	っている地域住人は認知症地域支援推進員へ相談できる関係も築かれています。また認知症カフェ
89	では長く通っている方に認知症状が見られはじめても、カフェに来る事を継続されている方の見守りも
09	できています。認知症の方が、慣れた地域でもともと関わりのあった方たちにさりげなく見守ってもらい
	社会参加を続けられる環境を小さい規模(町会、サロンなど)で展開できるような活動から、まずは取り
	組みたいと考えています。
	地域において認知症の方がこれまでの生活をその方らしく続けていくためには、まずは周りの理解と協
90	力が必要となる。そのための啓発活動やご本人との交流の場を作るためにも今年度から認知症カフェ
	を直営でも開設し取り組み始めた。コロナ禍でも取り組めることを模索している。
91	地域の見守り体制の構築を図り、地域支援体制の強化を今後も目指していきます。
	地域住民に対し認知症に関する正しい知識の普及啓発を継続することで、認知症になっても地域の
92	中で暮らし続け、発症前に参加していた地域活動に引き続き参加しながら、家族や地域の中で見守ら
	れ役割を果たせるような地域づくりをめざしたい。また、支援者に対し本人の意向を尊重したケア提供

	ができるよう、家族の意見ばかり聞くのではなく、認知症当事者の話をしっかり聞くことの大切さを伝え
	ていきたい。
	当市では令和4年度に道主催の認知症理解普及促進事業「認知症の人と共に暮らすまちづくり研修
93	 会」を開催するため、このような事業実施を通じて、認知症当事者や家族の意見を聞きながら事業展開
	を行う方法を学習し、今後の展開に向けて検討させていただきます。
	当市は高齢化率も高く、認知症の割合も高い。市では認知症になっても安全に暮らせる市をあげ見守
94	り宣言等を行っている。だが認知症の取り組みも大きくて出来る所ところから取り組みたい。
95	認知症になっても住みよいまちづくりを目指すために、まずは企業(金融機関、交通、スーパー)などの
	認知症サポーター養成講座の受講に力をいれていきたいと考えている。
	認知症の人が求めていることを可視化し、社会全体で共有化する。そして、共有した情報を活用し、認
96	知症の人への対処策について簡単に実践できる環境整備を進めていく。その成果を認知症の人に評
	価してもらい、見直していく事が必要。
97	認知症の正しい知識と理解を普及啓発しつつ、本人の意見も聴いて生活環境の整備につなげたい。
00	認知症バリアフリーの環境整備に向けて、地域や色々団体、企業との連携が必要であると感じていま
98	す。まずは認知症当事者に寄り添い、思いを聞くことから始めていきたいと思います。
99	まずは、認知症バリアフリーについて関係機関で共有すること及び認知症当事者としっかり向き合い、
99	その意向を伺うことが必要であると思います。
100	田舎なので互助機能が生きているので「バリアフリー」と意識しなくてもそうなっているようです。間違っ
100	た知識や情報の修正に努めていきます。
	国や県も国民に向けて認知症バリアフリーについてもっと周知してくだされば、市民も関心を持ってく
101	れるかもしれません。市の担当としては、推進大綱に沿って各施策を実施していきつつ市民に効果的
	に周知できるよう工夫していきたいと思っています。
102	地域づくりそのものだと思われ、行政の担当課だけでなく社会全体の高まりの後押しがあればと思う
	①感染拡大防止の観点から、認知症カフェや家族の会等が中止の為、当事者の意見を聞く機会の検
103	討が必要である。
103	②「認知症の人本人からの発信支援」に努める必要性がある事を、医師会等に県が周知して欲しい。
	③他市町村の取り組み等が分かる機会を提供して欲しい。
104	移動、消費、金融、小売り等の様々な生活環境について、どこからどのような方法で取り掛かればいい
104	のか、実行できるようなマニュアルや実例集があると良い。
105	先進的な取り組みを知る機会を設けて欲しい。地域の実情に応じた助言をいただけるとありがたい。
	認知症バリアフリーについて、ぜひ他の自治体で行っている好事例・課題について把握していきたいと
106	思う。認知症の人には出会えているが、支援者によるフォローが必要である場合が多く、認知症希望大
100	使の様に自ら発信力を持っている人はいない。そのため、発信力の大小に関わらずどんな方でも活動
	ができる工夫をされている事例を知りたい。
107	認知症バリアフリーについて、地域の協力がなければ実現しないように思われる。
	国、県から地域・企業に対して周知を行って事業に対し賛同を得ている企業等の情報がほしい。
108	認本人の参画の重要性は理解できるが、本人発信や社会参画への支援の考え方や方法がわからな
100	٧٠°

109

必要な取り組みだと感じているが、まだ十分な取り組みができていないと感じている。先進的に取り組 んでる市町の実践方法について知りたい。

(3)認知症疾患医療センター

問1-① 認知症の本人から、直接話を聞く(情報を得る)機会(抜粋)

- ・どのような立場: 医師、看護師・認知症看護認定看護師、精神保健福祉士、社会福祉士、ケアワーカー、 臨床検査技師、心理士(臨床心理士、公認心理師)、相談員、センター職員
- ・どのような場:

診察室での診察時(主に医師)、鑑別診断時の予診時、インテーク時、相談対応時(来所、電話)、

診察来院時に声がけ(立ち話・雑談含む)、同建物内の地域交流センターで話を聞く、病棟、訪問看護時 ※「診察終了後に相談室等の別室で」「相談室や待合室で本人が緊張せず会話できるスペースを探りなが ら」「初診受診相談時に相談担当看護師が面談や専門相談ダイヤルにて」「月2回、若年性認知症支援コー ディネイターを招いた「本人サポートの会」(月2回)」「状況によってはご家族と別々に。病院に来院したこと 自体に緊張されている場合もあり、本人に負担にならないよう意識して」等の回答があった。

問1-② 本人の家族や身近な人から話を聞く(情報を得る)機会(抜粋):

- ・どのような立場:医師、看護師・認知症看護認定看護師、精神保健福祉士、社会福祉士、ケアワーカー、 臨床検査技師、心理士(臨床心理士、公認心理師)、相談員、センター職員
- ・どのような場:

診察室での診察時(主に医師)、鑑別診断時の予診時、インテーク時、相談対応時(来所、電話)、 診察来院時に声がけ(立ち話・雑談含む)、同建物内の地域交流センターで話を聞く、病棟、訪問看護時 ※「本人の前では話しにくい等あれば家族だけでまず話を伺う」「来院時本人から少し離れている時に声を かける場合が多い」「家族等から話を聞くときも他患者を気にしないで済むよう別室で対応している。」「疾患 医療センター相談業務の種となる活動で、相談が止まることはない「等の回答があった。

問1-9 来所者を対象にした調査:調査(事業)名、頻度、対象等の概略(抜粋)

- ・診察終了時に、本人ご家族を対象としてた「診察終了後アンケート」を実施
- ・新型コロナ状況下の生活について1回実施。
- ・受診前後、カフェ、相談会などでアンケートや会話(参加時)程度
- ・本人発信支援の一環として、主に若年性認知症の方やその家族を対象に、それぞれの思いを中心とした アンケートを実施(結果をまとめたものについては普及啓発資料として活用していく予定)
- ・認知症サロンを Web 開催(年3回、対象:患者家族)
- •利用者満足度調査(年1回、等)
- ·介護負担尺度調查 等

問1-⑩ その他、認知症の人の日ごろの暮らしの様子について情報を得る機会(抜粋)

- ・通院中の患者様 1 名 (+ご家族)、認知症地域支援推進員と連携して当市でのヘルプカード作成の中で
- ・訪問看護を導入した場合、生活上の問題を治療プランに反映させる

- ・各地域のサロンや本人ミーティング、カフェ等に出席し、本人から話を聞いている
- ・若年性認知症の集いや本人ミーティング、オレンジカフェなどに参加した際に話を聞いている
- ・認知症カフェや講演を行っている時にアンケート調査を行っている
- ・初期集中支援チームや認知症カフェ、市の認知症に関する会議にて
- ・勤務先(若年性認知症の方の場合)
- ・病院内に重度認知症デイケアを併設しているため、利用者やその家族から情報を得ている
- ・個別に必要性に応じて関りをもっている関係機関に聞く
- •院内他科
- ・迷って当院にたどり着いた方や、受診時以外に間違えて来院された方の対応を行っている 等

問2一個得た情報について:その他、日々の暮らしの中の本人の困りごとや要望(抜粋)

- ・睡眠など生活リズムが整わない、夜間の不眠
- ・排泄や入浴:失禁してしまう、トイレを失敗してしまう、入浴をいやがる
- ・利用中の介護サービスでの困りごと: 行きたくない等
- ・料理:段取りがわるくなり品数が減る、食材が組み合わせられない、何を買ったらよいかわからない
- ・金銭管理ができない(通帳がみあたらない)、通販でどんどん買ってしまう
- ・家族関係がうまくいかない、ご近所関係がうまくいかない(被害妄想を含む)
- ペットの世話ができない
- ・スケジュール管理:外出予定(通院含む)を忘れる
- ・車の運転:免許更新か返納か、返納に同意しない、免許返納後の移動手段、外出が困難になる
- ・畑を続けたい、船に乗りたい(農業や漁業に従事してきた方が多い地域)、
- ・市町村からの郵便物や各種手続きがわからない
- ・人と交流する場がない、少ない、一日中することがない
- ・コロナ禍:受診を控えたい、外出が減った等

問2一⑤得た情報について:その他、日々の暮らしの中の本人の工夫(抜粋)

- ・服薬管理:服薬カレンダー、毎日使う場所(冷蔵庫等)に置いて飲み忘れを防ぐ
- ・電子機器の活用:PC、スマホなど(メール、Zoomなど)、電波時計、
- ・インターネットの活用(見守り体制)、GPS機器の活用(居場所がわかるように)
- ・買い物の支払い方法、まとめ買い、同じ店にいく、レジの方と顔みしりになる
- ・メモの記載方法(目につくところに貼っておく)、見当識を補うための設備を置く等もの忘れへの対処
- ・車の運転:必ず同乗者があること、近隣の決まった場所(通院、買い物等)にしか行かない
- ・仕事における困りごとや対応
- ・誘われたら出かけるようにしている、運動(散歩)を続ける
- ・コロナ禍となり外出が難しくなったこともありオンライン英会話を始めた
- ・病気の症状等に関して、自身の気持ちの切替えや気分転換などで工夫している事、自身で行動した事等

問4 得られた情報を本人や家族のよりよい暮らしへ活かす取組(抜粋)

・本人への情報提供:認知症の本人によるピアサポートの事業、本人ミーティング、本人ガイド等の案内

- ・(本人・家族の了解のもと)支援へつなげる取組:情報共有(地域の支援活動の方々、地域包括、等)、
- ・認知症カフェや子ども食堂での食事作りへの参加などを案内
- ・各関係機関に情報提供・情報共有をし、社会資源と結びつけている
- ・本人、家族ともに生活に対する希望や考えがすり合わせられるよう、助言・提案
- ・地域の居場所の情報提供や、同建物内の地域交流センターでの取組やセンターの居場所利用の案内
- ・令和4年度から、若年性認知症の方の就労促進を目的とした「若年性認知症就労連携事業」を展開予定
- ・当市版のヘルプカード作成中。他にも本人のやりたいことを中心とした集まりを作る取組を始めている 等

問5 得られた情報を、地域の認知症支援や関連事業に活かす取組(抜粋)

- ・(本人・家族の了解のもと)地域へつなげる取組:情報共有(地域包括、ケアマネ、専門職、等)、
- ・得られた情報やニーズを反映、フィードバック:認知症カフェ、家族教室、関係機関むけ研修等
- ・地域連携の会議に参加(地域ケア会議、連携会議、等)し、当事者の状況について情報提供、提案等

問6 地域の自治体(地域包括支援センターや認知症地域支援推進員等)と連携するうえで、重要だと考えていること(抜粋):

No,	回答内容
1	本人が困っていること、希望していることを共有し、一緒に地域づくりをしていくこと
2	最大の共通点は「地域の住民のため」。その気持ちがブレていないこと、誰に対しても平等なことが重要
3	一人の認知症患者さんの困りごとは、全てに共通だと思うので早めの対応ができるとよいと考える
4	認知症になっても、働き続けられる、社会参加できる場所を共に考えていくこと
5	早期介入早期対応につながるため情報共有が重要
6	ピアサポートに関する取り組みにも連携が取れると良い
7	普段から互いに信頼し、相談しやすい関係性作り
8	日常的に、個別相談を通して課題を共有し続けること
	可能な限り本人・家族への負担がないように、お互いの持ち合わせている情報は承諾を得たうえで共有
9	し、同じことを何回も家族に問い合わせたりしないよう務めること。(特に生活の中で何が障壁になって
9	いるのかについて)また、認知症の受診の相談であれば早急なトリアージを行い、緊急性が高いのか、
	地域のかかりつけ医で対応可能かを判断できるようにすること
10	「大学病院は相談しにくい」という壁を感じさせない事。困ったときは疾患医療センターからも相談するこ
10	ح ا
11	こちらから歩み寄る姿勢、連携する意思・行動を示す。敷居が高いと感じることがあると思う
	連携の重要ポイントは「相互理解」と「情報共有」と考える。各々が職種毎の役割や得意、できないことを
12	理解することが不可欠。本人、家族、支援者だけで問題を抱え込まないためにも課題の共有、多職種
	の視点を得ることで業務の効率化や治療効果の向上が期待できると思う
	在宅生活継続していく中で、介護の心構えや方法が、はじめて認知症の方を介護する家族には届いて
	いないように感じる。地域の包括や認知症推進員と共同で、認知症カフェにて介護の相談を多くの人に
13	できれば、医療・介護・本人家族の知識の向上になると考えている。医側が知らない、介護の工夫が聞
	ける。介護側がしらない医療の知識が聞ける。本人家族は両方聞ける。共同で何かをするということが
	必要だと考える

14	コロナ禍で難しくなっているが、顔の見える関係づくりが重要
15	すでに地域では様々な取り組みが行われているところに、当センターが開設してまだ間もない。これま
	で地域の取り組みなどを聞ける機会が必要だが、コロナ渦で地域の方々と直接お会いできない状態が
	続いている。できれば「会議」という席だけでなく、少人数でご本人やご家族を交えての地域全体の認
	知症ケア支援について、具体的に話し合うことが必要と考えている

問7 地域の医療機関(かかりつけ医等)と連携するうえで、重要だと考えていること(抜粋):

No,	回答内容
1	お互いが情報共有し、その人にとっての最善を考えられること。
2	医療(診断、治療)にとどまらず、認知症の人を生活も含めた「面」での支援について問題意識を医師ら が共有する
3	医療の都合ではなく、本人主体の医療連携になるように考えていくことが重要だと考えています。
4	元々、どのような既往歴でどういう経過をとってきた方だったのか、医療に対して望むことや、本人の受 け取りなど
5	本人の現在の状態の共有と課題点
6	本人の診察をする際に身体面での情報を頂けると診察がスムーズに進みやすいので有難いです。
7	本人家族の情報(病状や社会状況等)の伝達。
8	未受診の方が早めに受診できるよう調整できると良い。当院でなるべく早く受診できることが望ましい が、難しい場合には適宜医療機関を案内して早めに受診できるよう調整することが重要。
9	かかりつけ医と連携を図ることで、本人の身体的・社会的側面等を総合的に評価の上、的確に診断し、 医療・介護・生活支援等の支援に結びつけることが重要。また、患者様が自分の病態に適した医療機 関で医療サービスを受けることができるという点も重要である。
10	高齢者は身体疾患と認知症が併存していることが多いため、身体状態を把握されているかかりつけ医の先生方との連携が欠かせないと思われます。BPSDでの薬物調整についても身体疾患の状態が把握できてこそ、調整を行うことが可能になると思います。
11	生活に問題が生じないうちに、連携できれば良いです。認知症が気になる方が、認知症以外の疾患の治療のみで過ごしている場合が散見している。かかりつけ医との連携で、経過観察が大切と考えます。
12	①かかりつけ医の意識改革。きわめて一面的な診方に留まり、ご本人やご家族の意思を尊重せずマニュアル診療となっている。認知症に対する偏見はかかりつけ医の中にも根強く存在している。人としてご本人と向き合う心があれば、連携はもう少し進んでいくと思われる。②かかりつけ医の行動を規定する第一に収益追求があることが大きな障壁になっている。患者さんの抱え込みで専門医に相談しない実態がある。これは認知症のみでなく広く病診連携の障壁の最大の理由となっている。悲しい現実である。
13	お互いの専門性を活かした的確な情報共有。
14	お互いに顔と顔がわかる関係性。日頃の信頼関係の積み重ね。礼儀を尽くす。 医師会を通じた研修会、交流会の機会を連携強化に役立てています。 連携しよう、何かをしようという前のめりな姿勢よりも、かかりつけ医の役に立ちたい、協力したいという疾 患医療センター側の日頃の姿勢が重要だと思います。かかりつけ医それぞれの特徴、強みを理解し て、それぞれの最適な連携を見出すようにしています。
15	かかりつけ医、病院主治医の意向も尊重し、速やかな連携と医療分業。

16	かかりつけの先生方は日頃から患者に接する機会も多く、そこから必要に応じて、当センターへの紹介
	に繋がる状況。そのため、当センターの関わりが必要な方へ届くようにするためには、かかりつけの先生
	方へ当センターのPRや役割・機能の理解促進が重要と考える。
17	かかりつけ医から紹介されたケースは、時期をみて、かかりつけ医にお返しして治療を継続していただく
	ケースを増やし、かかりつけ医が困った時に頼れる機関として認知してもらえるようにすることだと思う。
18	かかりつけ医としてのアセスメントや身体状態に関する情報は専門医受診においても重要であり、適切
	に情報提供し合える関係を築くことが大切だと思います。
	かかりつけ医に何でも相談して下さいと言われる方と先生に失礼なのでと連携することに気が進まない
19	方がおられます。センターとしては身体の管理はかかりつけ医、精神症状は精神科病院で行うように連
	携がとれたらよいと思う。
00	かかりつけ医に対し、疾患センター側の考えや目的、目指すところを知らせていくことで、センターとつ
20	ながることにより意味のある認知症のご本人やご家族とつながっていく機会を持つことができる。
0.1	かかりつけ医のある方は、当センタ一受診後も、かかりつけ医の先生に診てもらうことで、その後、何か
21	あった時にも当センターへの受診につながりやすい。
22	かかりつけ医の医療機関にも窓口になっていただける専門職がおられれば、なおうれしい。
00	かかりつけ医研修、サポート医研修を開催することで顔の見える連携関係を構築し早期診断・治療・専
23	門相談を対応を行い、切れ目ない医療、福祉の実践を行うことが重要であると考えている。
	センターの役割を理解していただき、本人を取り巻く医療サービスの中で適切な役割分担が重要では
0.4	ないかと考えている。鑑別診断や BPSD への対応、情報発信などをセンターが担い、日常の受診対応
24	や訪問診療医であればアウトリーチなど、センターでは賄いきれない点を地域の医療機関と連携してい
	くことで、適切な医療サービスが提供されるのではないかと考えている。
	その人個人に対して、専門性を必要とする治療や医療提供の方法は違うと考えられるため、センターは
25	その手助けをしていく必要があるし、それをしていくことで、認知症疾患の患者が出来るだけ地域の中
	での生活が継続出来、ライフバランスを崩さずに生活していくことが可能になると考える。
26	医師間の情報共有はもちろんのこと、医師と関係職種(コ・メディカル等)との情報共有も必要。
	医師同士で患者様の情報・状況がスピーディーに共有できることだと思います。服薬の重複などを避け
27	るためにも必要なことですし、センターとしても、患者様のかかりつけ医の有無・既往などきちんと把握し
	なくてはならないと思います。
20	顔と顔の見える関係づくりが重要と考えているため、紹介元へのお礼を兼ねた訪問や、疾患センターの
28	役割と活動について周知するため地域の医療機関への訪問活動を継続して行っています。
20	顔の見える関係つくりが重要。センターの広報誌や研修会の開催など地域の先生方に疾患センターの
29	活動について理解を深めていただき、相談しやすい関係つくりに取り組んでいる。
30	日頃からの連携により、信頼関係を築くこと。
	細かく丁寧に紹介状の返書をされており、そういった積み重ねが認知症理解につながり、また気になる
31	症状があった際に、すぐに紹介して下さりやすい関係性につながってくると考えている。
	書面でのやりとりにはなりますが、治療内容や検査内容について細かく共有できる様に心掛けておりま
32	す。

33	現在、脳神経内科は、2人主治医制としてかかりつけ医から紹介を頂き、当院で鑑別診断しその結果と
	投薬についてかかりつけ医へお伝えしフォローをお願いしている。その後、フォローアップで再度ご紹
	介して頂くという連携体制に取り組んでいる。こうした医療の連携も重要だと考えている。 開設 1 年であ
	るため、こうした2人主治医制や認知症疾患医療センターの取り組みなどを知ってもらうべく、地域に向
	けた研修会やセミナーを通して、気軽にご相談いただけるような関係を築けたら良いと思っている。
	紹介を受けた際は対応に尽力し、生活環境や治療方法など安定してからは早急に紹介元に逆紹介す
34	ること、状態は変化した場合には再度紹介を積極的に受けること、個々の医療機関としての役割を明確
	にすることが重要と思われる。
35	互いの役割と限界を知ることが重要だと思います。認知症疾患医療センターについて知ってもらう広報
30	活動も必要と考えます。
	情報共有。医療情報は医師同士の手紙でやり取りされるが、生活支援や関係機関の情報については
36	伝わっていないことが多いので、支援状況について必要なことは、かかりつけ医にご報告するよう心が
	けています。
	知識や支援方法を共有しスキルアップを図っていくこと、気軽に相談できる関係を構築・維持することが
	重要。また紹介状に対する返書の内容も非常に重要であると考える。検査所見や診断、治療だけでな
37	く、対応方法、介護保険を含む社会資源についての内容も入れることによって、どのステージでも受診
	いただくメリットを感じてもらえる。結果として早期に紹介頂く件数が増えれば、いろんな可能性が広がっ
	てくる。
	地域に密着した支援体制を構築するには医療についても身近な医療機関と疾患センターの双方向的
38	
38	連携は不可欠である。
	連携は不可欠である。 地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機
39	
	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機
	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医か
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医か らの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医か らの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医からの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま た、本人の受入れにおいても、長く関係性のあるかかりつけ医師には、信頼して相談もできる点、またそ
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医からの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま た、本人の受入れにおいても、長く関係性のあるかかりつけ医師には、信頼して相談もできる点、またそ の医師の勧めなら応じる場合もあり、かかりつけ医による情報提供は早期治療においても欠かせない。
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医からの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま た、本人の受入れにおいても、長く関係性のあるかかりつけ医師には、信頼して相談もできる点、またそ の医師の勧めなら応じる場合もあり、かかりつけ医による情報提供は早期治療においても欠かせない。 そのためには、まず認知症症状に関する知識とかかりつけ医が困った際紹介できる病院先の把握が必
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医からの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま た、本人の受入れにおいても、長く関係性のあるかかりつけ医師には、信頼して相談もできる点、またそ の医師の勧めなら応じる場合もあり、かかりつけ医による情報提供は早期治療においても欠かせない。 そのためには、まず認知症症状に関する知識とかかりつけ医が困った際紹介できる病院先の把握が必 要であると感じる。
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医からの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま た、本人の受入れにおいても、長く関係性のあるかかりつけ医師には、信頼して相談もできる点、またそ の医師の勧めなら応じる場合もあり、かかりつけ医による情報提供は早期治療においても欠かせない。 そのためには、まず認知症症状に関する知識とかかりつけ医が困った際紹介できる病院先の把握が必 要であると感じる。 疾患センターの役割で認知症疾患の普及啓発が含まれている。地域医療機関への認知症疾患への理
39	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医か らの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま た、本人の受入れにおいても、長く関係性のあるかかりつけ医師には、信頼して相談もできる点、またそ の医師の勧めなら応じる場合もあり、かかりつけ医による情報提供は早期治療においても欠かせない。 そのためには、まず認知症症状に関する知識とかかりつけ医が困った際紹介できる病院先の把握が必 要であると感じる。 疾患センターの役割で認知症疾患の普及啓発が含まれている。地域医療機関への認知症疾患への理 解・診療等含めた研修会の開催は、連携を求めるうえで必要な取り組みであると考える。
39 40 41	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医か らの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま た、本人の受入れにおいても、長く関係性のあるかかりつけ医師には、信頼して相談もできる点、またそ の医師の勧めなら応じる場合もあり、かかりつけ医による情報提供は早期治療においても欠かせない。 そのためには、まず認知症症状に関する知識とかかりつけ医が困った際紹介できる病院先の把握が必 要であると感じる。 疾患センターの役割で認知症疾患の普及啓発が含まれている。地域医療機関への認知症疾患への理 解・診療等含めた研修会の開催は、連携を求めるうえで必要な取り組みであると考える。 認知症疾患医療センターでは、診断がついたあとかかりつけ医に戻っていただくケースが多い。受診時
39 40 41	地域のかかりつけ医で認知症を積極的にみてくださるような先生がもう少しいると、疾患センターの待機 状況は改善されて、紹介元に戻せるような気はしています。 地域のかかりつけ医の先生方だからこそ、ご本人の事をよく知っていて提案して下さる事もあると思うの で、受診結果を必ず情報提供させていただき、今後のフォローに役立てていただけるようにしていま す。勿論、何かありましたらまた当院を受診して下さるようお伝えしています。 地域医療機関での早期発見になるケースは多々あると感じている。当センターでも年々かかりつけ医からの紹介がみられ、その紹介理由は「ここ最近様子がおかしい」「話がかみ合わなくなった」「受診日を 忘れている」「薬の飲み忘れがある」等、長くみている事で変化に気が付き専門医へ紹介されている。ま た、本人の受入れにおいても、長く関係性のあるかかりつけ医師には、信頼して相談もできる点、またそ の医師の勧めなら応じる場合もあり、かかりつけ医による情報提供は早期治療においても欠かせない。 そのためには、まず認知症症状に関する知識とかかりつけ医が困った際紹介できる病院先の把握が必 要であると感じる。 疾患センターの役割で認知症疾患の普及啓発が含まれている。地域医療機関への認知症疾患への理 解・診療等含めた研修会の開催は、連携を求めるうえで必要な取り組みであると考える。 認知症疾患医療センターでは、診断がついたあとかかりつけ医に戻っていただくケースが多い。受診時 に診療情報提供をスムーズにしていただきたい。スムーズな受診予約が必要と考えるが常に混んでい

	当院ですと、かかりつけの先生方から『認知症のフォローお願いします!』という紹介が多く、逆紹介を
44	する機会がほとんどない状況です。ですが、身体疾患の治療等で近医を通院されているケースもあるた
	り、当院とかかりつけの先生それぞれがどの部分の治療を行っているのかをしっかり把握することが大
	切だと考えています。
	当センターもの忘れ外来を受診し、鑑別診断後、通院が遠方であったり、当院に通院する交通手段が
	ない方々は、ご自宅から近いかかりつけや病院へ紹介することもあります。その際は診療情報提供書を
45	通じて、ご本人の現在の様子と今後の経過が、なるべく分かりやすくなるようにしています。また、ご本人
	の認知症が進行し、対応困難となったり、服薬調整が必要となった際には、当センターで診察可能であ
	ることも併せてお伝えし、ご本人が住み慣れた地域で少しでも長く生活できるようにしたいと考えていま
	t.
	認知症鑑別精査後、該当の患者への関わりを終えるのではなく、その後の患者の様子をかかりつけ医
	療機関へ必要に応じてアセスメントし、症状増悪時に、また当センターへ、事前の情報が集まっている
46	状況のなか、紹介をいただく在り方が、理想だろうか。アセスメントする先には、勿論、訪問看護やケア
	マネージャなども含まれており、その1人に携わる様々な支援者とかかりつけ医療機関との情報交換
	が、目的をもって、適切なタイミングで行われると、ケースがよりよい方向へ行くと推測できる。かかりつけ
	医療機関の専門職や医師を、事例検討会へお招きするなど。
	長年をかけて、当院が認知症疾患医療センターであり認知症の検査、診断、治療を専門にしていること
	を表明し、当院はかかえこまず、必ずかかりつけ医にフィードバックしていく好循環を構築してきた。その
47	ため、地域の医療機関とは、「認知症相談医」として担っていただき、センターで医療機関一覧のパンフ
	レットを作成。各医療機関の待合にや当院ホームページで掲示している。地域住民に知っていただく地
	味な作業を認知症疾患医療センター指定前から17年間続けている。
48	認知症疾患医療センターとかかりつけ医の両方で地域における生活を支えていくこと、地域包括ケアシ
40	ステムのイメージを共有すること
	認知症疾患医療センターの機能を理解いただけるような広報活動
49	紹介いただいた際に「紹介してよかった」と感じていただけるよう、丁寧なフィードバックを行うこと
	本人・家族への細やかな対応を行い満足度の向上
	役割の分担をおこない、必要な時にタイムリーに対応できるようにしていきたいと思っています。認知症
	の鑑別診断、治療方針の選定等を認知症疾患医療センターにておこない、日頃のきめ細やかな診察
50	についてはかかりつけ医に診ていただき、病状の進行時や行動心理症状、身体合併症に対する対応
	等について、できる限りタイムリーに対応できるように努めていきたいと思っています。
51	話が出来る場を設けること。気軽に連携するのはハードルが高い。
	離島ではまだ精神科に対する偏見があり、早期に専門医を受診してほしいと思ってもなかなか受診に
	繋がらないケースが多いです。信頼関係ができているかかりつけ医でしっかりと話を聞いて下さり、必要
52	時には専門医受診の必要性を説明し、専門医への受診をすすめていただければ、早期支援につなが
	っていくのでは・・と考えます。
53	現状、かかりつけ医等との連携があまり行えておらず、具体的な連携方法を検討していく。
54	個々の医療機関との連携は上手くいく場合も多いが、医師会単位になると連携が難しい場合がある。

「認知症バリアフリー」についての自由記述

No.	回答内容
1	あらためて相談員同士、勉強致しました。再確認する良い機会でした。
	生活の状況については聞き取りをしていたが、工夫している点や希望・思いについても、もっと意識し
2	て聞いてきたいと思った
0	ハード面(レジやATM等)の充足も大事だと思いますが、何より肝心なことは、認知症であるということ
3	を特別視しない社会の形成が、バリアフリーにおいても最も大事なことではないかと考えます。
	移動手段の確保、AI機器の導入などハードウェアの調整や導入も必要であると思うが、認知症の捉え
4	方、症状理解、認知症を患っている「ひと」の理解が重要と思います。「認知症バリアフリー」という思想
4	や環境の捉え方はユニバーサルデザインと同義で、私達にとってもやさしい思想、環境と思うので、も
	っと声高に伝えられるといいと思います。
	制度や仕組みでバリアフリーを整えることと同等に、心理的なバリアの解消が必要なのかと感じました。
	自治体や医療、福祉のモデルの中ではだいぶ認知症への理解は進んできていますが、社会全体を捉
	えると歪曲していたり、極端な捉え方(認知症になったらもう人生は終わり、認知症の人は生きていても
5	仕方ない、等)がよく見られます。(ある意味、この日本社会での老いに対する恐怖心かもしれません
	が) 福祉や医療、自治体の範囲で整えるだけではなく、地域社会・企業とのタイアップ、若年層への
	正しい知識の啓発なども、真の意味でバリアフリーを整えるには必要ではないかと日々の業務を通じて
	痛感しております。
6	まだまだ、本人が情報発信し、社会に働きかける場や取り組みが少ないと感じるので、そういった機会
0	が増えていくように日頃の業務に取り組む必要があると感じる。
	日常的に「認知症」という言葉は聞かれるが、「自分の思い通りにならない人」「理解できない人」「困っ
	た人」のニュアンスで使われることが多いと感じている。バリアフリーのためには脳の変性疾患によって
7	引き起こされた状態として正しい知識の普及も必要だと感じている。
'	今回、アンケートに回答するにあたり、家族の意見は聞いていても当事者の意見は把握できていない
	ことがあることを再認識した。バリアフリーのために本人の意見を引き出すことをより一層意識していきた
	V' _o
8	現在は家族の意向に沿って医療や介護を行っていることが多い。本来は本人の意向に沿って、本人
	の負担を最小限にするべきだと思っています。
9	支援機関につながらず、立化していく、支援の空白の要因となる、疾患に対への偏見、見えない支援
J	者との壁があることを意識し、当事者の目線となった相談支援を行いたいと考えています。
	医療機関としては、ご本人のお話やご意向も当然伺うが、診断のために客観的な情報が必要なことか
10	ら、どうしても本人の生活についての情報を家族から得ることが避けられないように感じる。しかし、もっ
10	と認知症が「当たり前」になり、本人が「ああしたい」「こうしたい」と積極的に発言できることが当然となる
	よう、場を作ることや働きかけは必要だと感じる。
11	本人の希望に基づいた支援を進めようとすると家族支援とのズレが生じご家族側がしんどいと感じるこ
11	とも多く、本人の希望、家族の支援のバランスが難しいと感じることがある。、
	支援者側が必要と思うことと、認知症の方が望むことにずれがあっては「バリアフリー」にはならない。ま
12	ず認知症の方が日常生活で何を求めているのかを知り、それを解決することから始めることが重要で
	はないか。

13	知能検査に「バリアフリー」の意味を説明する課題があり、多くの方が「段差をなくす」と転倒しないよう
	な床や道路の説明をします。認知症バリアフリーというと、認知症の方が転んでゲカをしないようにする
	取り組みと勘違いをする人もいると思います。
14	認知症の方だから、という気遣いも必要な部分はありますが、誰もが自分らしく生活できる環境を目指
	すことが各々のバリアフリー化を実現することだと思います。今後、バリアフリーな社会を形するには成
	幼少期から認知症について正しい知識が習得できる機会が必要だと思います。現在取り組めることとし
	て認知症疾患医療センターとしては認知症サロンや動画作成による啓発やご本人・ご家族への情報
	発信を行うことと考えております。
15	わかりやすさ、意思表示のしやすい環境があること
16	認知症だからとしたいことをあきらめることがないよう、周囲の人の意識改革や地域の土壌づくりが必要
17	認知症の人も元気な人も少しだけ心を通わせる時間を持つこと、相手を想う時間を持つこと
	認知症バリアフリーの意味がわかりません。ですが、認知症の人に対して、社会に障壁があることは実
18	感しています。まずは、医療機関が認知症患者に対する冷遇がなくなること、これをバリアフリーという
	のなら、そうなって欲しいと思います。
	認知症バリアフリーを考えていく上では、病気や障がいのあるなしなど関係なく健常者や若者なども含
19	め、社会全体の課題として考えていく必要があると思う。
	認知症をもつ人、そして、周りで支える人が、その関わり合いのなかで、何に対して「バリア」を感じてい
	 るかを、把握する必要があると考えられる。バリアフリーと聞いて一般的にイメージされる従来のものと
20	 は異なり、個々のもつ認知症状について、傾向を含め把握をし、個々に応じたバリアフリーを考えること
	もまた、これからの高齢者社会にはより重要な視点と考えられる。
	認知症は病気であるとともに、年齢を重ねれば誰にでも起こりうる自然な変化でもあると捉えています。
	認知症を怖がりすぎず、正しく恐れる(予防できるものは予防する)、受け入れるために、認知症というも
21	のをオープンにしていく必要を感じています。それにはまず、受け入れる側(地域全体)の知識・心意
	気・心構えが必要と思います。
	認知症バリアフリーとは、認知症になっても住み慣れた地域で暮らしやすい環境作りと考える。まずは
	 理解してもらう為に認知症について啓発はなされているが、認知症の人が身近いるかいないかで興味
	 の持ち方は違い、知識ついても格差がある様に感じる。また、知識はあっても実際認知症になった、認
22	 知症の方を見た時にどうすれば良いか分からない人も多い様に感じる。今後も認知症の啓発しつつ、
	すでに認知症に興味・理解のある方々へ実践での活かし方(地域で認知症を見かけた際の声のかけ
	方)などを踏み込んで伝えて行くことが必要ではないかと考える。
	様々な考え方、偏見のない認知症の理解など、地域で啓発が進んでいくことで、こころの面でのバリア
23	フリーが進んでいくものと感じている。
	認知症であってもその人のこう生活したいという意向を受け止め、見守り、必要時は手を貸す。設問の
24	期間につなげられる。自分だったらという思いを周囲の人が持てる地域だと本人も家族も安心して暮ら
	せていけるのではないか。
	認知症になっても住み慣れた地域に安心して住み続けることが出来るように、疾患医療センターでもど
	うやったら障壁を軽減できるのかを念頭に日々活動をしています。一方で「何がなんでも在宅療養!
25	地域サービス!」と思い込んでいる、専門職、家族がいます。低栄養、迷子など生命に関わる状態にな
	つても、入院や施設入所は「悪」だと思い込んでいる様です。大切なことは、在宅、施設、入院どの選択
	- ~ 、

	も選べて、いつでも修正が可能であり、どの選択だとしても安全と生命が保障されて、本人らしさ、本人
	の意思決定が尊重されていることだと感じます。言葉だけが先走ってしまうことで、勘違いしてしまう方
	がいることは気をつけなければならないと思います。
26	│ │ 認知症であることが特別なことではなく、現在は誰にでもなりうる病気と説明している。独居高齢者が多
	 くなり、妄想や不安から精神的混乱が出現しないように、気軽に集まり、困りごとや、悩みを気軽に話せ
	 る地域介護力の底上げが重要。全部できない人ではなく、出来ることはやっていただき、不便ことはお
	手伝いすることが認知症介護では重要と説明している。
0.7	
27	「認知症バリアフリー」という言葉が地域に浸透できるような取り組みが必要であると感じました。
28	「認知症バリアフリー」という言葉や意味をどのように地域の方へ知ってもらえるようにしていくかが興味
	があります
29	「認知症バリアフリー」についての社会への周知が必要だと思います。
30	認知症に関する普及啓発が重要だと感じます。
31	認知症のご本人の意見を聞き、一緒に考えることが当たり前の社会になる必要があると考える。
32	きわめて重要だと思われる。
33	その重要性は自覚しているが、その具体的な知識、取り組みが乏しく、今後の課題と考えている。
	ケアマネ等の後方支援に地域包括支援センター等が活躍されており、その取りまとめとして市が認知
34	症バリアフリーを進める主軸となり、県内のバリアフリー化が進むことに期待。センターはいくつかの市
	町村に一つなので診断、相談、アドバイスなどで協力していきたい。
	行政を含む多職種連携がカギとなると思います。認知症の方は、関わる人により本音を話したり話さな
35	かったりします。よって、各々の支援者の情報を共有することで、優先的に解消すべき障壁の共通認識
30	ができると感じます。認知症の人にとっての障壁が支援者の認識よってバラバラだと解消への取り組み
	もなかなか進まないと感じています。
36	免許証返納後の移動手段や若年性認知症患者の就労支援等、自治体が主体となって進めて頂きた
50	الا ب الاستان ا
9.7	認知症バリアフリーについて、県としては全く変化がないと思われる。認知症の方が住みやすい社会の
37	実現には行政や認知症関係の専門職だけでなく、地域住民の理解が一番重要だと思われる。
20	一人でも多くの認知症当事者の様々な声を聞き、進めていくもの。今、認知症疾患に関わりのない
38	方々も、互いに地域住民の一人として念頭にあっていただきたい概念。
0.0	過疎地域は買い物など公共交通機関の利用が難しいため、何かしらの外出機会が増やせる取り組み
39	を期待したい。
40	就労の場、集いの場など本人や家族の閉じこもりと孤立を防ぐ取り組みや仕組みつくりは重要だと思い
40	ます。
41	住み慣れた地域で暮らし続けていくために推進されていくべきことだと思います。
40	地域の中の専門医療機関として、認知症に関する啓発やその他、ご本人がより良く暮らすことができる
42	地域つくりのための様々な活動を地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいと考えます。
40	地域住民の方が研修を受けたり意識をしなくても、自然に CM 等で認知症の方が活躍されていること
43	を知って、気づけば認知症の方とともに過ごしているという形で持っていけるのが理想。

	1111111111111111111111111111111111111
44	地域住民や当事者のご家族であってもまだ十分に認知症バリアフリーのことを理解されているとは言え
	ません。地域住民に向けて講演会等を開催しながら伝えて行かなければならないと思っています。
	当医療圏では、認知症に限らず医療資源・在宅社会資源が不足しているために住み慣れた自宅を離
45	れ施設に入所することが多々ある。バリアフリーを目指すためには地域の市町村や社会福祉協議会の
	更なる支援が必要だと考える。
46	認知症があってもなくても住民みんなが住みやすいまちを住民の手で作っていく。
47	認知症があっても地域で穏やかに生活を続けていけるよう、地域でのインフォーマルな見守りやサポー
41	トが広がっていけばと考えています。
	認知症があっても無くても、地域で生活する人々がこれまで通り住み慣れた場所で過ごせることが重要
48	であるが、個々に応じた環境整備も必要ではあるが、地域の特性に応じたシステムづくりができればよ
	いと考える。
	認知症が特別な事ではなく、誰もが「いずれは自分も通る道」として捉える事が出来るようになればと願
49	っています。
	認知症に問わず、地域に暮らす人が過ごしやすい取り組みできたら結果、認知症患者にとってもよい
50	環境になるのではないかと感じます。
	認知症が発症してから支援までのタイミングが重要ではありますが、発病する前から地域とのつながり
51	 や自治体とのかかわりがあると、ご本人の不安が少し軽減されるように思われます。 認知症バリアフリー
	 が進み発症しても「ここでなら安心」と思える"関わり作り"が出来ると良いと思います。
	認知症の人が住み慣れた地域でその人らしく生活していくためには、医療、福祉、行政等の専門職の
52	 みが関わるだけでは不十分であり、大人も子どもも、地域全体で認知症に対する理解を深め、支援し
	ていくことが重要。
	認知症になってからも出来ることはあり、認知症であってもなくても自分らしい生活を送ることはその人
	 の生活の充実につながると考えている。そのためにも正しい知識の周知や、本人を中心とした活動を
53	 活発化させることで、本人だけではなく関わっている人たちも「自分が認知症になってからも住みたい
	 町」と思える地域作りをしていきたいと考えている。
	 センターとしては、アウトリーチとして出前講座や出前相談等を通じ、認知症バリアフリーへの啓発活動
54	 をしていきたい。
	↑ 一方護者は患者さんに対して日常的に最低限必要不可欠な介護だけでなく、本人とのコミュニケーショ
55	 ンとしての時間やアクティビティ活動を見守りながら一緒に行うことができるように人員を含めて必要な
	 環境を整えることが必要であると考える。
56	□ 子ども食堂と高齢者の食事支援が同時にできる場所など、自然な形での地域交流の場所。
	診断後の方々に安心して生活を送っていただけるよう、認知症バリアフリーの取り組みが進められてい
57	ることを知っていただく機会を作っていければと考えています。
	当院は統合失調症の方の就労支援を70年行ってきました。認知症になっても何かの形で就労できる
58	ようになるとよいと考えます
	難聴を含め、聴覚情報の理解は困難だが、視覚情報であれば正しく理解できる人は多い。説明や案
59	内の際は文字で伝える支援を心掛けている。
60	認知症バリアフリーの実現を目指して取り組んでいます。
00	PD/NH/IL/ 'ノ/ / / V/元元で日1日レく4Xソ/IL/U (V ' より o

	日常生活で本人の「できない」という状態が自信の喪失につながらないよう、出来るだけ簡単に生活が
61	送れるようにする、あるいは出来ることを維持していくことが重要であると思います。レベルに応じて、本
	人の自信につながるような支援、環境整備を行うことも大事だと思います。
	認知症の方の生活の中で起こる困難さは、医療福祉サービスだけで補えるものだけではなく、家族や
62	地域住民の理解も大きく関わっていると感じている。本人だけでなく、周囲の理解も得られるように働き
	かけていきたい。
63	認知症の方に対する偏見を減らし、認知症でも住みやすい地域づくりを行っていきたい
	この件に関してはマスコミ、各医療機関の取り組み等で随分と進展したと思う。 特に H12 年の認知症
	治療薬の発売とH16年の痴呆から認知症に行政用語が変わってからより進展し今日に至る。昨今は
64	若年の当事者発信がよりバリアフリーに貢献していると思う。ここに当地域も関わりたいと思う。小さな活
	動だが、若年認知症支援コーディネーターも当センターにおり、若年認知症本人のカフェなど開催し
	ている。
	一般的にはこの言葉自体が周知されいないように思います。個人がどう行動することが「認知症バリア
65	フリー」なのか、具体的に示していく必要があるのではないでしょうか。
	家族または地域の中で認知症患者が出たときに、周りが落ち着いて対応できるように情報を発信し、必
66	要なサポートが速やかにできるように今後も取り組んでいきたい
	今まで認知症に対して考えてきたことや行ってきたことが「バリアフリー」という言葉に置き換わったよう
67	に感じるので方向性としては変わらない。企業などが身近に感じることで推進されると良いと思う。
68	専門職だけではなく、地域の住民と認知症の患者の問題点を考える場を持ち、共通認識を得ること
	全ての人が認知症を自分事として考えるところから、様々な施策や連携、啓発活動を行なっていくこと
69	が必要かと思います。
	認知症のために運転免許を自主返納した患者さん、もしくは更新ができなかった患者さんのその後の
70	移動手段や活動方法について、地域によって格差があるように感じています。市に相談しても予算や
	関係各所の都合等いろいろあり難しい問題だと思います。
	認知症の方が積極的に地域に出て、生活を送れるサポート(ヘルプマークの普及等)が増えていくとよ
71	いと思います。そのような機会をたくさんの人が目にすることで、いずれ自分が認知症になっても安心し
	て生活を送れる社会であると感じられると思います。
	認知症の方々の現状を適切に伝えられていないと思う。例えば認知症サポーター養成講座のテキスト
	等。また、加齢に伴い苦手なことが増えてくるということに対して、広い視野で見守りやサポートができ
72	れば、その結果、認知症の方にとって、また、それに限らず他の障害のある方や子育て中の方等が生
	活しやすい環境になるのではないか?
	認知症への理解が進む一方、まだ偏見は大きく、認知症バリアフリーは今後とも大きな課題だと思いま
73	す。
	認知症バリアフリーの考え方は大切だと思うが、まだそこまで行っていない自治体が多いと思うし、当地
74	域もそう。認知症に対する偏見が本人・家族・地域・専門職に根強い。
	徘徊(行方不明など含む)、暴力行為、妄想等により近所の方々への悪影響がある場合には、地域で
	の生活が困難となりうる。住み慣れた地域で認知症の方が安心して生活するためには周囲の方の認知
75	症への理解や協力は欠かせないが、前記のような症状はバリアフリーに生活するためには阻害因子と
	なる。

76	この調査で対象になる方は、設問内容より比較的軽度の方の印象をもちました。当センターは精神科
	病院で、入院機能があるため、受診される患者様は認知症の重症の方が多く、設問にあるような困りご
	とはなかなか聞かれません。
77	日本認知症本人ワーキンググループの活動を HP 等で拝見させていただいています。その中で「古い
	認知症観」からの脱却とあり「認知症とともに希望を持って生きる」新しい認知症観が必要であることが
	述べられていました。それが本当の「認知症バリアフリー」なのだと思います。医療の現場のバリアフリ
	ーはまだまだですが、センターとしてもその考え方の普及をしていきたいと思っています。

3. モデル事業

1)モデル事業(試行)地域会議

(1)第1回試行地域会議

日時:令和3年10月6日(水)15時~17時

開催方法:オンライン会議

出席地域:①釧路地域/6名、②矢巾町/1名、③練馬区/1名、④昭島市/1名

⑤藤沢市/4名、⑥静岡県/1名、⑦藤枝市/1名、⑧御坊市/1名

⑨鳥取市/5名

(2)第2回試行地域会議

日時:令和3年12月3日(金)15時~17時

開催方法:オンライン会議

出席地域:①釧路地域/7名、②矢巾町/1名、③練馬区/1名、④昭島市/1名

⑤藤沢市/4名、⑥静岡県/1名、⑦藤枝市/1名、⑧御坊市/2名

⑨鳥取市/4名、⑩大分県/1名

2)モデル事業(試行)地域経過

<第2回試行地域会議時点の経過>

地域	経 過	
1. 釧路市 (北海道)	若年性認知症の人と家族の会に、本人4名が参加。推進員とともにシートに取り組んだ。診断をうける前後の方と出会うきっかけづくりを模索中。	
2. 矢巾町(岩手県)	別事業のチームオレンジで居場所づくり活動をすすめており、今まで通り居場所に通ってこられるように、そのためのバリアフリーを考え、活動メンバーの地域の方とシート活用を計画中。	
3. 練馬区 (東京都) 9包括で開催している本人ミーティングでシート活用。 各包括には地域支援推進員が配置されており、担当者会議で情報共有・交換を実 している。		
4. 昭島市 (東京都) いつもの「だんちでカフェ」や、くらしの保健室に集まる本人たちでシートに取りいる。「今のような毎日が続けばいい。来れる時にここに来て、帰りたい。」等のている。		
5. 藤沢市 (神奈川県) 藤沢市からの声がけで、研修を経て、オレンジコーディネータとなり、市と連携を始めた。本人会議でチームを立ち上げ「ふじさわオレンジ Mix(仮称)」の動きしながらすすめている。まず自分自身のシートを書いてみた。		
本人ミーティングに参加の最年長の方と、いつもの散歩コースを歩いて話にシートを書き、これをもとにオンライン会議で検討。県のピアサポート事業2市と、厚労省の別事業を通じてケアプランのインフォーマルサービスへつ題意識をもっていた2市町へ、県が直接声をかけ、4市町も参加した。地域の連絡会でシートを配布し検討することも予定。		

7. 御坊市 (和歌山県)	まず自分自身のシートを書き、それをもとに、既存のフォーメーションの1つ、認知症コーディネータ会議で、シート活用をよびかけた。市役所にあるバリアを、本人・市民・職員の視点でなくすことに活用できるよう、庁内連携会議等に確認中。
8. 鳥取県 •鳥取市	市、推進員、県で検討の場をもち、当初、送迎、災害に関することを取り組もうとしたが、シートをみて、本人のふだんの暮らしの中から探る方向へ。自分の得意なことを続けたいという本人と取り組もうと動き始めている。
9. 大分県	大分県希望大使とともにシートに取り組み始めた。 市町村・医療機関等を対象にしたセミナーでは、バリアフリーの考え方を知ってもらうと ころから始めるよう計画中。

3) モデル事業(試行) 地域ワークショップ

「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」を共通の情報ツールとして、モデル地域で展開するためのワークショップを4地域で実施。

(1)ワークショップ共通資料(抜粋)

日本認知症本人ワーキンググループ (JDWG) 令和3年度老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康増進等事業分)事業

地域における実践的な「認知症バリアフリー」の取組の推進に関する調査研究

認知症バリアフリー ワークショップ

令和3年12月24日(金)14時~16時 釧路市生涯学習センター 2階多目的ホール



主催:日本認知症本人ワーキンググループ協力:釧路市介護高齢課

このワークショップのねらい



*日々の中で、ちょっと一緒に、楽しく始めよう!

第1部:本人とはじめる身近な暮らしの『認知症バリアフリー』

第2部:自分ができそうなことを考え、「地域の仲間」と話しあおう (可能性・アイディアの共有)



ふだんの中で:「できること」から、一歩(半歩)トライ! →やってみたことを共有→いっしょによりよく

第1部:本人とはじめる身近な暮らしの『認知症バリアフリー』

1) 認知症バリアフリーって、なに・・・?

2) 取組を進めるステップは・・・



難しく考えずに、



ふだんの中で できることが いろいろあるよ〜

1) 認知症バリアフリーって、なに・・・?

<パリアフリーとは>

○社会生活をしていく上で障壁 (バリア) となるものを除去するとともに、 新しいバリアを作らないこと。

(社会の活動に参加し、自信と喜びをもって生活を送ることができる共生社会の 実現に向けた環境整備として重要)。

【内閣府:バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱】

<認知症バリアフリーとは>

○認知症になってからもできる限り住み慣れた地域で普通に暮らし続けていくための

障壁を減らしていく取組

【認知症施策推進関係閣僚会議:認知症施策推進大綱】

認知症だから、わからない、できない・・・・?



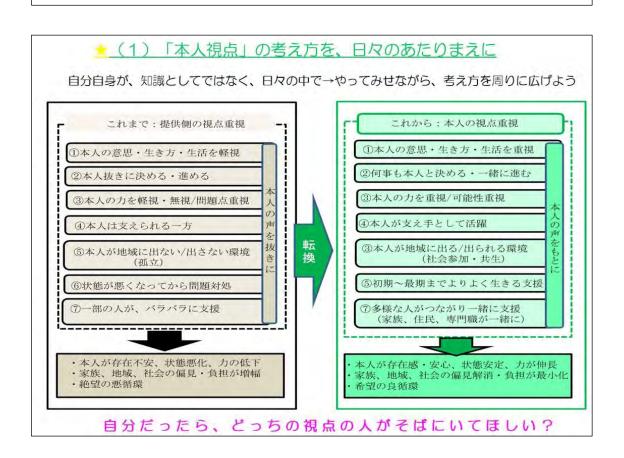
実は、バリアのために わからない、できない、暮らしにくい、支援される 状況に追い込まれてしまっている人が大勢いる

バリアをとりのぞけば、 わかる、できる、暮らしやすい、支援が不要になり 自分の力で暮らせる人を増やせる

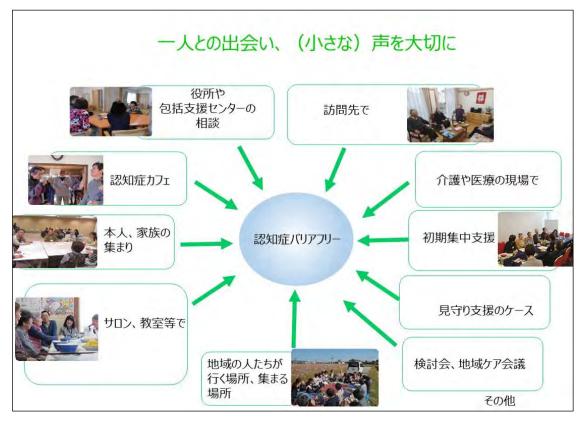
<u>自分だったら、どれだけうれしいか!</u> <u>周りも楽になる</u> 自信、誇り、自由

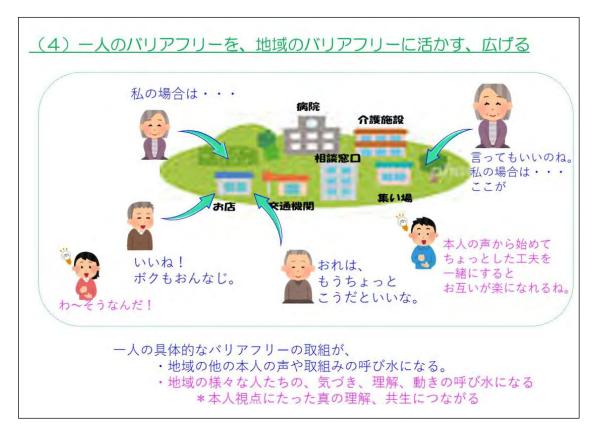
2) 取組のステップは・・・

- ★ (1) 「本人視点」の考え方を、日々のあたりまえに
 - (2) 暮らしの中で「一人」の本人の声を聴きながら:バリアを発見
 - (3) 自分だけでがんばらずに、一緒に工夫とアクションを
 - (4) 一人のバリアフリーを、地域のバリアフリーに活かす、広げる











(2)釧路市:ワークショップ参加者の声(参加者アンケートから)

①認知症の本人の身近にあるパリアを本人とともに見つけることで「本人にとってのよりよい暮らし」に つなげていけると思う理由

No.	記載内容		
1	本人目線で共有するプロセスは大切で、本人のできること、できないことや困り事を	包括職員	
'	知ることで、一緒に考えていくことができる。		
2	本人目線で一緒に見えたことをひとつひとつ動いていけば、「できない」→「できる」に	包括職員	
2	なるのだと感じました。	己拍啾貝	
3	本人の思いを中心にかかわりあい、それぞれの関係者の支援する意識の波長合わ	その他	
3	せができるためのきっかけになると思うからです。	-C 07/1B	
4	本人が望む生活をするためにできることは、本人にやってもらいたいと思っている	居宅	
"	し、一緒に参加・考えていったほうが本人のためになると思うから。	冶七	
5	本人の想いや希望を現実的にできるようにすることで、本人の QOL の向上につなが	包括職員	
	ると思う。	己怕城县	
6	本人の意見を現在は聞いていないことが多いので。	その他	
7	周囲の人が理解を深めるためにも一緒に考えることが大切。それが本人にとっての	包括職員	
'	よりよい暮らしにつながると思う。	己怕城县	
8	お互いを理解することで地域の中で助け合って暮らしていくことができるから。	包括職員	
9	本人の望む生活をかなえる為には、支援者のネットワークが必要と思う。共有するこ	居宅/施設	
9	とで、より多くの支援者につながる可能性もあると思います。	/福祉	
10	まず共有することからバリアフリーの一歩だと思えました!	包括職員	
11	バリアが何か具体的にわかることで解消につながると思います。	包括職員	
12	バリアをとりのぞくことにより、出来る事を増やす。		
13	支援する側がバリアにならないよう意識する事も大事だと思いました。		
14	時間がかかっても変わっていくと思います。		
15	認知症の程度によって、できるケース、できないケースがあると思われる。	居宅	
16	本人の年齢(高齢者)や認知症の程度により、理解できない場合にはむずかしいよう	その他	
16	に思います。	·C OAIB	

②シートや試用例について感じたこと・気づいたこと

No.	記載内容		
1	支援者側の思いこみ、固定観念に改めて一石を投じる素材だと思いました。本人主	その他	
'	体・中心の支援となるために必要なもの、と感じました。	-C ON ILL	
2	自分自身の考え方がバリアになっていると感じました。本人の言葉を信用して支援し	包括職員	
	たいです。	己怕啾貝	
3	"埋まらない"ことが現状ととらえて、いける。ケアプランに活用もできるなど、大いに考	包括職員	
3	える。	己怕啾貝	
4	御坊市のバスの事例。とても「目からウロコ」でした。若者にも生きた教育になってい	包括職員	
4	る。企業・学校も巻き込んだ好事例でした。	己加城县	
5	本人の楽しみ、生活に目を向けたシートの活用を考えてみたいと思います。	包括職員	
6	利用者様のできる事を気づいていきたいです。	居宅	
7	シートを入力するだけで、自分の関わりの見直しになると感じました!	包括職員	
8	ご本人を理解するシートとして活用させて頂きたいと思います。	居宅/施設	
0	こ本人を生解するノードとして活用させて頂きたいと心いよす。	/福祉	
9	シートの活用が対象の理解にもつながると思った。	包括職員	
10	支援のしすぎ	その他	
11	認知症にこだわらず利用できると思います。	居宅	
12	これからどう活かしていくか、持ち帰ります。	居宅	

③本人とはじめる身近な暮らしの『認知症パリアフリー』についての意見

No.	意見	立場
1	「認知症」で考えるバリアフリーは、地域に住むすべての人にとってもバリアフリー の視点につながるとの意識で、とりくみあっていければ良いですね。お疲れ様でした。	その他
2	安全や安心(誰の?)という思いで動いてしまう専門職の一人になっている事があると気づきました。職場で話し合い、共有したいと思います。	居宅/施設 /福祉
3	最初は少々難しいイメージでした。ついつい専門職の観点で考えがちだった自分 にも気づいて「"本人と"共に」を忘れずに活動していきたいです。	
4	日常生活での気付きを大切にしていきたいです。	包括職員
5	当事者の声をきくことが最近あまりなく、もう少し積極的にきいていこうと思います。	包括職員
6	身近にいる認知症の人の声をすいあげたり、本人たちのできることをアンテナをはって見つけていきたいと思いました。	包括職員
7	参加させていただき、大きな収穫がありました。ありがとうございました。	包括職員
8	報告書ができることを楽しみにしています。永田先生、鈴木さん、ありがとうござい ました。	
9	家族としても参考になることがたくさんありました。介護を頑張れる力になりました。 ありがとうございました。	その他

(3)大分県:ワークショップ参加者の声(参加者アンケートから)

①認知症の本人の身近にあるパリアを本人とともに見つけることで「本人にとってのよりよい暮らし」に つなげていけると思う理由

No.	記載内容	
1	本人家族だけでは解決できないことも多く、より多くの人が認知症が身近であることを理解することが大切と感じています。地域でより良く生きていくために、バリアを減らしていく努力は必要と感じています。	包括職員
2	考え方が多様化している現在、また、ひとそれぞれの生活ぶりが異なるため、バリアフリーの方法はひとつでないと思う。 まずは本人の意見を聞き、実際の暮らしの中で実践していくことは効果的だと思うし、周囲を巻き込めば経験した支援ができ、変更時の対応もスムーズになると思うから。	
3	バリアを見つけるためには本人の思いや考えを引き出すことが大切であると感じたが、まずは本人との関係性を構築することが必要だと思った。また「バリア」を見つけるための思考回路や考え方がはまらないと難しいと感じた。	包括職員
4	ご本人のできることをやっていただき、本人の自信につながり社会参加への活発な 参加につながると思う。	その他(社 協)
5	当事者の視点をいれないと、独りよがりのものになるから	
6	認知症ご本人の声を聞くことが一番適切な支援、バリアを減らすことにつながると 思うから。	
7	やはり、本人の気持ち、意見を聞いて考えていかなければならないから。	
8	自分ができていたことができなくなった事のショックや、やってみたいことをできにくい環境になってしまっている。本人がやれる自信があるものはチャレンジをして、周りが見守ることの必要性がわかった。周りの理解や協力体制になっていれば、本人にとって暮らしやすい環境になると思う。	
9	本人の声をきくことが大切で、本人の感じているバリアと周囲の人が思っているバリアは違うのだということを知りました。本人と一緒に考えていくことが本人の支援につながっていると思います。	
10	今回の研修で「当事者と考える」というところに気づかされました。私達支援者が思 うバリアフリーと当事者が思うバリアフリーは違うということが今回とても心に残りま した。	包括職員
11	本人さんは身近なバリアに困りごとが多いと思う。それをたくさんの人が共有してみんなで助け合えれば、本人さんも困ることが減り、介助側も自分1人が頑張らなくて	包括職員

	はという気持ちもなくなり、双方にとって良いと思う。	
12	声を拾うことができるように自分の感性を磨いていくことも大切であることに気づか されました。	
13	問題が明確化され、問題解決方法が確立されるため	包括職員
14	認知症の本人にしかわからない生きづらさや暮らしにくさを、今はまだ認知症になっていない私たちが気づき、知り、本人や関係者だけの問題にしないことが、認知症があってなくても、誰にとっても、暮らしやすい町になっていく手がかりのひとつだと思います。未来の私や家族のためにも、誰にとっても大切なことだと思います。	その他(補助相談員)
15	やる前から「難しい」「できない」と思っていたらできないと思う。なので、できると信じ て行動に移したい。これからの自分に期待をこめて「とても思う」にしました。	包括職員
16	些細な事が本人にとっては大きなバリアとなっていることが今回の研修に参加し、 本人たちの話を聞いてわかった。本人が発信しやすい環境づくりから行っていくこと で、本人らしく暮らすことへつながっていくと思う。	包括職員
17	私たちが思うバリアフリーとご本人に実際必要なバリアフリーが違う場合があることを改めて認識しました。常々、この支援は本人にとって良いものなのか、意に添わないながらも家族に迷惑をかけるからとの思いなのではないか、しかしサービス利用をやめることが解決になるわけでもないと思うことがありました。ご本人の話をよく聞き、何をしたいのか、誰となど、シートに記入していくkとおで、具体的な案が見えてくるのではないかと思いました。ご本人に少しでも、暮らしやすいな、楽しいなと思えるひとときがあるとよいと思いました。	包括職員
18	グループワークの中でも意見として出たが、支援を考えるにあたり、本人の意見、 思いがなければ押しつけの支援になってしまうから	包括職員
19	御坊市の銭湯のお話をきき、残念ながら今まで気にもしていなかった所に、どなたかが感じている障壁があるのだと気づきました。まずは周りが気づくことが大切だと思いました。そのためには、ご本人と共に考え共有していくことが一歩になるのではないかと感じました。	包括職員
20	本人・家族が、思っている思いや希望を、シートをもとに皆で共有することができれば、気づき・行動につながると思います。	包括職員

②シートについて感じたこと・気づいたこと

No.	記載内容	立場
1	堅苦しく考えないで、気軽にいろいろ思い付くことを書くことで、何が問題かに気づく ことができる。また、自分の気づき以外に、皆さんの意見も聞けるので良いと思いま す。	包括職員
2	検討のうえ作られたシートなので、まだまだ私の理解が足りないのが原因だが、本人の声を聞くときに「やっていること」「楽しみ」「場所」等が項目としてあり、ひとつのカテゴリーのなかに普段の生活、本人の気持ち等が入っている。試用実例1のように、行ってみたい場所=歯医者に行くことはわかりやかったが、今回グループワークでのバリアフリーシートでは何分野も記載されているので、その後の2や話し合いでの焦点化ができなかった。考え方の流れは理解できるのだが、1のシートでその人なりの生活や思いが記載されたとき、その後に進む整理が必要で、シート1から2、そしてその後のつながりが今回あまり感じられなかった。しかし、シートがあると考えの整理ができ、みんなで共有ができる。知識不足だが、発達障害や精神分野で使用している自分紹介シート的な(苦手なこと、できないこと、望む支援方法等)参考となるシートがあれば機会があれば紹介してほしい。	市町村
3	バリアフリーシートの活用方法や実践を御坊市のような実践例をもっと聞きたい。またケアマネジャーにどのように行政や推進員が普及して活用に至っているのかも知りたいです。(ケアマネジャーの方は多忙で聞き入れてくれないこともあるので・・・)	包括職員
4	記入例があるとわかりやすかったかなと思います。自分の能力の問題だとは思いますが、提示されてすぐにはピンとこなかったので。	市町村
5	情報を整理するのにわかりやすいと思うけれども、情報が少ないとシートに沿って 考えていくのが難しかった。	包括職員
6	活用できる機会があれば利用してみる。	市町村
7	その方が困り事が違うので整理しやすく、サポートすることを考えるのに使いやすい	包括職員

	と思います。	
8	バリアフリーシートに記入することで考え方が見える化できました。事業所の方やケアマネさんにもお伝えすることができるといいなと感じました。	包括職員
9	バリアと聞くとイメージ的に課題・問題と思ってしまい、できないことに目が向きがちでした。そうではなく、できること・やりたいこと等を伸ばす・引き出す・やれるようにすることが大切と思うのですが、考え方を枠に当てはめるのが難しかったです。グループの発表をきいて男性が入っておられると形式に沿った回答が出ているが、女性だけでは漠然とされたグループが多かったように感じました。男性の方がこの思考が得なのかなとも思いました。	包括職員
10	ケアプランをつくる時に、課題整理総括表の「課題」という捉え方がどうしてもネガティブになりがちで、できないことオンパレードの内容になり、自分の思いをうまく伝えられない認知症の方の「自立支援」や「本人の思いを活かす」というところに持っていくのにいつも苦戦しています。 (中略)バリアフリーシートは、過去や生活歴(もちろん、よく知るためのかかわりの大切さは大前提ですが)や、その人となりが本人の言葉を通じて見えてくるし、何よりも「〇〇したいのにできないのよ」と本人の声を拾い上げることがシンプルでとてもわかりやすい。 介護の世界に限らず「言わなくてもわかるでしょ」的な察するチカラを人に求めたりしがちですが、専門職であっても気づきのアンテナの高低や捉え方はそれぞれで、それがバリアになることも否めません。 本人の言葉をシートに落とすことで、支援者は「あ、そっか、そこでつまづいていたんだな、わたしも気づかなかった」「言われないとわからなかったな」と支援者の成長にもつながる。「言葉にしないと伝わらない」ことをあたりまえにして、支援者の気づきのアンテナうんぬんに関係なく支援できる、支援者にとっても優しいシートです。さっそく身近にいる本人さんや、GHの入居者にも活用したいと思いました。	その他(補助相談員)
11	実例を記入してみて、使ってみたいと思います。	包括職員
12	ご本人の話を整理しやすいと思いました。はじめは書き方を悩むかと思いますが、 継続していくことで自分なりにも活用していけるのではと思います。ご本人に話を聞く際も、何か困っていることはないか、と漠然とした聞き方よりも、細かいことに目を 向けやすいのではないかと思いました。	包括職員
13	書面で表すことで、本人の思いを整理でき、周りも共有できる。	包括職員

③「本人にとってのよりよい暮らし」や「認知症パリアフリー」についての意見

No.	記載内容	立場
1	認知症だから何もできないと、まだまだ思われている人も多い。診断名より、本人のできていることを知り、活かす、寄り添うこと、自信をつけていただくという思い。本人、家族、近隣関係者、医療介護等専門職の理解も、まだまだ必要と感じています。まだまだ足りないと思っています。普通にならなければ、住み慣れた地域で生きていくのは大変。もっと普通になると良い。	包括職員
2	発表でいろいろな意見が出て、自分では気づけない視点を学べた。半面、はなから 「認知症だから・・・」というバイアスがかかった意見もあったのも事実。 本人中心はもちろんで、地域への働きかけも大切だが、影響を与える家族、良かれ と思って支援しているが、それが家族の負担になったり、本人の自信の喪失等につ ながっている家族へのアプローチもバリアフリーには必要では。	市町村
3	正直、認知症バリアフリーという言葉は、認知症に特化しすぎてどうなのかと思いました。認知症の人にとって住みやすい生活は高齢者、障がい者、子どもなどすべての人にとって暮らしやすい生活になると思うので、認知症とつける必要はあるのか、逆に認知症を意識せざるを得ないのではないかと思いました。	包括職員
4	ざっくりと地域全体の施策として何かしようと考えると難しいので、永田さんの仰っていたとおり、まずは一人ひとりと丁寧に向き合っていくことが大事なのだと学びました。参加させていただいてよかったです。	市町村
5	相談業務をしているので、本人ではない家族や地域からの相談が多く、改めて、本人目線での対応を考えていかないと感じた。当市はまだ認知症の普及啓発も進んでいないので、その活動をまず広めていかないといけないと思った。	包括職員
6	しっかり話を聞いてあげ、本人の気持ちを尊重したい。気持ちをふまえて、悩み事を どのように取り除くのか。本人にとって、生活しやすい環境にしていけれるか、寄り 添う事の大切さを改めて考えさせられました。	包括職員
7	認知症に特化したものではなく、すべての人のバリアフリーにつながるものだと思っ	市町村

	た。認知症本人のことに関しては、本人の思いを聴くことが大切であることを学びました。	
8	当事者でなければ困っていることに気づきにくい。こういったバリアについて考える機会がもっとあれば、もっと生活しやすくなるのではないかと思いました。	包括職員
9	今回のワークショップに参加させていただきありがとうございました。認知症本人にとってもよりより暮らしは自分たちにとっても良い暮らしであることに気づかされました。本人さんの声を拾いあげることができるように日々耳をすましておこうと思います。	包括職員
10	(前略)認知症バリアフリーは、本人を取り巻く環境を変えること。本人の思いをココロで感じて受けとめて、それを本人の目線で体感し、工夫を繰り返して、本人に考えてもらって、教えてもらいながら、一緒にモノやコトを変えていく。そうしたら、誰にとっても使い勝手のいい社会になっていくのだと思います。	その他(補助相談員)
11	近隣のサポートを受けながら生活できる地域もあれば、公営住宅等の多いところでは関わりが薄く、近隣のサポートを受けにくい地域もある。まずは認知症という病気の理解をもっともっと広げていく必要があると感じました。	包括職員
12	支援は簡単にはいかないかもしれませんが、ご本人の笑顔につながることを願って、身近なこと、できることから取り組んでいきたいと思います。このような研修をまた受けたいです。	包括職員
13	ご本人が一番、自身が暮らしやすい方法を知っているのだから、ご本人ができることをまず信じることから始まるのだと思いました。認知症だからというわけではなく、御坊市の銭湯のような、どんな方も障壁と感じている問題があると思うので、お子さんから高齢の方まで、お互いが助け合い、アイディアを出し合いながら、暮らしていけるような社会が広がっていけばいいなと思いました。ありがとうございました。	包括職員

(4)矢巾町:グループミーティング(ワークショップ収録映像から)





(進行者)

「小さなバリアフリーということで、移動手段とが、ちょっと先の大きな課題になっているんじゃないかと思われます。ので、<u>企画財政課と生活支援コーディネーター</u>さん、<u>矢巾町社協</u>さんにご感想を順次お話ししていただければと思います。

(企画財政課)

移動という面で、公共交通を担当しておりますけども、先ほどの映像をみて、ひとつ嬉しかった部分があります。公共交通をやって 3 年目になるんですけど、まずそのサービスの存在を知らないって言う方が多くあります。まして、そもそも使わないじゃなくて「知らない」からという部分が、まず第一の壁になってるんだなと思うことを考えると、知ってもらえてるというのは嬉しいなと感じました。

その次の、使うという点には、予約というところ。ここの部分に関して現状、何かいい解決方法があるかといえば難しいかなと思います。どうしても予約に応じてのサービスという形になりますので、自ら行動を起こしていただくっていうことが、まず必要になってくるものになっています。ここの部分はいい解決法はちょっとつかないなというのがあります。使い方の部分については色々な方法で周知はしております。ホームページでもやっておりますし、パンフレットを配ったり。なかなかご覧になられていない方もおられるかと思うんですけど、矢巾町の公式の YouTube チャンネルには簡単な動画を使った利用方法のやり方とい

うものがございます。そういったものが、環境がなければ見られないって言うので、使い方の部分で、本 当であれば一対一の形で説明できればいいんですけど、なかなか困ってるっていう情報もこちらに届 かず、どの方がどういうふうに困ってるんだ、とそういったこともありまして、そこが今後の課題かなと感 じております。

(企画財政課)

私は、地域コミュニティということで、庭木が隣の家に出てとか、道路に伸びてとかいう話がありまして、若 干、状況が違いますがそういったケースで、高齢になって施設に入所して、そこの家の木が伸びて隣に 出てるとか、道路に出てるとか、相談を受けることとがあります。そういった時、第一は家族の方に連絡取 れればよいのですが、なかなか遠かったりすると、遠くの家族よりも近くの頼れる人が必要になっている のかなと思います。役場でもここの家の対応が難しいと、地域の広域の会長さんとかに相談したりとかと いう形になってくるのかなと思います。コミュニティの形も、今、矢巾でも見直しを考えてるところで、地域 の困りごとを町内のコミュニティの代表の方が共有している中で、そういった困りごとがあれば、みんな で知恵を出し合って解決していけるような地域づくり、まちづくりをしていければなと感じているところで す。

(健康長寿課・生活支援コーディネーター)

移動手段というのは、いつも課題に上がる話題、具体的にみていくと、**お一人お一人、行く目的も違う** し、そこへいくための能力も手段も使える資源も、本当に違ってくるんだなと思うので、買い物に行くの が大変なのか、公民館まで行くのが大変なのか、ご近所さんの集まっているところに行くのが大変なのか、そこに行くのにバスとかの公共交通手段がいいのか、ご近所さんに助けてもらって行くのが良いの か、本当に掘り下げていくと色々違ってくるんだろうなっていうのがある。そういうところをもうすこし詳しく みていくのがコーディネーターの一つの役割かな、と皆さんの話をみていて思いました。そういったのを 含めて地域づくりなのかな、と思ってきいていました。

(社会福祉協議会)

社協の観点からすると、移動手段の話は、ボランティアさんも関わってくるんですけれど、なかなか全町的なボランティアさんだと、集まらないことも多く、その中で今コーディネーターの方がおっしゃってたように目的別にいえば、サロンに行きたい人で足がないという話。例えば、社協の送迎サービス保険に入ってもらって、車両を 1 台決めて送迎する人を決めてもらえばやれる。タクシー業界との兼ね合いも色々あって、移動支援ってすごく難しいところではあるのですけど、できるとこから地域とか狭い範囲からでもすめていければ思っております。

(ケアマネージャー)

ケアマネの立場も含めて、介護保険の認定を受けて、「いろんな介護保険を使いたいよ」ということで相談を受けるのですけども、その中で、移動手段だったり、地域的に豪雪地帯なので、除雪だったりとか、 その他買い物が大変と、生活全般的なことがやっぱり多く出てまいります。その中で、「何か困ったらこ こに 1 回電話して」というようなワンストップになるものですね。ここに電話してそこの方が必要な部署に振り分けてくれるとか、実際にやっているかと思うんですけども、実際我々今の生活の中で、私たちとすればスマホだったりとか、コンピューター、パソコンを使ってホームページその他で、ここで確認してくださいっていうのが、今の我々ですが、高齢の方あるいは認知症の方で、パソコン使える方ってなかなかいらっしゃらない、スマホを使いきれてない。携帯電話もってますよ、といわゆるガラケーの方が、一部の持っている方ですが、高齢者の方ってどうしても目の前にあるもの、紙ベースを一番信じたいというか、やっぱり、目の前に困ったらここに電話ねっていうようなその紙一枚がおうちにあれば、あるいは電話の前にあるだけでも何かそういう困りごとのひとつのとっかかり、高齢者の方がすぐどこかへ電話できたらひとつ参考になってくるのかな、と今まで聞いてて感じたところではあります。

(コミュニティ連絡協議会)

私が今感じたのは、先ほどスマホのことで話していましたが、機能がむずかしいから使えないんですよ。 その人の一番希望する10の機能に絞って、例えば、移動したい、というボタンを押せば、認知症サポーターの契約をしている、タクシーさんが来てくれるとか、そこに行って買い物したいということであれば、そこに行って払うということ。ただし、契約というところも含めて、まだまだ協議しながらすすめていかなければいけないことがあると感じました。まだまだ足りません。うんと問題を感じました。

(町健康長寿課)

みなさんのお話を伺って、私も今まで住民の方にかかわっている中で思い出したことがいくつかありまして、高齢者じゃなくて、やっぱり障害者でも同じように庭木がのびて困っちゃったことがあって、その時にはやっぱり地域の自治会の方に相談したところ、自治会のメンツがそろって、軽トラもなんもかんも揃えて、伐採を、本人も含めて一緒にやったということもあります。もしかして「町全体でなんとか」っていうよりは、もう自治会単位でこういう困りごとがあったら、どうするって言うのその都度お話ししてくのもいいのかなって思いました。

一人一人の密着をすることで気づけた部分ということで、本人とかその生活を知ることが、大きい改善 じゃなくても、小さいところから、ちっちゃい地域からでも変えていければいいのかなというのは感じまし たので、うれしいとか、楽しいとか、このまま続けたいということが継続できるにはどうしたらいいのかなと いうのを、健康長寿課の事業には他の事業も色々ありますので、そこと連動させながら地域と話ができ ていければいいかなと感じました。

4) バリアフリーアクション 「本人の今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」の利活用(試用)

(1)御坊市

試用実例①

御坊市の試用例:「居宅介護支援事業所日高博愛園」/担当ケアマネジャー

- 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」
- ●「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、時々でも楽しみにしていること、行っている場所 はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

「歯医者に行くこと」

※ 独り暮らしであり、普段は管外に住んでいる娘の送迎で病院受診している。昔はたまにバスを 利用していたこともあったと聞いているが、最近はもの忘れから混乱することが多くパスを利用する事ができていない。住んでいる地域には、歯医者がない。





- . そのための ①「本人の習慣・工夫」 ②「今ある周囲のアシスト」
- ●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな 習慣があって、こんな工夫をしています。周囲 のこんな人たちと関わりを持っていて、こんな ことを一緒にしたり、手伝ってもらっています

「今でも博愛歯科にだけは、独りで行ける。」と本人断言。 本人の中で、自宅から博愛歯科診療所の方向に走るバスを理解しており、以前にも利用したこと がある。「朝8時まわったらバス停に立っていれば、南行きの停まったバスに乗ればいい。」診 療所の近くには、国立和歌山高等専門学校があり、その時間帯のバスは3台程あり通学している 学生がたくさん乗車している。

学生がたくさん乗車しているバスに乗れば、「外を見て降りる所を気にしなくても、『次降ります』のボタンを押さなくても学生が押してくれ、みんな一斉に降りるから一緒に降りればいいだ け。大丈夫。」「分からないことあったら、ちょっと聞いたら教えてくれる。みんな、可愛らしい。」パスを降りたら、「あの子らは、携帯持ってゆっくり歩く子もいてるし、信号変わったら 一緒について国道を渡ればいい。坂道も大丈夫。私は、足はいいから。」 「帰りのバスは、よう 分からんから、歯医者でタクシー呼んでもらうよ。」と、タクシーを利用して帰る。





無くなると、「私(本人)」の バリア(障壁)になってしまう もの・こと(人との関係性や場 所なども含めて)

「私(本人)」にとってのパリア(障壁)を取り除く(生まない)ためのもの・こと

「私 (本人)」にとってのバリア (障壁)をより小さく・軽く・低くするもの・こと

バスに乗る高専生。 (春・夏・冬休み等の、注意が りやすさ。 必要.)

(春・夏・冬休み等の、注意が必要。) 博愛歯科診療所以外だと、バスに乗って行けない。 バス停、時刻・料金表のわか 高専生の理解。 りやすさ。 高専の職員たな

高専生の理解。 高専の職員たちの理解。 バス運転手の理解。 人に迷惑をかけずにバスに乗 れることへの自信。







試用者(居宅介護支援事業所日高博愛園 /担当ケアマネジャー)の気づき

学生の多いバスって自分達であれば、できれば乗りたくなく避けてしまいますよね (笑)。 「混雑するバスの中は、認知症の方だときっと混乱してしまうだろう」という私の先入観が 払拭されました。

でも、あの満面の笑みで高専生のセンターを位置取って、バスを降りてきた状況は忘れられません。

学生は特に何もしていないのに、彼女にとって強い味方がたくさん乗っているバスだったんですね。





○このことを、共有していきたい人/共有していくとよいと思う人

高専の先生や職員:学生の存在がどれだけ認知症の人の暮らしを

支えてくださっているか、伝えたい。

また、これから地域でともにできることを一緒に

考える機会をつくりたい。

バス会社・運転手:このバス路線が認知症の人の暮らしを支えている

ことを共有し、これからも市民が安心して暮らして行くために必要なことをともに考えていきたい。

○地域(行政やさまざまな領域、活動等)でどう生かすか。

専門職等に向けて:この方の自分なりの工夫を知り、先入観を持っていた

ことに気づき、「本人の言葉をそのまま書くことが一番 シンプルで、それが本人のやりたいことや希望に繋がる」 と思った。多くの人に伝えていき、また同じような体験

を共有したい。

行政職員に向けて:認知症施策推進庁内連携会議で、認知症の人の視点から

感じるバリアやバリア除去の工夫を知っていただき、 行政の立場でともにできることを考えていきたい。

試用実例2

御坊市の試用例:「居宅介護支援事業所中紀」/担当ケアマネジャー

1. 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」

- 「私 (本人) 」がふだん (朝・昼・夜) やっていることや、時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

あがら花まる(認知症対応型デイ)へ週3回、行くこと。 そこで、様々な特技を生かして過ごしている。 特技は、ものづくり。特に日曜大工が得意で、デイスタッフと様々な ところ(市役所等)からの依頼を受けて、仕事をしている。



市章の作品を御坊市長に贈呈



車いすで通勤する市職員が使い やすい特注デスクを作成



市役所玄関に飾る 大きな門松を作成

- 2. そのための ①「本人の習慣・工夫」 ②「今ある周囲のアシスト」
- ●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな 習慣があって、こんな工夫をしています。周囲 のこんな人たちと関わりを持っていて、こんな ことを一緒にしたり、手伝ってもらっています
- ①本人の習慣・工夫

週3回のデイサービス利用のため、体調管理には気を付けている。

②今ある周囲のアシスト

本人は、認知症と診断されても「自分は違う」を思っている。それに対して、 周囲は「別にどうでもいいか。本人は本人だし、それを無理やり受け入れさせ る必要もない」と周囲の人は共通認識を持っている。

日曜大工が得意で、デイスタッフが作業しやすい環境を作ってくれている。 木材は、同じデイサービスを利用していた元大工の方の倉庫から調達。

ものづくりの依頼は、実際必要なもの(机やモニターラック等)を市役所等 からも依頼させてもらっている。



賞状の額縁も手づくり! 賞状は別の利用者が筆耕



デイサービス内で作業しやすい 環境づくり

無くなると、「私(本人)」の パリア(障壁)になってしまう もの・こと(人との関係性や場 所なども含めて)

「私 (本人) 」にとってのバリア (障壁) を取り除く (生 まない) ためのもの・こと

「私 (本人)」にとってのバリア (障壁) をより小さく・軽 く・低くするもの・こと

○要介護認定

認定が切れてしまうと、 あがら花まるに行くこと ができない。

- ○利用中のデイサービス 自分はあがら花まる以 外だったら行きたくない。 ○仕事の依頼
- 仕事がないと、やりが いがなくなってしまう。

○「認知症」と言われ ることが嫌。 ○認知症の人のやりが

- いとして頼まれる、の ではなく、ちゃんと自 分の能力を活かして仕 事をさせてほしい。 ○ちゃんと自分の仕事 ぶりを評価してくれる こと。
- ○モチベーションの維持 常にやりたいことを持
- ○そのための健康維持が 大切。

ち続ける。

○目標がなくなったら、 落ちていくばかり。



市民福祉部長(左)からの評価が 一番うれしい



デイサービスで作業を続けるために 健康管理には気を付ける

試用者 (居宅介護支援事業所中紀/担当ケアマネジャー) の気づき



まずは、本人のことを知ること。ケアマネジャーは「自分が本人のことを一番知っている」 と思いがちだけど、このシートを活用してみると知らなかったことがたくさんわかってきま した。

認知症であるかどうか、どっちでもいいのかなと思いました。本人のやりたいことや得意なことをする上で最低限のリスクとか配慮は必要かと思いますが、その人が認知症と診断されても周囲が変わらず「本人のやりたいこと」に関わることが大事です。

健康管理は、ただ健康でいたいというのではなく、本人の中で「〇〇したい。それをし続けるためには健康でいること」という目的を持っていました。それが本人の中でバリアを生まないための努力なのかなと思いました。

本人の可能性を周りがあきらめないこと、本人の力を信じることで事業所も本人とともに学び成長することができました。

今の本人の不安は「自分が活躍している姿を見せることで介護認定を切られるんじゃないか。それで"あがら花まる"に行けなくなってしまうのは困る」ということです(笑)

あと、このシートをケアマネジャー等の専門職だけじゃなくて、家族など本人と近い人と書き込んでいくこともいいかと思います。それによって、みんなが本人の気持ちに気付くきっかけになるかもしれません。

○このことを、共有していきたい人/共有していくとよいと思う人

家族や本人と近い人:このシートは本人の本音が詰まっている。家族も知ら

なかったことがあると思うので、共有して本人のこれ からの暮らしややりたいことを一緒に考える機会を作 れたらいいと思う。

れたらいいと思う

市役所の人や関係者:本人の暮らしの「モチベーション」が市役所等からの

仕事の依頼。フォーマル・インフォーマル関係なく、 また特別なことではなく、普段からのお付き合いを続 けてほしい。それが本人の「バリア」を低くすること

に繋がると思う。

○地域(行政やさまざまな領域、活動等)でどう生かすか。

専門職等に向けて:専門職が本人のことを「知っている」と思い込まずにしっかり本人の思いをキャッチできるよう、一人の人の支援をする際に様々な立場の人がこのシートを活用し、チームで支援できるようになればと思う。

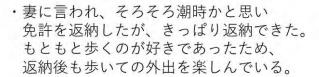
(2) 藤枝市

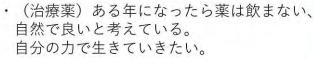
バリアフリーシートを使って本人と考える ~本人の「今とこれからの暮らし」のための"バリアフリー"~

【日頃の本人の声】

本人ミーティング 参加者の中で最年長!

- ・今できることをやっていきたいと思っている。 新しいことを無理にしようとしない。
- ・毎日蓮華寺池を歩いている。 昔の思い出を蘇らせるために20年以上続けている。 危ないとか色々と気にされるのが嫌。







バリアフリーシートを使って本人と考える ~本人の「今とこれからの暮らし」のための"バリアフリー"~

藤枝市の試行例 ①

1. 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」

- 「私 (本人)」がふだん (朝・昼・夜) やっている ことや、時々でも楽しみにしていること、 行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

午前中:蓮華寺池公園の散歩 山やまちを歩く

<好きな景色>





- ・もともと歩くのが好き!
- ・高校の時によく走らされた思い出の場所。
- ・何年も歩いていると、知っている人ができ、 よく会う。元気そうにしていた人が突然いな くなり、淋しいけど、新しい人もいる。

「本人の一日」 6:30~7:00 起床

7:30

目覚めはだいだい良い。

朝ごはん→和食(ご飯・味噌汁)

新聞、TVもつけて お茶を飲む凸

8:30~9:00 自宅を出発 蓮華寺池公園・

・山や町の通りを歩く

その日の気分でバラバラ

11:30 公園を出発し自宅へ

12:00 自宅で昼食

読書や新聞を読む

TVニュースを見る

18:00 夜ごはん

> TV→スポーツ番組好き (家族がみているものを観る)

入浴→言われたら入る

22:00 就寝,私

【ときどき】 気が向くと焼津の海に行く。 公園でコーヒーを飲む♀

転居後、頼まれてコンサルの仕事をしたり、 自治会の仕事をやるようになってから、 生活リズムが乱れなくなった。

和食は決まっている。

・何年も歩いていると、知っている人ができ、 よく会う

· 徘徊士(徘徊の先生)の友だちが減ってきた。 元気そうにしていた人が突然いなくなる。

・淋しいけど、新しい人もいる。 ・通っていた公園の近くで思い出があり、 なじみの場所

・運転免許もスパッと辞めた。 もともと歩くのが好き!

コーヒーを飲むこともある。

・妻は静岡に絵画のお稽古に通っている。

・人当たりの良い妻。器用に遊んでる。自分もだけど。

・妻にも出かけてもらった方が良い。

それぞれの生活を楽しむ。 (昔から)全然干渉しない。それぞれ勝手。

・暇だからただ見たり、読んだりする。

・いつも座る場所が決まっている。



外出時の持ち物

- ①「本人の習慣・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣| があって、こんな工夫をしています。周囲のこん な人たちと関わりを持っていて、こんなことを一 緒にしたり、手伝ってもらっています。

①『本人の習慣・工夫』

- ・継続して出かける。
- ・外出時の持ち物(携帯電話・財布と鍵・運転経歴証明書)

電話です 「甘酒飲んだよ

ソフトクリーム食べた

妻にも出かけてもらった方が良 い。それぞれの生活を楽しむ。 (昔から)全然干渉しない。 それぞれ勝手!

継続は力なり!

自分の意思で続けること。 登れる間は登り続けること

0] お迎えを依頼したり、居場所の確認

②今ある周囲のアシスト

- ・『行ってらっしゃい、携帯電話持った?』と 送り出してくれる妻の存在、お互いの時間を楽しめる関係性
- ・認知症になってからも変わらない夫婦の関係性(信頼関係)
- · (長年の日課から)公園に顔なじみの人がいる。
- ・町内会長を長年やっていたため、本人のことを知っている人が 地域に多くいて声をかけてくれる人が多い。

(蓮華寺公園の散歩)

- ・続けること、良いと思う。
- ・油絵を20年月

本人が公園への外出を楽しみ続けるために・・・			
無くなると、「私(本人)」 のバリア(障壁)になってし まうもの・こと (人との関係性や 場所なども含めて)	「私(本人)」にとってのバリア (障壁)を生まないためのもの・ こと	「私 (本人) 」にとってのバリア (障壁) をより小さく・軽く・低くするもの・こと	
★外出を見守ってくれる 家族の理解と存在	☆これまでどおり、 お互いの時間を大切にする。 ☆これまでどおりの 家族の関係性。 ☆携帯電話を使い続ける、 持ち続ける。 ☆外出を続けることで、 地域の人と交流を持ち続ける。	G WHITE EXPLOSE	
★歩く力	行きたいところへ出かける、 歩き続けること	仲間づくり。	
		本人が外出を楽しみ続けるための へ ヘルプカード活用例 へ 私は認知症の本人です。 行先までの道が分からなくなる ことがあります。 目印などを分かりやすい言葉で 教えてください。 ご協力をお願いいたします。	

本人が公園への外出を楽しみ続けるために・・・

共有していきたい人/共有していくとよいと思う人

【共有した人】 (一緒に作成)

- ・本人と家族、ケアマネジャー
- 【共有していきたい人】

A William Control of the Control of

- ・花と緑の課 市内のケアマネジャー
- 【共有していくとよいと思う人】
- ・地域の人、本人が立ち寄る公園のお店

地域でどう生かすか

- ・このように公園を利用している人がいることを<mark>公園の所管課である花と緑の課に知ってもらい、(本</mark>人自ら公園の魅力を**PR**するのも良いかも)子どもから大人まで誰もが安心して利用できる公園について庁内で考えていくきっかけになると良い。
- ・このシートについてCMや包括職員と共有し取組むことで、本人の普段やっていることや、楽しみなことを続ける、行っている場所に行き続ける等の、本人の今の暮らしをベースに、本人の望む暮らしに向けたプランに繋げていけると良いと感じた。個別ケースからバリアを生まないためや低くするための取組を積み重ねていくことに繋げていきたい。

お出かけサポート位置情報サービス聞き取り調査

◆ GPSを活用した本人の外出状況

【本人の声】

・花の水やりと散歩が日課。

寝床に置いてあるGPSを出かける時に首からかけて、タオルと猫の餌を持ち出かける。

家族にどこにいるか分かってもらえる安心感がある。(一人暮らし)

- ・毎日散歩に出かける、自分に自信が持てなくなった。 デイサービスは体操やゲームをする、あまり楽しくない。 グラウンドゴルフに行かなくなった。
- ・朝の5時から雨の日でも散歩。週に1回スーパーにパンや牛乳、稲荷寿司を買いに行く。(買い物)面白い、食べることが好き。
- ・目的を持って出かけている。

【家族の声】

- ・<u>グラウンドゴルフをしていたが、計算ができなくなり、</u> 最近は行かなくなった。せつない。
- ・買い物はビニール袋の中に、お金と買う物のメモを入れ、 保冷バッグに入れて出かけている。
- ・近くの高校がお気に入りの場所でベンチに座り練習を見ている。 私(妻)が行くとおじいさんいたよ!と高校生が声をかけてくれる。 夏にはジュースの差し入れをしている。

それぞれが外出を日課としていたり、楽しんでいる。この先も続けていくために本人の暮らしからバリアフリーを考えていく視点が大切

GPSを利用している 本人と家族を対象に

聞き取り調査を実施

バリアフリーシートを使って本人と考える ~本人の「今とこれからの暮らし」のための"バリアフリー"

もう一事例もまとめてみました

藤枝市の試行例 ②

1. 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」

- 「私 (本人)」がふだん (朝・昼・夜) やっている ことや、時々でも楽しみにしていること、 行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

【普段よく行っている場所】

- ・杏林堂(ドラッグストア)
 - ⇒一番よく行くお店。コーヒーや紅茶を買うことが多い。 もともと紅茶が好き **②**
- 土日の昼食用にパンやカップ麺を買い置きしておく。

・本屋

⇒よく立ち寄り、小説を立ち読みすることが多い。 読書は昔から好き □

【ときどき行っている場所】

・市立病院への受診

⇒バスを利用して通院 🖺



【第1段階】本人の「今の暮らし」

6:00頃 起床

体温測定⇒記入、血圧測定

6:30 朝ごはん

> 1階のメンバーみんなで食事 TVを見たり、読書をしたり支援員とお話

就労支援事業所の迎えが来る 8:50

9:30 会社に到着し仕事が始まる。

> 仕事内容は日によりまちまち。 袋詰めやシーラー作業中心。

他の人が休みの時に居酒屋の清掃作業へ行く。

12:00 昼食・お昼休憩

スマホでニュースやyoutubeを見て過ごす。 他のメンバーと話すこともある。

作業終了 15:30

自宅 (GH) に戻る 16:00

買い物に出かける。

杏林堂(珈琲や紅茶)⇒本屋で立ち読み(小説)

18:00 入浴と洗濯

【ときどき】市立病院の受診

夕ご飯 18:30

食後メンバーと雑談したり、たまに郵便局によってお金をおろす

テレビを見たりして過ごすこともある。 消灯 就寝五

眠れないがあり、読書することも

受診後に次回の予約表をもらい、

それをGH職員や就労支援事業所職員 に見てもらい日程の管理をしている。

だいたい杏林堂に行って、本屋で立ち読

みして (GHに) 帰るのがルーチン

業で充分。

ない、この病気を。

やれる仕事をやりたい。



私は若年性認知症の本人です。

時間がかかることがあります。

ご協力をお願いいたします。

手続きや機械の操作に

(仕事は) 別に不満はない。暇なのが嫌。何かし らの仕事があれば良い。ここの仕事はシーラーが 主。まぁこんな感じで仕事が続けば良いのかな。

ここのメンバーは喧嘩するようなメンバーじゃな

い。この仕事が良いとか、わがまま言うつもりも ない。出来る仕事がやれれば良い。金銭的に不満

はない。昔に比べると安くなったけど、こういう

病気になった以上普通に仕事は出来ない。単純作

やれる仕事なら何でもやる。受け止めなきゃいけ

これはやりたい、やりたくないと順位づけしない。

(前の仕事であった) PCの仕事やりたいなと思う

気持ちはあるけれど、PCのスキルや記憶も薄れて いっている。もう一度ExcelやSQLを勉強したいが なかなか機会がない。とりあえず体調を崩さないこと、今はやれることを順にやる。

こういうことがやりたいということが最近ない。

(単純作業は)初めは嫌と思ったけど、

22:00

- ①「本人の習慣・工夫」
- ② 「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣が あって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人た ちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、 手伝ってもらっています。

- ・コーヒーや紅茶は缶で買うとゴミが出るため、粉やTパックの物を買うようにしている。
- ・よく行く杏林堂では電子マネーを利用しており、予めチャージしている。

小銭を出す手間が省けて便利。レシートを残しておくことで、 残高が分かるようにしてある。

・本屋での立ち読みは、店員さんの様子を気にしながら店に迷惑をかけないように長時間は 避ける(長くて30分)よう心がけている。

・ATMやセルフレジの操作に時間がかかったり助けが必要な時があるが、 周りに分かってもらえるように**ヘルプカードを首にかけて活用**しており、 提示すると、店員さんが操作のサポートをしてくれる。

さらにヘルプカードの裏側に障害者手帳を入れており、 バスに乗る際にも出しやすい。

(過去にポケットに入れたまま洗濯してしまい再発行したことがある)

・文字を書くことが苦手であるため、

病院受診時にも、ヘルプカードを提示し、代筆を依頼してみたら、職員が対応してくれた。

病院受診のスケジュールは次の予約表を保管して、

GHや就労支援事業所職員に見てもらいスケジュール管理を行っている。

(仕事の送迎に影響するため)

行きは、バスで通院し、帰りは受診が終わってから、就労支援事業所に電話をかけて、

迎えにきてもらい、そのまま仕事に行く。・体調管理を心がけており、しっかり寝ることや生活リズムを乱さない、ルーチンを崩さないようにしている。薬は種類が多いため一包化してもらっている。朝食 後に職員から薬をもらい内服している。

無くなると、「私 (本人) 」の パリア (障壁) になってしまう もの・こと (人との関係性や場所な ども含めて)	「私(本人)」にとっての <u>バリア</u> <u>(障壁)を生まないためのも</u> <u>の・こと</u>	「私 (本人) 」にとっての <u>パ</u> リア (障壁) をより小さく・ 軽く・低くするもの・こと
自分のペースで支払い (機械操作)ができる環境	セルフレジにも慣れるよう日頃か ら使う。	ヘルプカードの活用により周 りの人に伝えていく。 お店や病院の人にも、カード
今の生活環境 (GHや事業所の職員との関係性) 地域の中で、困った時に手 伝ってくれる人	自分の思いを伝えられる 関係や環境	について伝えていく。 苦手な部分等はサポートをお願いする。(スケジュール管理や薬の管理)
病院の予約表	受診後に予約表をもらう。	- これまでどおり体調管理に心がける ・ 予約の確認の連絡先を確認しておく。

本人が公園への外出を楽しみ続けるために・・・

共有していきたい人/共有していくとよいと思う人

【共有した人】

・本人・相談支援専門員・地域包括支援センター

【共有していきたい人】

・グループホームや就労支援事業所職員

【共有していくとよいと思う人】

- ・杏林堂(ドラッグストア)
- ・よく利用するバス路線
- 市立病院

地域でどう生かすか

- ・市立病院や杏林堂にヘルプマークや、活用している背景等を知ってもらう中で、 認知症の人のバリアについて本人の視点から知ってもらい
 - 一緒に考えていけると良い。
 - ⇒市立病院について伝えてみました!

(3)矢巾町

①久子さんのバリアフリーシート

地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業 (一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

- 1. 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」
- ●「私 (本人)」がふだん (朝・昼・夜) やっていることや、時々でも楽しみ にしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。



おれんじデー(居場所サロン)に行く日が楽しみです!

息子さんと2人暮らし。息子さんが仕事に行く日中は1人でいることが多い。 週に1度「おれんじデー」に行って皆さんに会うのが楽しみ。

久子さん (76)

外出の機会が少ないので、帰り道は買い物をしたり、散髪したり、寄り道したり…と フル活用している。

毎朝、息子さんのお弁当を作り、夜は2人で晩酌をするのが日課。

- ①「本人の習慣・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をし ています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒 にしたり、手伝ってもらっています。

どこへでも歩いていきます。 足腰が丈夫で良かった! 天気の良い日はなるべく散歩を するようにしています。



歩かない日が続くと気分もふさぎます。

雪が積もると転ぶのが怖いので外に出ません。

町が変わると道も変わって 何度か迷いました。 お店の名前が変わるのも困ります。



変化する町の様子を見るのが好きです。

いつも会う人と挨拶を交わすと明るい気持ちになります。



自分の目で見て商品を選びたい。 息子においしいものを食べさせたい。 あれこれ考えながら見て歩く時間が楽しい。

店員さんのいるレジが安心です。 セルフレジやポイントはよくわからない。



駅ピアノを発見! 曲の名前は忘れてしまったけど 弾き方を手が覚えていました。 声をかけてくれた人がいて嬉しかった



の関係性や場所なども含めて)

- 「私 (本人)」にとってのパリア (障 壁)を取り除く(生まない)ための もの・こと
- 「私 (本人)」にとってのパリア (障 壁)をより小さく・軽く・低くする

- *歩く能力
- *覚えている町並み 通いなれた道、聞きなれた店名
- *店員さんのいるお店
- *行きたいところへ行けること、 歩けなくなっても外出できる手段。
- *新しくするばかりでなく、今まで と変わらないものも残すこと。
- もの・こと *声をかけてくれる店員さん、
- 声をかけやすい店員さんの存在 *今つながっている人とつながりを
- もち続けること。
- *地域に正しい理解が広がること。

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

- 1. 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」
- ●「私 (本人)」がふだん (朝・昼・夜) やっていることや、時々でも楽しみ にしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。



容子さん (89)

おれんじデー(居場所サロン)に行く日が楽しみです!

* 1人暮らし。足が痛むようになってから外出の回数が減った。 「おれんじデー」に行って皆さんとおしゃべりするのが楽しみ。 1人暮らしを寂しいと思わず「1人だからこそ私は自由! | と考えるようにしている。 宅配サービスやコンビニを上手に利用して生活している。朗らかな性格で近所に友人が多い。

2. そのための

- ① 「本人の習慣・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をし ています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒 にしたり、手伝ってもらっています。

趣味の絵画を続けていましたが 気分が乗らなくなり しばらく休んでいました。

おれんじデーの皆さんに励まされ 最近、また描きたいと思っています。

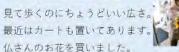


民生委員さんと一緒にお散歩。 時には送ってくれるので助かりま? 1人では行きたくても 行けないところが増えました

歩いて行ける近所のコンピニが助かります!



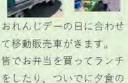
会計も店員さんが 手伝ってくれます。 すっかり顔なじみ







銀行には歩いて いけないので便利。



無くなると、「私(本人)」のパリア(障 壁) になってしまうもの・こと (人と

- *行きつけのコンピニ店と 親切な店員さん
- *外出を手伝ってくれている知人、 民生委員さん
- *おれんじデー! 閉じこもらないで外に出る機会を 確保すること。

「私(本人)」にとってのバリア(障 壁)を取り除く(生まない)ための もの・こと

- *行きたいところへ行けること、 移動手段の確保。
- *会いたい人に会えること、 楽しく過ごせる時間がもてること。
- *容子さんらしさが発揮できる場所、 発揮できる機会があること。

「私(本人)」にとってのパリア(障 壁)をより小さく・軽く・低くする もの・こと

買い物ができます。

*備え型の支援

将来に備えて本人の意思・希望に 沿った支援を一緒に考えておく。

- *今つながっている人とつながりを もち続けること。
- *金融機関の利用方法の改善。

(4) くらしの保健室たま(東京都昭島市)

地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業 (一社)日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート N さん」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします。

※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

1. 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」

- ●「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。
- 月 くらしの保健室 ヘルパーと買い物(1.5h)
- 火 友人とプール ランチ ヘルパー調理(14:00-15:0)
- 水 訪問看護 くらしの保健室 調理、ランチ会 つまみ細工、ちぎり絵(10:15-15:45)
- 木 受診や検査 ヘルパーと掃除(14:30-15:30)
- 金 友人とプール 友人とランチ ヘルパーと調理(15:00-16:00)

±

日 女子会(13:30-17:00)

くらしの保健室たま

元々調理師で料理が得意、家では 作りたくないと思っているけど、仲 間のためには美味しい言ってくれ るので嬉しいし、楽しい



起床 7:00

朝食 7:30 娘のおにぎり

昼食 12:00

夕食 18:30-19:00

就寝 22:00







だんちでカフェ 月一回だけど、自分のことを わかってくれている人たちと 勉強したり、歌、運動、ゲームする



女子会(毎週日曜日集まって、おしゃべり ゲームなど)

地域における実践的な「認知症パリアフリー」の政組の推進に関する調査・研究事業

(一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

のための

(4)「本人の習慣・工夫」

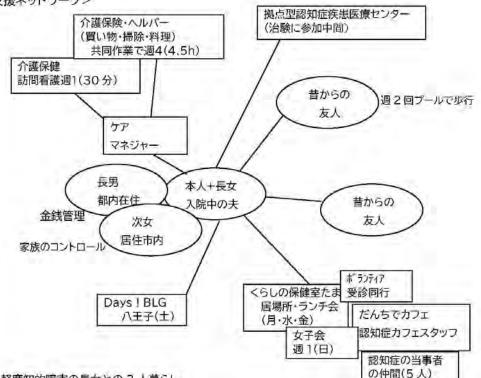
②「今ある問題のアッスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、手伝ってもらっています。

保育園で働いていた関係もあって人と話すのは億劫ではない 誘われたら、用事がない限り参加する

- ① 場所を忘れてしまうので、慣れた場所まで送ってもらう、line 電話の工夫
- ② 私は認知症ですと自分から発する

<支援ネットワーク>



夫と軽度知的障害の長女との3人暮らし。 家計に関しては、もともと夫が管理していた。

夫が脳卒中で入院をしてから、次女と長男が管理するようになった。

自分で働いからもらえる年金が自分の自由にならないのは不便であるが、自分が認知症になってしまったので寂しいが致し方ないと思っている。

自分が認知症になったことで去ってしまった友人もいるが、家族ぐるみでつきあってきた友人が気にかけて くれて、週 2 回 2 時間程プールでウオーキング後にランチしたり、髪の毛を染めるなどをしてくれている。 地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業

(一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

無くなると、「私(本人)」のパリア 「私(本人)」にとってのパリア(障 「私(本人)」にとってのパリア(障 (戸壁)になってしまうちの、こと (人との関係性や場所なども含め もの・こと

壁)を取り除く(生まない)ための

壁)をより小さく・軽く・低くする もの・こと

○本人の希望は、今のままでのんびりしている長女と穏やかに生活をしていきたいと思っている。

○自分の認知症が少しずつ進んでいるように感じているが、私を取り巻くすべての人や環境が、バリアを低く する、バリアを生まないなど無くなってしまうと困るものである。

特に旧知の友人や、くらしの保健室たま、days!BLG 八王子は自分が自分らしくいれる場所で、亡くなっ たら家でぼおっとしている。実際、予定がない日はぼっとしていると娘から指摘をされてしまう

- ○夫が入院しているので、夫のことが心配だけれど、自分も認知症なのでまずは自分がしっかり生活をしてい きたいと思っている。夫がよく同じことをすると怒っていたので、今は夫に怒られないので少し楽である
- 〇夫の状況で自宅に戻れないかもしれないけど、自分は今の家で長女と穏やかに生活を続けたい
- 〇子供達は私のことを心配してくれていて、私のことも含めて家のことが次女と長男に決められているので、 自分にも相談してほしいと思っている。(子供たちの存在は守ることもしてくれるが、バリアにもなる)

<昭島市でのバリアフリーシートの活用について>

昭島市の認知症初期相談窓口や認知症疾患医療センターで、この用紙を使用するのは時間的に余裕がないので この用紙を側において心がけて質問等に対応することを合意しています。

(5)練馬区(練馬区社会福祉事業団)

①田柄地域包括支援センター

地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業 (一社)日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします。

※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

本人が「ふだんやっていること」 楽しみにしていること」 行っている場所」

- ●「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

①朝、公園に出かけ、ラジオ体操(6時30分~、高齢者が集まって実施している)に参加している。

- ②毎日、近所のスーパーに出かけ、買物している。
- ③本人ミーティングに、楽しく参加している(●ここは楽しい)。
- ②自宅周辺の散歩。一人で、自分のペースで歩くのが好き。●「人と歩くのは好きじゃないの」。(最近飼いだした犬の散歩もしている)。
- ⑤ピーちゃん(インコ)のお世話をしている。とてもかわいがっている。
- ⑥友人とのお茶のみ (毎週火曜日) を楽しみにしている。●「○○ちゃんとコーヒーを毎週飲みに行くのが楽しみ。 何十年物お付き合いなんです」。
- ⑦米を研ぎ、炊飯器にセットする。最近、炊飯器の使い方が分からない。
- ⑧サラダ作りが役割。野菜のカット等を担っている。●「料理は好きです。肉は好きじゃないので、魚と朝はたっぷり食べるのが日課です」。洗濯物を干すことも本人の役割。
- ⑨普段やっていることは一部の家事 (料理は妻から教わったもの、買物も自分で)。
- ⑩楽しみなことは「外に出ること」「皆と会っておしゃべりすること」。「認知症希望大使」として活躍している。
- ⑪スケジュール管理は自分でやっている。いつも決まっている予定は、カレンダーに書き込まなくてもわかる。特別な予定は、カレンダーに書き込み、同居の子供にも伝えておく。
- ⑩毎日だいたい10時頃、娘の携帯電話に3回鳴らして切ることを行っている。「無事でいる」という合図。
- ⑬韓国ドラマが好きで、13時30分から観ている。「ペ・ヨンジュン」が好き。
- 回買物以外は出ない。

2. そのための

- ①「本人の習情・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、手伝ってもらっています。

①かなり昔からラジオ体操に参加している。知人に誘われたことがきっかけ。

②一人暮らしの為、買物・調理は日常的に行っている。「用事がないと動かない」「動かないと動けなくなる」「歩かないと歩けなくなる」ので、買物に毎日行くようにしている。

離れて暮らす家族が、毎日本人に電話している。また、長年付き合いのある友人が、本人を見かけた際に声をかけて いる。

③地域包括より、当日の朝に電話し、時間と会場を伝えている。直前にも連絡することで、参加出来ている。●「今日も、朝、電話をもらったのよ~。助かったわ~」。

④自分の役割(洗濯)が終わり、手が空くと散歩へ。外出時は、家族が本人に、必ず携帯電話や自分の名前や家族の連絡先が書かれたものを持たせている。家族が本人に、見慣れない場所に来た際は、家族に携帯電話で電話したり、それも難しい場合は、周囲の人に事情を説明し、家族に電話してもらう様、伝える。また、道が分からない時は交番に行くように伝えている。本人から「どこにいるのか分からなくなった」と連絡が入ると、家族が本人のいる場所に迎えに行く。●「天気が良い日は気分がいいけど、悪い日は落ち込んでしまう」。

地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業

(一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

⑤お世話は昔からの日課。家族も本人に声かけしている。

⑥カレンダーに予定を書き込む。当日の予定を、ホワイトボードに大きく書き出す。家族も本人と一緒に書き込んだ り確認、声かけしている。コーヒーを一緒に飲みに行く友人の連絡先も、本人と家族一緒に確認している。

⑦炊飯器のセットは、家族が、どのスイッチを押すか隣で説明し、本人にセットしてもらっている。

⑧家族は、本人が困っていそうな時に声かけ、フォローしている。洗濯機に洗剤を入れる、洗濯機のスイッチを押す のは家族と一緒に行う。本人が失敗しても、家族は「そんな日もあるよ、いいじゃない」と声がけしている。

また、掃除・調理・家電の使用が上手く出来なくなってきている本人の、「主婦」としての仕事を奪わず、出来る事を 続けさせてあげたい、という気持ちが家族にある。

⑨⑩買物に行く前に冷蔵庫を見て足りないものをメモする。洗濯は同居の子供がやってくれている。こういう続けて きたことを、続けることは良いこと。心や体に良い習慣。続けるための工夫は、普段の心がけや体に気をつけること。 今、支えてくれている人は、同居の子供や別居の子供。家族であっても、お互いを気遣い仲良く暮らす。自分のこと ばかり考えないように。

⑪特別な予定は、カレンダーに書き込み、同居の子供にも伝える。予定当日、自分でも毎日カレンダーを確認するが、 子供も「今日はOOだよ」と声をかけてくれる。

⑫⑬⑭朝食は決まっていて、パン・コーヒー・目玉焼き。火を使うのは、その時位。目玉焼きを作る際に目を離さな いようにしている。

週に 4~5 回買物に行く 2 カ所のスーパーで、購入する総菜を飽きないように使い分け。電子レンジで温め、火を使 わないようにしている。

娘が近くにいるが商売をしており忙しい為、孫(娘の子)が度々訪問してくれている。また、訪問看護師にも隔週か ら毎週来でもらうようになった。

くなると、「私(本人)」のバリア(障 の関係性や場所なども含めて)

- ・家族や友人等の、さり気ない声かけ や見守り。
- 困ったときに声をかけてくれる人。 ・今まで大切にしてきた友人との付

き合いや友人との外出。

- ・今まで担ってきた家庭での役割や 習慣。
- ·一人暮らしになる(同居家族がいな くなるし
- 病気になり、外に出られなくなる。 一番身近で支えている介護者の健 康が、心身ともに損なわれる。

「私(本人)」にとってのパリア(障 「私(本人)」にとってのパリア(障 壁)を取り除く(生まない)ための もの・こと

- ・認知症に対する偏見を限りなくす。 も、認知症への理解を深めていただ 発信 (認知症の本人の発信)。
- 「困っていそうな人に声をかける」 ことが出来る地域や人間関係。
- 誰もが「我がこと」として考える事・誰もが「我がこと」として考える事 が出来る地域や人間関係。
- るように、いつもお互いを気遣い、自 場所を、もっと沢山作る。 分のことばかり考えない。
- りが気づいた時に早く病院に行く。 ・介護者自身の思いを、安心して話せ る場所や休息。

壁)をより小さく、軽く、低くする もの・こと

- ・認知症になっても「生き生き」と「私 その為に、本人を支える周囲の方々に「らしく」「楽しく」暮らしている姿の
 - ・認知症の正しい理解の普及・啓発。
 - ,「困っていそうな人に声をかける」 ことが出来る地域や人間関係づくり。 が出来る地域や人間関係づくり。
- ・同居する家族も気持ちよく暮らせ ・「私」が気軽に出かけられるような
- ・家族や支援者(サービス事業者)へ、 病気が急激に悪くならないよう、周 認知症の方への「本人本位の支援」を 正しく理解する為の啓発。

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします。
※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

- 本人が「ふだんやっていること」
 楽しみにしていること」
 行っている場所」
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

①ファーストフード店「●朝コーヒーを飲んで、家に帰ってトーストを食べるのが日課」

②ショッピングセンター「●たまに掘り出しものがあるんです。このくつも昨日みつけたんです」

③朝と夕方に1時間以上ウオーキングをする。「●歩くようにしている。歩いているときにいっぱい考えている」

⑥人デイサービス「●デイサービスに行かせてもらってたくさん話す。人と話すことは大事。ぼけ防止になる」

2. そのための

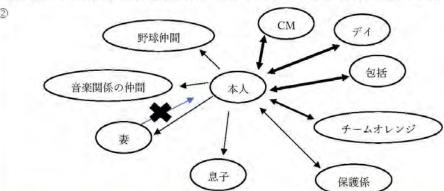
- ①「本人の習慣・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、手伝ってもらっています。

①本人は毎朝、近くのファーストフード店に行きコーヒーを飲み、自宅に帰ってトーストを食べます。 朝と夕方に1時間以上いろんなことを考えながら、ウオーキングをします。

週に3回(午後)デイサービスに行っています。

気になることがあると、地域包括支援センターやケアマネジャーのところに行って話をします。



の関係性や場所なども含めて) もの・こと 妻は家を出て本人との関わりを拒否 しているが、本人は荷物などがあるこ	もの・こと
しているが、本人は荷物などがあるこ	
となどから、どこにいるかもわからな	
い妻を探そうとする。	
「●妻にあってちゃんと謝りたい」	

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします。 ※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

1_、本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」

- ●「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。
- ●お洋服屋さんに行って、最近の流行りを見て歩くのが好き。(ウインドウショッピングが好き)
- ●動物が好きで、水族館に行きたい。
- ●山登りが好きだった。これからも家族でたくさん旅行に行きたい。
- ●掃除くらいはやらないといけないと思っています。(夫日く、昔から掃除は好きだった)

2 そのための

- ①「本人の習慣・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、手伝ってもらっています。

- ●トイレの蓋が閉まっているとわからなくなるから、自宅のトイレの蓋は開けている。
- ●トイレの場所が分からなくなったのでトイレの場所が分かるように扉や柱にトイレマーク(絵)を貼っている。
- ●外出先では、トイレの場所が分からないので夫がトイレの入り口まで連れて行ってくれる。
- ●掃除機や洗濯機の使い方が分からなくなったので、数字のシールを貼っている。

無くなると、「私(本人) のパリア(障壁)になってしまうもの。こと(人と	「私 (本人)」にとってのバリア (障壁) を取り除く (生まない) ための	「私 (本人)」にとってのパリア (障壁) をより小さく・軽く・低くする
の関係性や場所なども含めて)	もの・こと	もの・こと
トイレまで連れて行ってくれる人	トイレの場所やトイレの出入口、使用	蓋のないトイレ
トイレであることが分かる表示	方法が分かりやすい表示(字は読めな	男女兼用のトイレ夫と一緒に入れる
トイレの使い方や出入口の表示	いのでピクトグラムのような絵の表	トイレ、同じ仕様のトイレ
掃除機や洗濯機の使い方シール(字が	示)	誰もが分かる(子供、大人、外国の方も
読めない。色や絵や数字は4分かるの	トイレの蓋が閉まっていると分から	も)文字ではなく絵や色や記号で分か
で文字ではない表示〉	ない。トイレの蓋がないもの	りやすい表示が地域、社会に広がる
	色や絵で表示されているシール、	

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします。
※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

- 1_、本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

「ふだんやっていること」

- 毎日一時間の散歩や調理をしています。
- ・もともと店をやっていたので、もうお客さんが来なくても店先に座って通る人を見ています。 毎日のように近所のコンビニに行っています。
- 朝、自分で買ったカフェオレを飲むこと、仲間と銭湯に行く、友人と電話
- ・長年行ってきた家事を続けること

「楽しみにしていること」

- ・合唱サークル、絵や工作の活動への参加
- ・一番の楽しみは仲間と銭湯に行き、その後近くのスーパーで好きなカフェオレを買って皆と飲んだり、明日の分を 買って、みんなと話をすること。
- ・買い物行って、おいしいものを食べること

「行っている場所」

- 常設型街かどケアフェで活動の参加や交流。
- ・近所のコンピニエンスストア
- 銭湯
- 馴染みのスーパーや薬局

2 そのための

- ①「本人の習慣・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」
- ●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、手伝ってもらっています。
- 足腰が悪くならないように一時間散歩をしている。
- ・視力がかなり低下しているので、杖に障がいの札を付けています。道に迷って困ることもあるかもしれないので、 そこに住所と名前を書いています。
- ・長年行っている買い物、調理は自分で行っているので、大丈夫です。
- ②・常設型街かどケアカフェの担当者から活動参加のお誘い

姪が訪問して、一緒にごはんをたべてくれます。

- ・毎夕には新聞屋さんが声をかけて、直接渡してくれます。経済的に余裕がないことを周囲の人もわかっているので、 コンピニの店員さんがキャンペーンや安くなる方法を教えてくれます。
- · 友人が電球の交換や掃除、買い物を一緒にしてくれます。

薬局で買物をすると、お茶を飲んだり、相談にのってもらえるので居心地が良い。

大家さんがおにぎりや食事を持ってきてくれる。

・困ったときには、お向かいさんの所に行って、助けてもらっています。

地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業

(一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

無くなると、「私(本人)」のパリア(障	「私(本人)」にとってのバリア(障	「私(本人)」にとってのバリア(障
壁) になってしまうもの こと (人と の関係性や場所なども含めて)	壁)を取り除く(生まない)ためのもの・こと	壁)をより小さく・軽く・低くする もの・こと
・友人やサークル仲間との繋がり ・常設型街かどケアフェの活動 ・自分で起きて、店先の椅子に座ることができなくなると、誰とも交流がなくなってしまいます。 ・銭湯(お風呂仲間との交流) ・薬局(居場所、買い物先) ・スーパー(買物先、銭湯仲間と集う場として) ・お向かいさんが居なくなると誰を頼っていいか困ります。	・会えなくても一緒に話をしたい。 ・楽しいことを共有したい ・以前骨折し、左足に障害があるの で、歩けなくならないようにリハビリ している。 ・困ったときに助けてくれる友人や お店	・会えなくても連絡をとる ・活動参加を無理にすすめられたく ない。自分が参加したいとき参加した い。 ・家の中に段差が大きく、手すりや段 差の解消、転ばないようにしたい。 ・お店の人が親切な対応をしてれく ると安心 ・すぐに忘れてしまうので、わからな い時には教えてもらいたい

(6)標茶町

①G さんの試用例

地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業 (一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします

※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

「楽しみにしていること」 「行っている場所」

- 1 本人が「ふだんやっていること」 ●「私 (本人)」がふだん (朝・昼・夜) やっていることや、時々でも楽しみ にしていること、行っている場所はこんなところです。
 - ●可能であれば、写真なども加えてください。

本人の生活の心構え(キーワード)~「人と話をするために、世の中の流れをしっかりとわかって いたい」

「技術はすごい。身につけておけば80になったって働ける」

毎日、新聞を隈なく読む。→87歳まで洋裁の先生をしていた。長年、社会に出て生徒を教えてい たので、話がしっかりできるように世の中の流れを把握する癖がついた。仕事を辞めた今でも継 続している。

大好きな洋裁は今でも家で続けている→古くなったトレンチコートをスラックスに仕立て直した り、ナイロンのジャンバーをエコバックに仕立てたりしている。洋裁を通じて知り合った教え子 との交流も楽しみにしている。



地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業

(一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

- 2 そのための
 - ①「本人の習慣・工夫」
 - ②「今ある周囲のアシスト」
- ●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をし ています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒 にしたり、手伝ってもらっています。
- ・頭をすっきりさせて、新聞を読むほうが良いので、毎日6時半には起きてラジオ体操をしてい
- 人と話をするのが大好き。特に教え子から電話がきたら長電話できるように電話の前には椅子 を常備している。
- ・来客があったら、「どうぞどうぞ」と招き入れ、コーヒーを淹れてもてなす。教え子が来てくれ るのが一番うれしい。こんなの縫ったよ、と言い合える。いつ誰が来てくれても良いように、身だ

「ヘルパーさんはいい人ばかりだけど、長話する時間はないし、コーヒーも飲めないっていうか ら寂しい。」

※元々話好きな上に認知機能の低下で、何度もテープレコーダーを巻き戻すように同じ話をする 今でも、変わらずに遊びに来てくれる教え子との関係性が素敵だな、と思う。話の内容はなんでも いい。一緒に過ごせることがいい。



無くなると、「私(本人)」のパリア(関	ij
壁) になってしまうもの・こと (人)	Ł
の関係性や場所なども含めて)	

洋裁ができること。洋裁を通じ の関係性。

「私 (本人)」にとってのパリア (障) 「私 (本人)」にとってのパリア (障) 壁)を取り除く(生まない)ための もの・こと

て知り合った仲間や教え子と | と。辞めた今でも「技術者」で | きる場所づくり。 あり「先生」→この気持ちが生 ・ 周りの人の理解 活の軸

壁)をより小さく・軽く・低くする もの・こと

- 「要支援者」として接しないこ・本人の持っている力を発揮で

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします。
※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

- 本人が「ふだんやっていること」
 「楽しみにしていること」
 「行っている場所」
- ●「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。
- ・毎月 14日、28日にお寺にお参りに行く。(檀家さんの集まり) 日にちはいつも変わらない。 昔から14日と28日なので、ちゃんと覚えている。毎回檀家さんが10人くらい集まってお話 してくる。
- ・カラオケ同好会は月に2回火曜日にある。「いつから行っているのかわからなくなるくらい昔から行っている。先生に作ってもらった持ち歌『愛しの多和平』は何も見なくて歌える。新曲も覚えなければいけないので、CD聞いて歌詞カードみて家でも練習している。発表会にも参加している。標茶であるときには自分で歩いて行くが、釧路の時には仲間が車で迎えに来てくれる。運転できる仲間が何人かいるからありがたい。カラオケの友達は、さっちゃん、なおちゃん、なんとかさん、なんとかさん・・・」→昔からの友達の名前はおぼえているけど、新しい仲間の名前がなかなか覚えられない。それが申し訳ないので、と名簿をいつも眺めて、覚えようとしている。





地域における実践的な「認知症バリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業

(一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

- 2. そのための
 - ①「本人の習慣・工夫」
 - ②「今ある周囲のアシスト」
- ●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をし ています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒 にしたり、手伝ってもらっています。
- ・その月によっては、14日と28日が、月・金のデイサービスと重なることがある。月初めにカ レンダーに予定を書き込み、重なった時にはどちらにいくか、自分で決めている。テイサービス、 お寺、カラオケなどの予定を書き込みながら、「この予定を全部こなせるように、1 か月元気に頑 張るぞと自分で目標を立てていることが工夫なの」
- ・老人クラブの役員もやっているし、総会にも出る。福祉フォーラムにも出ている。「わかんない」 からといってどこにも出て歩かなかったら、ボケが進むでしょ?わからなくても行くことが大事
- ・カラオケのファイルに歌詞カードなどをひとまとめにしている。しまい込まずにテーブルに出 しておいて、1日に何回も広げてみる。



無くなると、「私(本人)」のバリア(障 「私(本人)」にとってのバリア(障 「私(本人)」にとってのバリア(障 壁) になってしまうもの・こと (人と の関係性や場所なども含めて)

- 14日・28日など、これが変しすぎない。 わらずにあること。
- 徒歩でいけないところへ送っける。 てくれる友人、仲間の存在。
- ・見守ってくれる家族の存在

壁)を取り除く(生まない)ための もの・こと

- カラオケは火曜日、お寺は |・周囲の人は見守るだけ、干渉 |・ちょっと間違っても「だいじ
 - ・スケジュール管理は自分で続 る町民を増やすこと
 - を支持し、周囲が関心を持つこられる。名前を呼べる。

壁)をより小さく・軽く・低くする もの・こと

- ょうぶ、だいじょうぶ」と言え
- 参加者やスタッフが名札を付 本人の好奇心や意欲的な活動 けると、自信をもって声をかけ

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします ※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

「楽しみにしていること」 「行っている場所」

- 1 本人が「ふだんやっていること」 ●「私 (本人)」がふだん (朝・昼・夜) やっていることや、時々でも楽しみ にしていること、行っている場所はこんなところです。
 - ●可能であれば、写真なども加えてください。

「麻雀とか、オセロ?・・・やりたくない。パークゴルフ?やりたくないね。体操?いいよ、家で やるから。体動かすの好きだよ。小学校からずっとサッカー部だったからさ」 →サッカーボールを蹴るような、しぐさをして、ニコニコと笑う。

- ②「本人の習慣・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をし ています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒 にしたり、手伝ってもらっています。

ケアマネジャーの旦那さんが、本人と同級生。(サッカー部の仲間)で、一緒にお風呂に誘って くれる。高齢者事業団の噴水の掃除や雪かきの仕事を紹介してくれる。送り迎えもしてくれる。 昔から変わらない距離感で、冗談も言い合える。

「しげはるよりも俺の方がサッカーは上手かったんだよ?今は世話になってるけど」

黙って座っていられない。旧店の中でも、外でも体力を持て余すように歩く。

無くなると、「私(本人)」のパリア(障壁)になってしまうもの。こと(人との関係性や場所なども含めて)	「私 (本人)」にとってのパリア (障壁) を取り除く (生まない) ためのもの・こと	「私 (本人)」にとってのパリア (障壁)をより小さく・軽く・低くするもの・こと
本人を取り巻くチーム(本人、 ケアマネ、ケアマネの旦那さ ん、推進員『包括』)	・やりたくないもの、場所に無理やり繋げようとしないこと。・「サッカーをやる」ことを前提に考える。	・同じような仲間を作ること。 デイサービスなんか行きたく ない、体を動かしたいというア クティブなメンズクラブを作 る。賛同してくれるサポーター もいるはず。

(7)鳥取市

①理容師さんの試用例

地域における実践的な「認知症バリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業 (一社)日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします。
※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

1、本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」

- ●「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

普段やっていること・・・理容師の仕事

仕事の合間にするお裁縫、繕いもの等

娘が飼っている犬の散歩

天気が良い時の散歩

料理

お化粧をして身なりを綺麗にしておくこと

楽しみにしていること・・庭で花や野菜を育てること

お店に花を飾ること

店の前を元気に学生さんが通るのをみる事

大切なもの・・・理容師の道具

夫からプレゼントされた自転車

三人の娘



2. そのための

- ①「本人の習慣・工夫」
- ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工失をしています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、手伝ってもらっています。

本人の工夫

- ●お店に来るお客さんは午前2組、午後2組程度の予約にしている。常連客が中心。一人ひとりのお客さんを大切に している。馴染みのお客さんの中には、病気のことを理解してくれる人もいる。
- ●夜は寂しいので娘宅に行く。娘と一緒だと安心して寝ることが出来る。娘の家でも料理や家事はする。 娘にお母さんの料理が食べたいと言われると嬉しくて張り切ってしまう。頼られるのはうれしい。逆に、料理を全 て作ってくれる娘に対しては、優しく育ってくれてうれしいなと思う。

手先を動かすのが好きだから、裁縫などをしている。

- ●散歩に出かける時には携帯を持って出掛ける。(外出中でもお客さんから連絡があっても受けれるように) 娘の家に行くときは、歩いて行く。健康の為に歩いたほうが足腰が強くなるからいいなと思う。 娘の家から帰る時に、自転車だと私を見送る娘の顔が心配そうで、険しくなっているけれど、歩きだと笑顔で送り 出してくれる。
- ●美容師の長女がお店で一緒に働いてくれるようになった。
- ●仕事の困りごとや不安など、サポートしてくれている。娘が一緒に働くようになって、お店の中が明るくなった。 (ポップが増えたし、ペイペイも使えるようになった。公式アプリも始めた!)

地域における実践的な「認知症パリアフリー」の取組の推進に関する調査・研究事業

(一社) 日本認知症本人ワーキンググループ (令和3年度老人保健事業推進費等補助金事業)

無くなると、「私(本人)」のパリア(障	「私(本人)」にとってのバリア(障	「私(本人)」にとってのバリア(障
壁) になってしまうもの・こと (人と	壁)を取り除く(生まない)ための	壁)をより小さく・軽く・低くする
の関係性や場所なども含めて)	もの・こと	もの・こと
- 理容師の仕事を続けること	・来られたお客様を大切にしている。	・外出の時には携帯を持って出かり
・お義父さんの代から使っている仕	思いやりを持って笑顔で接客してい	3 .
事道具	క .	・娘が一緒に仕事をしてくれること、
・買い物にいくこと	・常連客しか来ないとしても、メイク	お客様が変わらず通ってくれること
・家族の理解	をして、綺麗にしておく。	
	・買い物や散歩、夫の墓参りなど、行	・今後の外出に備え、ヘルプマーケヤ
	きたいところに出掛ける。	ヘルプカードの活用を検討してみる。
	・歩き続けること。季節ごとの綺麗な	
	景色を楽しみながら、歩く。それが立	
	ち仕事をする上でも役立っている。娘	
	がやめなさいと言わずに送り出して	
	くれること	

本人の「今とこれからの暮らしのバリアフリーシート」

※本人1人に1シートではなく、やっていること・楽しみ・行っているところ等ごとでお願いします。
※各ブロックの行数が増え、シートが複数ページになってもかまいません。

- 1_、本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」
- ●「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなところです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。
- ① ソフトボール

友達と週2回ソフトボールの練習をしている。 以前はハイシニアボール全国大会に鳥取代表で出場していた。 チーム名は「砂丘クラブ」

② 散歩

足だけは動かさないといけないと思い、自宅周辺を散歩する。 若いころから運動は大好き。

学生時代はパスケットボールをしていた。

③ 喫茶店に行く 友達と一緒に行きつけの喫茶店 (ペニーレイン) に行く。



- 2. そのための
 - ①「本人の習慣・工夫」
 - ②「今ある周囲のアシスト
- ●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣があって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人たちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、手伝ってもらっています。
- ① 本人の習慣・工夫
 - 体が弱らないように、自宅で体操や近所の散歩を継続する。
 - :田んぼ道を歩いているので、自宅を遠くに見ながら歩いている。(妻も時々窓から覗いている。)
 - ・雪が降ると散歩に出れないから、冬の間はデイサービスを利用して運動をすることを選択した。 (4月からは週2回の練習が始まる!!
- ② 今ある周囲のアシスト
 - ・友達や妻の存在
 - (友達) 免許は返納しているため、ソフトボールの練習や喫茶店には、友達が車で迎えに来てくれる。 練習内容も本人に合わせたメニューをしている (キャッチボール、外野の球拾いなど)
 - (妻) 夫の友達や近所の方に、認知症についての理解や説明をしている。 友達にも誘ってもらうように声をかけている。散歩に行くときも、 特に何も言わず見守っている。
 - ・近所の方の理解

散歩中に挨拶をしたり、気にかけてくれている。

・道端に咲いている花も大事な社会資源 季節を感じ、見ていると癒される。 学校が近いから、校庭から子どもたちの声も聞こえる。







(8)大分県

①大村さん

3) バリアフリーシート

- 1. 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」
- 「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、 時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなとこ ろです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

○普段やっていること

「買い物に行く事」

- ・買い物に行きますが、レジが大変。お金の出し入れや、買ったものを袋に詰めたり。
- ・最近は夫と買い物に行くが、出来そうだと思って手を出すと「俺がするけん」と言われる。でも自分でやら ないと忘れていきそう。

「家の片付け・家事」

・家で片付け等を「俺がする」と言ってやってくれるが、戦力外になったみたい。

○楽しみにしていること

「友達と会う」

- ・津久見に来てからの友達には会っていない→避ける人が出てきた→人と話すのが怖い
- ・高校時代の友達(看護師)「そんなの良い薬も出来てきてるし、少しは楽になる」というが、どうなるかは 分からないけれど、元には戻れない。

「外出すること」

- ・この病気になる前は一人で車で大分市内に行ったり、佐伯に行ったりしていた。→今は自分の行きたいとこ ろに他人の許可なしで行きたい。
- ·Siriを使う

「生活のこと」

・特別な事ではなく、普通にそれまでしていた生活や仕事がしたい。

- 、そのための ①「本人の習慣・工夫」 ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣が あって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人た ちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、 手伝ってもらっています。

「レジの人が優しいと買い物できる」

- ②自転車で買い物に行っていた時、自転車に籠を付けると、全部籠に入れてくれるレジの人もいた→ 「ありがとう」と私が言うと、また次もしてくれる。
- ②最近は主人と買い物に行く。 (以前は自転車で買い物に行っていた)

「外出したいが、友達との感覚の違いがある」

①Siriを使う→困った時、家族や知り合いに電話できる





3) バリアフリーシート

- 1. 本人が「ふだんやっていること」 「行っている場所」
- 「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、 時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなとこ ろです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

- <u>〇楽しみにしていること</u> 「なでしこガーデン(デイサービス)に来る事」
- ・ここ (なでしこガーデン) に来る事が楽しい
- ・ピアノを弾く事が楽しい

<u>〇もっとしてみたいこと</u>

- ・ドレスアップしたい
- ・演奏会をしたい

- ドレスアップして演奏会をしたいが、客がいない

- ・着やすく格好の良い服が着たい(着やすい服は、格好が悪いものが多い)
- ・電気のピアノではなく、本物のピアノを弾きたい ・似顔絵を描いて人にあげる

- .そのための ①「本人の習慣・工夫」 ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣が あって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人た ちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、 手伝ってもらっています。

①なでしこガーデン(デイサービス)に来ていく服を着やすくする為に、ボタンをフックに変えている

②ご主人や子供が衣類の着脱を手伝ってくれる ①「なでしこガーデン」みんなの似顔絵を描いて、その人にあげている(皆喜んでくれてるみたいだ)





3) バリアフリーシート

- 1. 本人が「ふだんやっていること」 「楽しみにしていること」 「行っている場所」
- ●「私(本人)」がふだん(朝・昼・夜)やっていることや、 時々でも楽しみにしていること、行っている場所はこんなとこ ろです。
- ●可能であれば、写真なども加えてください。

〇楽しみにしていること

「なでしこガーデン(デイサービス)に行く事」

- ・ここ (なでしこガーデン) に来るのが楽しみ
- ・もっとここ(なでしこガーデン)に来たいけれど、お金がかかり過ぎたら悪い

「主人と過ごす」

- ・主人が服をコーディネートしてくれる(自分で着れないものや、似合わないものをチョイスしないように)
- ・主人が買い物、調理、掃除等の家事をする
- ・私はお風呂の掃除と洗濯ものを干す係
- ・休みの日は主人とドライブ
- · 「ただいまー」と言って、文句も言わず「今日は肉にするぞ」とか言って、夕飯の支度をする。
- ・主人が料理をしている横に「ちょん」と居て調理を手伝う。
- ・主人は包丁や火の心配をしている様だ
- ・時間に追われている主人の為に、少しでも多くの家事をしてあげたいと思うが、出来るか分からないで不安 だし、どこから手を付けてよいのか?分からない。「私よりも主人がかわいそう」

○家に居る理由

- ・外を歩きたいが、ご主人やお医者さんが怖がる。「信号があるか?」「迷子にならないか?」等と言われる と、私も怖くなる。
- ・「外に行ってみようかなぁ」と思うけれど、私って皆にどう思われているのかなー?おかしくないのか なー?とか考えてしまい、結局家でじっとしてしまう。
- ・近所の付き合いはしていない。年寄りが多く、(私の)こんな病気を分かっていない。

- . そのための ①「本人の習慣・工夫」 ②「今ある周囲のアシスト」

●ふだんの暮らしの中で、「私」には、こんな習慣が あって、こんな工夫をしています。周囲のこんな人た ちと関わりを持っていて、こんなことを一緒にしたり、 手伝ってもらっています。

「なでしこガーデン (デイサービス) に行く事」

- ①②「ここ(なでしこガーデン)でギターを弾いてくれるのが楽しい」と主人に言うと、主人がギター を買ってきて毎日練習をするようになった。
- 主人がギターを弾いて、私が歌えたらいいのに、夢だけど。 ②同じ症状の仲間と話すことで、「私は何も隠さないで良いんだ」と思え、安心する。
- ②愚痴も言わず、自分の仕事だと思って家事をしてくれている主人に、「ありがとう」と言う。





5)地域ヒアリング映像収録

収録映像の一部をテキスト化して紹介します。

映像は、日本認知症本人ワーキンググループの

ホームページでご覧になれます。

http://www.jdwg.org/topic-1/r3roukenjigyo/



(1)御坊市



左:楠山 順子さん 右:湯川 光永さん

<楠山 順子さん:バリアフリーシートに取り組んだきっかけ>

ご本人さんから、入れ歯があわないのか、歯茎がすごい痛いやん、て言って連絡受けて、最近ち ょっと物忘れも多いし、お電話で話しして、ちょっと通じないこともあるんで、お家の方へ今から行くか ら、行った時に話し聞かよっていう感じでお家に行かしてもらいました。行ったら、予約とるよっていう 風に言わしてもらったんですよ。「予約取るんだったら 9 時から 10 時の間にしてほしい」って言われ たんで、なんで 9 時から 10 時、朝の早いほうがいいん、と言ったら、「ううん、私ねバスで行くんや」 って博愛歯科にはバスで行くん、て。そんな、今混乱してきてて、物忘れも多なってきてて、そんなん でバスに乗って行けるん、って言ったんですよ。そしたら「博愛歯科だけは行ける」っていう風に言わ れたんですね。バス停も私は歩いて、足腰が大丈夫やから、バス停まで歩いて行けるって。8 時台 のは、3 本ほどあるんやって、「8 時まわったらバス停に立ってたら停まってくれたバスに、南行きの 停まってくれたバスに乗ったらいいんや」って、本人さん、言われて。でもその時間帯のバスって、学 生さんいっぱい乗ってるよね。博愛の近くには、高専があるから学生さんがたくさん乗ってるバスに なります。本当にもうあの 10 人以上、1台のバスに乗って、へたしたら 20 人以上かな、乗ってます。 で、そんなバスに乗って大丈夫なん、タクシー呼ぶよって、また私、念おしてしまったんやけども、もう、 普段ね、不安がって、そうかっていう本人が、「大丈夫やで、そんなに心配せんでも、私は博愛歯科 だけは行けるんやから。学生さんがたくさん乗ってることでバスに乗っても外を気にせんでいい、み んな降りる時に一緒に降りたらいいんやと、降りますのボタンを押さんでも、してくれるし、なんて、み んな降りる時に、私一緒に降りたらええだけや、わからんことあったら、あの子らに聞いたら教えてく れるんや」って。

でも心配だったから、私、次の日、バス、のぞきに行ったんですよ。降りてくる本人をのぞきに行ったら、もう満面の笑みで、本当に学生さんのセンターを位置どって、降りてこられたんで、ちょっと私の心配は何だったのって思うぐらいものすごい自信満々の笑みでした。

学生さんが一緒に乗ってくれてる。で、一緒に降りたらいいだけ。多分学生さん自体はそんなに思ってないでしょうね。それが本人にとってすごい、大きな力になってたんかなあって。

無理やろうって、私自身、人多いバスって嫌いなんですよ。そんなん、こんだけ物忘れとか、生活においても混乱してるのにそんな大勢の中に入ったら絶対、混乱するだけで、まして一人で乗るって言ってるし、大丈夫かなって本当に心配しました。何て言うやろ、私が無理やろな、って思ってたその感覚っていうか、そういうのが払拭されましたね。本当に。

逆に、自分の力でバスに乗って来た事って、本当に覚えてて、本当に嬉しそうで、本当に多分私 がタクシーで調整してたらすっかり忘れてたと思います。

<湯川 光永さん>

いいって思ったのは、認知症とともに生きる希望宣言って、そこに貼ってあるんですが、2 番目の項目の中で、自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続けて社会の一員として楽しみながらチャレンジしていきましょう、認知症になったとしても自分が持っている力、その力を発揮できる場所っていうのは日常生活の中にたくさんころがっていって、こういうことができるんだってのが、私達自身にわからせてもらった一コマってすごい貴重だし、こういう経験をたくさんの人に、介護している人たちに知ってもらいたいなあってのが今の思いですね。

<楠山 順子さん>

谷口さん(市包括)に、これをシートに落としてくれと言われた時、どうしようって。何書いたらいいんですかっていうような感じで、もうありのまま書いてくれたらいいんでっていう感じだって、最初谷口さんちょこっと見本みたいな書いてくれたんですが、いや、そうじゃない。それだったら伝わらんと思って。たぶん私の言葉に書いてもうまく伝わらんと思うんですよ。やっぱ本人の言葉が入ってなかったら、ちょっとエピソード的なことだったんで。

私は高専生に伝えたいです。今ちょっとね関わりが、このコロナ禍の中でないんですけれども、高専生の子達に、知らん間に応援団になってるんやで、って。ちょっとこそっと教えてあげたいです



玉置 哲也さん

<玉置 哲也さん:本人との出会い>

初め、何回かボランティアという形で自転車で来てくれたんですね。そっから迎えに行ったりとかするんだったら、利用者さんとして登録しませんかっていうことで。

(本人の認知症に対する思い)

初め、認知症ということに関して、ものすごく認知症扱いされたくない、認知症扱いするんだったら、わし、もう来んど、っていうお叱りを受けたこともあったですけど、そんな中で言葉がうまくかみ合わない、他の利用者さんのこと見て、 わし、あんなのと一緒にするんか、っていう風に言ってたんですけども、言葉、しゃべれんかっても、いろいろまだできることあるんよなって言って、わしもなんかそんな決めつけたって悪かったわなっていうなこと言ってくれたことあったんですよ。

("認知症の人"ではなく、"その人"として)

病院で、認知症って言われたんですよ、でも、認知症であろうが認知症でなかろうが、別にどっちでもええやんっていう言葉、言ってくれたことあって、ま、そりゃそうだわな、一人の人として、作業が好きな人として見てくれたらええだけで。認知症やけども、こんな作業ができるんだっていうことじゃなくて、普通に、認知症があってもなくても、作業してて、たまたまその作業してる人が認知症って診断されたっていうことが、後から発覚したっていうことで、ええんかなと思ったりね。

後から発覚したところで別に、どう対応変わるかっていったら、特に対応って変わらないと思うんですけど自然と自分の近くに、たとえば認知症の方であったり障害をもっている方がおって、そういう状況が普通っていう環境があれば、偏見っていうのもやっぱ生まれにくいのかなっていう。あえてそういう障害教育とか認知症教育って中へ無理やり入れてあてはめるんじゃなくて、本当に共生して、一緒になにかを楽しむとか、生まれてきた環境の中から、学ぶ、振り返ってみる、そういうことかなあって。お叱り受けたことね、認知症の方としゃべっているときに、わかります、わかります、ってうなづいてたことが、お前、ほんとにわしの気持ちわかってくれてるんか、ってお叱り受けたときに、わかっているフリしてたなって、のをすごく反省したことがあって。

そういうことから、安易に、わかりました、わかります、っていうのはあれだなと思って。まあ、わかろうと努力はしますっていうか。

あんまり、よっぽど、コストかかったり、リスクあったりとかしたらあれですけ、あまりノーと言わずに、 とりあえずスタッフで一緒にやってみようかっていう形のスタンスだって。その代わり、あとの評価っ ていうところはちゃんとしようっていうの意識してましたかね。

なかなかね、デイでやるような作業に対して市役所の人がこんなん提供してくれるっていう、実際、すべて繋がってると思う、市役所の仕事をもらうことによって、利用者さんのモチベーションが全然違うと。市役所の依頼を受けた仕事で、御坊市の市民のために役立つもんなんやでっていう風に利用者さんに伝えた時の、利用者さんの、物凄い表情が忘れられなくて、それがきっかけで、この作業とかも全部そこからつながってますよね。

ちょっと血糖値高い時もあったりするんやけども、 ただ単に今のままだったら糖尿悪化するで、とか、お酒をやめられない人、とかじゃなくて、そういう視点から考えたときに、そこを指摘するんじゃなくて、自分がやりたいことができなくなる、だから、そこを今気をつけなあかんのっていう風に。目的はこうですよ、としっかりね。

(バリアフリーシートを使用して感じたこと、得たこと)

本人のこと、知らない部分があって、決めつけてしまってる部分があって、それが本人の暮らしに対してバリアになってる。だからある意味、このバリアフリーシートを家族と一緒にやるって言うのもね、面白いな。実際書いてみて、本人の言葉、書いてみて、シートにある、この見える化っていう、言葉として言語化された時に、これ、ほんまに本音かなあ、建前かなっていう風にね考えたりとかして。同じ質問でも、A スタッフが聞くのと、B スタッフがきくんでは、返ってくる言葉が違うな。そういうのも現場でこう楽しみながら、施設とかでも、こんなん使って活動したら、本人さんのことをもっと知ってみようっていう、いいツールになるんちゃうかな。

(2) 藤枝市



左:横山 麻衣さん 右:稲葉 知司さん

く横山麻衣さん: パリアフリーシートに取り組んだきっかけ>

バリアフリーシートをみて、本人が日頃してる工夫っていうところがあって、稲葉さんでいうと、毎日公園を歩いてるって事は知っていたけれど、

<稲葉知司さん:認知症の本人>

毎日必ずここを歩いて、そこの山の上をね、下を歩いてその後また山の上を歩いて帰る、、ということをずっと続けてきていますね。

<横山さん>

実際にこれを稲葉さんが、これからも続けたいっていう気持ちがあるのも知ってたけどこれを続けるために、バリアって視点でご本人が産まないってこともそうだけど、まわりがそこのところを続けるために考えていくっていう考え方って、してなかったから、稲葉さん、いいなって思って。

<稲葉さん>

歩くっていうか、徘徊って呼んでますけどね。自ら徘徊ですね、ただ目が覚めると、蓮華寺池にまず 行こう、って。それだけだね、今はね。

<横山さん>

稲葉さんの蓮華寺池への、稲葉さんがいう徘徊が続けられるって言うのを一緒に考えられるかなって思って、稲葉さんのシートを書きました。稲葉さんと話をするだけじゃなくって、この公園で歩くということの方が、いろんなその場面、公園での過ごし方もそうだし、公園での人との出会い方とか、どんな風に過ごしてるのかとかっていうのはすごい分かったし、公園を歩くということへの思いみたいな、思い出の場所ってところとかも分かったして。実際に公園を歩くまでは、携帯電話をもっていることは知ってたんですけども、使ってるってことは知らなかったし、その携帯電話を使って奥さんとやり取りしてるって事は初めて知ったところがありました。

<横山さん:稲葉さんの携帯電話のカメラ利用に関して>

携帯の存在は結構大きいなって思ったし、実際にそのバリアフリーシートを奥さんにも見てもらった時に、奥さんも、必ず公園へ出かける時には携帯をもった?っていうふうに本人に言っていて、そのアシストがあって、本人が安心して出かけられるっていうための一つの物が携帯電話ってところが、このバリアフリーシートをやって、わかったことでもあります。

包括支援センターに稲葉さんのシートを共有したことがあったんですよ。包括支援センターの推進員に。その中ですごいいいなと思った発想が、このシートを積み重ねてくっていうか、使う人が増えていく中でいろんな工夫も集まってくると、こういう工夫をしてる人もいるんだっていうのをみんなが知るっていうことが、その視点でもすごくいいなって思って、そういうことが集まっていくと、そうすると発想が変わってくるかなと思って、工夫とか、続けるためにとか、それをいってくれた包括支援センターがいて、そうだなって、確かに個別のものが積み重なることによってみんなの工夫を知るっていうのが。

<横山さん:パリアフリーシートを使ってみて>

ざっくり感の方がいいですね。書きやすい。項目が決まっているより、書きやすくないですか。なんでだろう。自由にかけるし、そのまんまの声を書けばいいから書きやすいと思います。何かに当てはめていくものじゃないから。

このシートの内容はケアプランに直結する内容になってくるかなっていうふうに思って、個別のところで。本人が日頃していること、これからも続けていきたい事みたいな視点っていうのがすごく大切で、 役立つかなっていうふうに思ってます。

起点は本人の声じゃないですか。バリアを考えていく本人の視点から、という本人の今の生活っていうところの中で。本人がやりたいことを続けるっていうのが、それってケアプランでいう事実支援の視点にもなってくると思うから、もっとそういう視点で聞いてくために、バリアフリーシートはすごい役立つと思います。

(3) くらしの保健室たま(昭島市)



左:間淵 由紀子さん 右:能任 智子さん

<スマホで本人の言葉を記録>

○間渕さん

そこで、水曜日は料理しながら話をしたりとか、ここに、物忘れの人が必ず、1、2人来るので、3 人で話しているのを、能任さんの言葉だけをひろった。スマホにメモしておく。言葉だけ。入れれば、日付は勝手に入ってくるし。

<便利なことを色々と教わる>

〇能任さん

的確にいろいろと教えてくださるんで。私はそれだけを一緒にきかなくちゃって。頭に入れとかないと。すぐ忘れちゃうから。一緒です。

<忘れても周りが覚えている>

○間渕さん

基本的には、忘れても、私が覚えているよ、って。丹野くんの言葉。 周りが覚えているから、いいよ、って。

だから、なんだっけ、って言われたら、そのことじゃん、って私が言うんだよね。 「そうそう」(能任さん)

〇能任さん

ストレスを感じなくなってるかもしれない。私自身がね。あまり、きつくやっちゃうと、自分が、何が なんだかわかんなくなっちゃう。そういう意味では、ここに来れば、間渕さんとか、いろんな方が いて、私はそんんなに周りに気を遣わずに、私は私でいられるから。広くはしないようにしている。

○間渕さん

認知症っていわれて、本人は言うわけだから、自分は認知症と言うわけだから、去っていった人 もいるんだよね。(能任さん:うん)

でもこうやってできた新しい友達が、みんな、つっこんでくれるからね。

〇能任さん

いってわからないけれど、みんな一緒だよって。できることはやろうと思っているんで、自分で。周りの、じゃなくて、自分のために。それだけです。

でもあんまりたくさんありすぎると、こんなんなっちゃうから(笑)。それはそれで。

〇間渕さん

家族って、本当に大切な存在なんだけど、認知症って病気になっちゃったら、けっこう制限があるよね。お金もそうだし、外出もそうだし、電話も出ちゃいけないって言われたしね。お小遣いも、全部、お子さんたちが管理をして。

(やっぱりお金の管理って自分でやりたいですよね)

〇能任さん

ある程度はありたいですよね。自分のお金は自分でやりたい、ってある。それを、何かに使うとか、そういうあれも、あまりないんですよ、私。ただ、欲しいな、買いたいな、とかって時は買うけど、そうじゃなければ、別に。まあ、あれば、あったで、急にあったときに、使うじゃないですか。そのために、ちょっと持っていたい、って思うんですよね。

〇間渕さん

お財布には、今は、出かける時に、交渉して、3千円いれてもらうことにしたんだよね。

〇能任さん

使っても使わなくても、財布には常に3千円が入っているって。

(写真を残そうって思われるのはどうして?)

○間渕さん

やっぱり、ここで、できることがいっぱいあることを残しておきたいって、私は思うから。それで、 できなくなったよ、って時に、ここでやってたじゃんと言えると。

(写真を見られると、やっぱり変わりますか?)

〇間渕さん

やってたことが見えるもんね。

(見えると、あ、やれるんだって。)

〇間渕さん

笑ってる写真が、けっこういいよね。こんなことして、楽しいんだねって。みんなで笑ったりとか。

〇能任さん

迷わないように、迷わないように、ここは大丈夫かなって。しょっちゅう通っているところはあれだけど、ちょっと冒険しようかなって思ったら、もうこわくって、途中まで行って、また戻ってきたりして。

〇間渕さん

今、スマホで、FacetoFace で、スマホの機能を使って、練習しているのをまだしているんだけど、家に能任さんがいて、私が家にいて、家を見せて、って言ったら見せてくれる。それは、丹野くんが、スマホとか使うといいですよ、って言ってくれて、一人で出かけられるようになるよ、って教えてもらってね。練習しているんだよね。電話でするときは、できるだけそれをして。でも、だいぶ慣れてきて、もうちょっとすれば、外でもし冒険したときに、ここにいるよって言ったら、じゃ、そこはどこ、こっち側に来な、って言えるじゃない。それって大事だよね。時々冒険したいんだよね。

〇能任さん:

したいんだけど、勇気がない。

(でも、機能が使えるようになると、冒険してもいいかなって)

〇能任さん:

使えちゃうと、どこ行っちゃうか、わかんない(笑)。

〇間渕さん

でもこの間、ずっと一人で買い物しなかったんだけど、エスパのパン屋さんでね、パン買ってきたんだよね。一人で行って、今日、パン買ってきたのよ、って。

〇能任さん

怒られるこられるから、内緒で行ってね。(だれに怒られるの?)家族。

○間渕さん

家族は心配するんだよね。ここへね、パン買いに行ったんだよ、って、やっぱうれしんだよね。

〇能任さん

そうそう。前はできてたんだよね。今はできないってのがね。で、行ってみたの。そしたら、できた の。ちょっと自信ついちゃった。

○間渕さん

また行けばいいよね、1階のパン屋さん。

くパリアってなに>

○間渕さん

バリアっていっても、わかんなかったよね。バリアって何、って(笑)。なんか、難しい言葉つかっちゃってね、って。

〇能任さん

もう、ほんとにね、そういう普段、みなさんが使っている言葉が、私にはよくわからない、ということがよくあるんですよ。え、それって何って。でも、きくのも悪いしなあ、って、黙って。きいたフリしちゃう。

今の生活で、別に不自由ってのがないので、いいやと思っちゃう。

(間渕さん:今が続くのがいいと思っているんだよね)そうそう。

(4)練馬区(練馬区社会福祉事業団)



奥村 綾子さん

<奥村綾子さん:本人の困りごと>

そうですね。長田さん(とうきょう認知症希望大使)自身にストレートに聞いた時に、困ったことはないよっておっしゃったんです。

すでに、日常生活の中で、様々な工夫をしてやっておられたので、困ったという認識をお持ちでなかったと思うんです。それぞれの生活をどういう風に送っているんですか、あ、これってバリアで、いろんな工夫をされているんだなっていうことにもまわりも気づけたことあると思います。

本人ミーティングの中では、やはり本人の思いや言葉を大切にしたい、と、言葉を残してあります。 その時はその時で言葉として残す、ということに追われてしまうんですけど、後で、こんな思いがあっ たんだとか、こんな工夫されているんだとか、日常生活、何気なく送ってらっしゃるようで、いろんなこ とで実は工夫されているんだなと気づけたかなと思います。

<奥村綾子さん:バリアフリーシートで気づいた本人の新たな一面>

長田さんって、家事、こんなにやってらっしゃるんだ、と。たとえば買い物では、冷蔵庫を開けて、 足りないものをメモして買い物をされているとか、料理は奥さんに、側にいて声かけしてもらって、ど ういう味付けをするとか、手順とかを教えてもらいながら自分でマスターしていったとか、日課とかス ケジュールはカレンダーで管理したり、家族に会えて伝えて、家族からも声かけをしてスケジュール をこなしてらっしゃるとか、いろいろやってらっしゃることに気づきました。

本人は無意識にやっているから気づかなかった。周りも、長田さんって、支障なく暮らしておられるよねっていうところで、あまり気づかなかったのが、具体的にいろいろな話が出て、日常生活がみえてきたなかで、それは発見できた。

長田さんに興味を持つというか、どんな生活をされていらっしゃるんだろうっていう、そういうことを 知りたいっていう好奇心だったり、そういうことでしょうか。知りたいなって、そういえばどんなふうに生 活されているのか、お料理って、本人つくられているっていうけれど、どんなふうにやっておられるの かとか、そういう興味を持つことでいろいろみえてきたかなと。

<奥村綾子さん: バリアフリーシートでは他の人にも役立つ>

ご本人にとっての工夫とか、悩みをかかえているほかの認知症の本人の方にも参考になるでしょうし、本人ミーティングの中で、他の参加者にそういう形で広まっていくし、私たちもそれを知ることで、他の相談をされている方に、そんなお話ができたら、より広がっていくのかなと思います。

皆さん今まで出来ていたことがだんだんできなくなる、そういうところが工夫をするタイミングだと思うんですよね。工夫するために何が必要か、どんな工夫をすればいいのか、というところで、人それぞれの生活だったり、できる能力だったり、そこで違ってくるので、そういう色々な情報の中から選べるってことなのかなと思うんですね。

答えは一つではないので、他の人から得られたいろんな情報の中から、自分が一番やりやすい方法が選べるメリットがあるかなと。メモーつにしても、カレンダーで書く方もあれば、ノートを作られている方もあれば、日記に簡単な行動記録として、それを振り返りながら参考にされている方とか。 先日も本人ミーティングの中で、物忘れがひどくなって困ってるんだよ、みんな、どうしているのみたいなお話をされた方がいて、そしたらみなさん、色々な自分の工夫されていることを出していただいたんですが、それぞれ、その中で自分にあう役割を選べるのかなと思います。



酒井 清子さん

<酒井清子さん:本人への目線>

これまでも、本人の視点で考える、とか本人の声を聞くというところが、私たちの仕事は、支援をする仕事なので、支援者目線になってしまう。そんなつもりはなくても支援者の考えが先行してしまう、それが本人のためみたいなことをずっと繰り返したりすることも多かったので、そうではなくて、やはり本人の視点に立つ、もし私だったら、と、本人にとっての良い暮らしを考える、そういうところを一所懸命、ぶれないように、一人一人の職員が、ここでは支援という言葉になるんですが、支援ができるようにということを続けてきた。本人の声を聞く時にやっぱり本人が言った通りの言葉をちゃんと書き込めるとか、これはケアプランもそうですが、自分の言葉で置き換えない、本人がお話しした通り、ということを常々みんなで気をつけていることでしょうか。

本人ミーティングであったり、事例検討会もしますが、そこで出てくる言葉、本人の言葉っていうのを、関係者できちんと焦点を当てて考えるっていうところでしょうか。これって、本当に本人の言葉っていうようなことを常々問い返したりとか、本人の言葉を拾ってということをずっと続けていると、これって本人の言葉じゃなくて職員が自分の言葉に変えているんじゃないか、っていう風に、お互いに気がつけるようになるんでしょうかね。

<本人ミーティングの場でパリアフリーシートを活用>

今回は、本人ミーティングの場でバリアフリーシートを活用してということでやっていますけれども本人ミーティングは今4年目になります。地域の方々と一緒に、アクションミーティングから始めて、本人ミーティングを9包括でやっていますが、それぞれが地域の特性にあわせて今年4年目ですが、それぐらい時間がかかって、何度も何度も実践していることを、お互いに確かめて、実践して振り返って、ということを繰り返してきたきがします。

地域の方々と、アクションミーティングから一緒なんですが、最初は、本人ミーティングってどんなものなのか、というところだったんですけど、本人同士が自分の言葉で語り合える場所だってことに、回を重ねて、時間をかけて、地域のみなさんも一緒に気が付けていただけていますし、または地域の方の力というのがものすごくあるので、地域の中の居場所であったり、力を活用するとかそういったことを教えて頂けている、そういう変化もあります。自分たちのこととして、認知症の人が特別っていうことではなく、自分事として考える地域の方々が自ら行動をおこしてくださっているということが増えている気がします。例えば地域包括支援センターの職員が、本人ミーティングの場をつくったりしますが、そこから先、地域の中で本人ミーティングを育てていくとかは、地域の方の力だと思います。

バリアフリーの取り組みであったり、本人ミーティングであったり、本人の発する言葉を大事にして、 それがきっかけになって取り組みにつながったり、地域に広がったりということができるかな、と。そう いう風に少しずつなっているかなという風にも思いました。

(5)標茶町



西内 美都江さん

く西内美都江さん: パリアフリーシートについて>

最初、お話をいただいたときは、シートを一人も使っていなくって、研修の時に頂いたまま、引き出 しにしまったままだったので、お話をいただいて、二人の方にシートを活用というか、作成をして、そ の中で気付けたことも沢山あったので、いいきっかけにはなったかと思います。

楽しみの継続とか、交流の継続とか、ご本人にとっての社会性を維持していくためにどういうことが 必要なのかということを考えるきっかけになったので、ご本人の言葉を起点に、何がバリアかってい うのを考えたり、いっしょに共有をして整理をしてっていう作業をこのシートを使いながら個別に取り組んでいくっていうのは、すごくいいなという風に思いました。

どんなことをしてみたいですか、どんなことだったら外に出て活動できそうですかっていうふうに聞いた時に、初めてその方から、小中高とサッカーをやってたんだよね、ということを聞けたんですよね。今までの私たちのアセスメントとかだと、聞けても、既往歴とか、職業歴だったり、家族歴だったりっていうことで、ご本人が楽しみにこれまでされてたこととかっていうのはなかなか、聞くっていうことに至らなかったので、シートの中で、楽しみなことをとかご本人ができていることを中心に聞いていくような、まずそのシートの中身だったのでそのとおりと言うか聞いていくと、自然とその面談の場がポジティブな部分につながっていけるような、なんかすごくニコニコして、ワクワクしていて、今まで見たことない表情で、こんな表情する方なんだなあとか。今まで、困ってることは何ですか、何が出来なくってどんなサービスが必要ですかっていうことを聞くという感じだったのが、なんかすごくご本人の表情が違ってたのでびっくりしました。あの、お伺いしたいんですけどって言うと、いつもどうぞと言われるけれど、その時は本当に、もうどうぞどうぞー、と楽しい話が出来ると思ってくれてるのかもわからない。

あまり、本人の方を認知症の方とか支援をされる方っていう風にみないほうがいいなっていうふうに思って。こちらは支援する側、あなたは支援される側っていう最初のスタートラインを取っ払うと、 自然と聞き方とか接し方が変わるなあという風に思いました。

最初このシートをワークショップ拝見させて頂いた時に、なんだこのザックリした様式は、と言うのが 正直な第一印象だったんですが、ざっくりと、項目がこまごまとわかれていない方が、ご本人たちの 言葉をそのまま、セリフをそのまま書けたりとか、自由に言葉を入れやすかったというのと、写真とか 入れた方がわかりやすいと言うか、共有しやすいっていう部分があったのでざっくりにも、いい部分 があるんだなと思いました。

今までのこの2年、3年って何だったんだろう、これじゃできないことばっかり私知ってるけど、こう やって頑張って努力してることとか、家族に迷惑かけないように工夫していることとか、知るというこ とを、これからはその方と会った時には一番最初にしたいなっていう風に思いました。

(ケアプランに与える影響は)あると思います。まだ実際、この方達のケアプランの更新時期を迎えていないので、実際に作り変えてはいないんですけど、更新の時には明らかに最初の文言から絶対違ってくるなっていうのは実感としてあります。ケアマネージャーにもこのシートを使ってとまでは言わないですけど、こういう標茶町でもワークショップとかできたらいいのかなと思いました。

(6)厚岸町



左: 布施 友美さん 右: 谷内 健さん

く布施 友美さん:パリアフリーシートについて>

この度はお声かけていただいて、本当はバリアフリーシートってなんだろうとは思ってたんですけれども、ワークショップに参加をしてみて確かにバリアフリーってよくある障害者、身体の悪い障害者向けだったのが、認知症って人のバリアフリーももちろん大切な世の中だし、生きやすさにもなってくるかなって感じました。

私たち行政職員って、何となく支援してあげる、お手伝いしてあげるっていう感覚だったんですが、本人の声を聞いていなかったなっていうちょっと反省もありました。 私達支援側が思っていることで支援を進めちゃってるところが多かったので、本人はやっぱりどうしていきたいのかどう生活していきたいのか何が楽しみなのか、私たちの視点が、専門職ながら抜けてしまっていたっていうところが、ちょっと言い訳かも、日々の忙しさにもちょっと流されてたところもあるかなと思って、反省させられたところもありました。

く谷内 健さん>

若年性認知症の方と携わることができた時に、このバリアフリーシートに当てはめていく時に、この方のことを知るにはもっと、本人の状況とか生活、家族の話をもっと深く聞いた上でこちらのバリアフリーシートの方に入れていけば、もっとこの方らしい生活、地域で生活ができて、なおかつ私たちも関わることができるのかなっていう風に感じました。やはり、うわべだけで認知症、私どもの知識の中で関わるのではなくて、最初っから認知症っていう色眼鏡で行くのではなくて、普通に元気な顔を見に来たよっていう、地域の方達と関わる上で、元気な顔をみに来ました、この地区で、僕たち包括センターの職員が皆さんに会いに来ました、そういう気持ちで回を重ねて、最初から認知症のことで困っていることありませんかとかではなくて、普通のコミュニケーションをとりたいとか、みなさんどのような生活しているのかな、どのような苦労をされているのかを聞き出すためにさりげなく訪問したというような形です。

何がバリアなのか、その方のバリアとかではなく、我々がバリアを張ってるから、その方が 生活しづらいんじゃないかなって。

<布施 友美さん>

(シートの活用について)専門職向けではなく、もちろん専門職もですけれども、一般の方たち、家族だったりお子さんだったり。専門職は専門職でも包括支援センターの職種以外、資格を取得する場面で、これも取り入れたら広まるのではないかなって思いました。

く谷内 健さん>

その人のことを全部分かってから、ある程度分かってからこちらの方に落として、どういうふうに、 そこから先その方と一緒に地域で暮らしていくかっていうものなのかなと感じました。

く布施 友美さん>

基本はやっぱり、本人の目線で本人の言葉をよく聞かなきゃなと。

く谷内 健さん>

専門職のこの四角四面のバリアを、そうじゃないんだよ、と。対人延長的な部分での普通のコミュニケーションの中から支援って生まれてくるんだよっていうことを、少しでもね専門職、もちろん自分もそうなんですけど、こういう場面で勉強していきたいなと思います。

(7)釧路市・釧路町



左から、岡田 遥さん(釧路町)、玉木 祐次さん(釧路市ケアプランセンターまこと)、 宮嶋 奈津子さん(釧路市西部包括)、松井 佐恵さん(釧路市東部北地域包括)

く宮嶋 奈津子さん:ワークショップに参加してみて>

ワークショップはやっぱり地域で実際にケアマネされてる方とか、介護されてるご家族さんだとか ご本人さんに近い立場の方たちから具体的な話を聞くことができたので。皆さんの話をお伺いして、 とても貴重な時間を過ごさせていただけました。

く松井 佐恵さん>

今の立場だとあんまり深く利用者さんと関わることがなくて、ある程度めどがついたら誰かにお願いしてっていうところなので。ただ、何にも繋がらない人、色々してるけれど、なかなか繋がらないという人がいて、そういう人にはすごい有効なんだろうなあとは思いました。

<岡田 遥さん:本人の声を起点に考えるということ>

私は釧路町の役場の人間でもあるんですが、いろんな事業の展開をするのに、計画立てるときにも町民の方の声とかききながら、事業組みをするので、認知症の人に対しても、当たり前の事だよなと思いながら、地域包括支援センターの業務として、認知症の家族さんが困ってるとか、本人さんも困ってるとかって言うのであれば、認知症ということを抜きにして、その人がどういう生活をしていて、何に困っているのか、どうしたらいいのか、っていう風には、アセスメントは普通にするんですが、認知症ってこともふまえると、あまり難しいこととか、なんか専門の用語とか使ってもわかんないのでかみ砕いて、かみ砕いて、お話しするようなこととか、同じ話をされたり同じ事を聞かれるのでその都度、わかりやすくお話する、ってことは心がけています。

<玉木 祐次さん:本人は「困っていること」はないよと言う>

認知症の方って、色々できてないことというのがあって、それは結局家族さんから、こうきて、本人に確認するときに、本人は「別に困ってない」っていうんですよね。だからたぶん、本人が最初はいらないって言ってたけど、実際行ってみてそこが生活の基盤になるんだったら、それは本人が望むことだったのかなというふうに思ったりする。

く宮嶋 奈津子さん:本人の思いと家族の気もちのずれが生じている>

私がご本人さんの話を引き出したくても、周りにいるご家族さんがそれを遮って話すということは、 とってもよく多いことで、ご本人さんの生活歴とかその出生、どこでお生まれになって、どんな生活されてきたのかをきいてく中で、ご本人さんの充実してたときの事をたぶんご本人さんはすごく話してくれることが多いので、そのとき楽しかった事とか、人によってお仕事してた時期がやっぱり充実してたとか、幼少期が充実してたとか、楽しかったこと、どんなことが良かったのかっていうのをポイントで聞いてくようにするとわりと引き出すことはできるのかなと思います。

<岡田 遥さん:本人が前向きに話してくれる>

よくニコニコしているんですよね。人が来てくれて、嬉しいみたいな感じでお話をしてくれるので、い ろんなことはききやすい。今までどういう生活してたの、とか、今どんな生活なの、とか、周りに仲い い人がいるの、とかいろいろと。

く玉木 祐次さん:地域包括支援センターからの情報は役に立つ>

とびこみで、いきなり、本人と初、というのはないですよ。地域包括さんとか会っていると、紹介いただくまでにそんな道のりがあるんだな、と。ある程度、信頼をつかんだ方から、ぼくらは紹介を受けているんで。(地域包括支援センターからの情報は役に立ちますか?)役に立ちます。

<岡田 遥さん:シートを埋めようとすると話が深堀りできない>

シートを使ってみたんですけど、なかなかこれを埋めようとすると、話が深堀りできなかったり、バリアって何、みたいになって、どうやって聞けばいいのかなって、つまづいたりします。

こういうことで楽しみなんだろうな、みたいな感じで、想像していたことと、実際本人から聞いてみることだと、やはり情報を把握してないことをぽろりと言ってくれるので、私が知らない、本人の一面をみた、って感じで、本人さんとすこし仲良くなれたかな、って。

本人さんの、見る視点は増えるので、どんどん、今までこういうアプローチの仕方しかなかったけれど、こういうふうにやってみたらどうだろう、というのは、こっちとしてもつながるかな、と。

困っていることをきくよりは、やはり表情は明るいので、何か話はしやすいなって。

<松井 佐恵さん>

やっぱりご家族が心配して、いいから、行くんじゃない、みたいなこととか、やっぱり人間関係がバリアになっちゃうってのもあるんだなって。

<宮嶋 奈津子さん>

高齢者に求めるものが、介護保険では多くて清潔でなくちゃならない、食事食べなきゃいけない、 お薬をのまなきゃいけない、他者と交流しなくちゃいけない、外に出なくちゃいけない、これってすごく しんどいことだと思うんですよね。私だったら、ほっといてほしいし、別に、いつ何時になにを食べた かって、なんであなたに教えなきゃいけないの、って思うくくらいだと思うんですよね。本人幸せそうだ ったら別によくない、って思うことが結構あって、一回自分に当てはめてちょっと考えてみると作りや すいかな、って気はします。 支援する側が、支援者のための支援になってないかどうかの振り返りにもきっと使えるもので、本 人さんのやりたいこと、全然プランに反映してないなって、これやったら気づいてくれる人は多分たく さんいらっしゃって、やらないよりやった方が絶対いいと思います。

<松井 佐恵さん>

地域でこれからも生活してきたいんだみたいな、そういう人に対してやっぱりいいのかなって。外に出て困ることの前に、家の中で困ってることって、結構いっぱいあって、そこに対してまず。家の中には小さなバリアがたくさんあって、家の中じゃない。そういうのからちょっとずつ拾っていけたら、外に出る前のバリアが防げるのかなみたいな風に思いました。

く玉木 祐次さん>

今けっこう、認知症に対する意識、脳トレを自主的にやったりとか、認知症がないように、という傾向があるから、本当に、さっきおっしゃったように、認知症になる前に、そういうなにか準備というのをさせてから、認知症になれば、ちょっと違うのかなって。その人がある程度、自分で、認知症になると心配だ、というので、結構、準備ふんだ時って、またちょっと今と違うんじゃないかな。

<岡田 遥さん:シートを埋めようとすると話が深堀りできない>

なにか、これ(シート)って、認知症の人だけじゃなくてもいいんじゃないのかなと思っちゃって、私、認知症じゃない人にもきいてたんですが、そもそも認知症じゃない、というのできている人たちにきいてたんですが、なにか認知症特化じゃなくて、今後の本人さんの生活を考えるうえで、必要な視点ではあるので、一覧表じゃないけれど、猫目式でもいいんじゃないかと思いますし、こういう視点が大事だよ、みたいなポイントを箇条書きに書いてるものでも、全然なんでもいいのじゃないか、と正直思ったところです。

(8)白糠町



左: 林 千恵実さん 右: 小松 望さん

<小松 望さん: バリアフリーシートを見て思ったこと>

シートを使うと、きっと本人さんの理解に繋がるんだろうなと思ったんですけど、はたしてうちの町でどういう方に使ったらいいのかとか、自分自身がどういう引き出しを持って、インタビューというか、聞き取りすればいいのかなとか、そういう勉強が必要かなって、思ってました。

本人さんの考えとか、そういうものを大事にするっていうのは、どこにいても 一緒だと思うんですけれども、それを実際の活動にしてくるって言うと、まだまだ勉強が必要だなと。

(ワークショップに参加してみて)あの時は、グループワークでいろんなまちの、、こういう風にやったよという話しだったので、参考になったし、グループワークの前の講義も、やっぱりこういう風に使うんだなぁという、なんとなくのイメージは、できたかなと。

く林 千恵実さん:ワークシートは役立つと思うか>

すごく役立つと思います。おひとりのためにやることなんだけど、最終的には他の高齢者だとか、 認知症じゃない方に対しても、伝わってひろがっていくところはすごくいいな、と思うんですけど、目の つけどころっていうところに繋がる、シートを作るところまでっていうのがちょっとハードルが高いなっ て思ってます。

ご本人の視点というか、中心にするっていうところは今までも変わらないんですけども、ただ認知症の方となった時に、どこまで本人の声を聞いてたかなって振り返ったら、周囲で支援を検討したりというところが多かったので、今回そこは改めて考えさせられるところだと思います。

<小松 望さん>

事例検討じゃないんですけど、みんなで集まってとか、シートの学習会とかがあると、もうちょっと 実感ができるかなっていう風に話してました。

<林 千恵実さん>

共通で、この人、いいんじゃないかなっていう、今まさにちょっと認知症の診断を受けて、すこしず つ生活に支障が出てきてるんだけども、認知症カフェに顔を出されたりとかということをされているの でその方がいいかもね と話していた。きっとその人だけじゃなくて、この間の事例でいくとご自身は 続けたい事あるけど別に今のところ 困ってないっていう方がいたと思うんですけど、そういう方に対しても使えるシートなんだと思う。そのへんがうまく日常の中にいれていくのが難しいというか、おっしゃったみたいに、日頃、メモみたいにして、残していくっていう習慣ができれば、今後もずっと支援で つながっている間でだんだん埋まっていったり、一部修正とかしながら共有できるのかなと、今聞いて思いました。

(9)鳥取市



金谷 佳寿子さん

く金谷 佳寿子さん: A さんのパリアフリーシートを作成して>

70歳の女性の方です。理髪店をもともとしていらっしゃって、認知症になられてからも、理髪店を 続けておられます。

(本人なりに工夫していること)

その方は、理容師さんなので立ち仕事じゃないですか。なので足腰を元気にしないといけないなっていうのもあって、お散歩をしておられるそうなんですけど、お散歩の時にもしている工夫、何かありますって聞くと、「携帯をもっている」というから、じゃあ、いつでもなにかあったときに電話できる用ですよね、という話をしたら、「え、違うのよ」って言われるから、なんで、ときいたら、「いつお客さんから電話がかかってもいいように」って言われて。やっぱりお客さんを大事にされてるんだなっていうのが伝わってきました。

自分がやってることが自分はやりたいと思うためにやるから、苦労だと思ってないし、すごい特別なことだとも思っていない。一部だから。流れというか、そうすることで、自分がいい感じなってくるけれど、それができなくて悩んだりとか不安になってる人とかもいらっしゃるんだよっていって、こうやって私はしているよと伝えてくださるだけで全然違うと思いますよ、元気がでるって人がいるよ、っていうと、「え、そうなの」みたいな。自分が、すごくないって、思ってるのがあって、すごいんだよっていうことを伝えてあげんといけんかなって気がするんですよ。それだけですごい。存在自体というか、がんばっている姿がなんかすごいことなんだよって言うのを。(まさしく希望大使もそういうこと)

いろいろ工夫しておられて、すごいなあって。常連さんだと、認知症であるということを話しておられて、しかも今はマスクじゃないですか。だから、きっと私だったらもしかしたらお化粧しなくなるかなと思うんですよ、常連さんしか来ないってわかったら。顔も半分みえないから、いいかなって感じだと思うんですけど、その方は常連さんだっていっても、やっぱり綺麗にしとかんと駄目という、そういう手を抜かないっていうのも、すごいなあって。 お化粧もして、立ち居振る舞いもいいというか、お話し

ているときも、椅子にこう手をかけて、なんていうか、所作がすごくきれい。やはり人の前にでて、話 したりするのって、すごく見られているってのがあるというか、すごくきれい。

私が反省したのは、お仕事が、休みがちょっと違うじゃないですか、私たちと。昨日は土曜日で研修だったんですけど、研修の合間に昼休憩にちょっとお話したくて電話しちゃったんですが、仕事中だから、って、ああ、そうだ、お仕事を大事に大事にされているのに、邪魔しちゃったき、悪かったなあと思って。それだけプライドをもって。お母さんに怒られたわけじゃないですけど、営業妨害ですよね。まあそうだよね、お客さんが来ておられたかもしれないし、これから来られるために準備しておられたかもしれんし、分かんないですからね。なんか申し訳なかったなあと。私達とちがう種類の仕事をされているから、そこも理解しないといけなかったなと、ちょっと反省。

(バリアフリーシートにかかわった本人について)

ずいぶん前から、20 年ぐらい前かな、ずっとソフトボールをしとられて、週に 2 回練習に通っとられるそうですね。ソフトボールに通うために友達に迎えに来てもらってるんですけど、もともとタクシーの運転手さんだったみたいで、すごく車乗って得意だったんですって。だけど認知症になられてから、やっぱり家族と話す中でね、やっぱり危ないからっていうことでやめようかなって。家族にも言われるし、やめようかなって、返納するっていう選択を取られた、だからソフトボールには行けないと思ってたんだけど、たまたまその人の家の近くを通って、その球場に行くお友達がいらっしゃるからってことでその人が迎えに来てくれているって言う事でした。ソフトボールをするのに、やっぱり足腰を鍛えないといけないっていうことで、家の周りを散歩をしておられる、やっぱりお家にいるときより、いきいきされておられるって、やっぱり風がすごい気持ちよかったりとか、お孫さんが通ってる学校が見えるから、あそこで勉強してるんかなあとか考えてながら、歩いてるって言っておっしゃってました。でも本人さんがやりたいっていう思いを周りの人が知ってくださってるからだよね、と話を言ったら、すごく友達が多いのが恵まれている、って、友達が多いのが自分の自慢だし、散歩しててもすごく声をかけてくれるって、だから自分も安心だし多分奥さんも安心なんでしょうね。周りの人に、自分は、夫は、認知症だって、言っているんですって。だから声をかけてくださるし、自分がみはってなくても、近所の人が見ててくれるって言うだけでも。

(これからの本人の活躍を考えてみる)

タクシーの運転手さんをしておられたから、きっとタクシーのサブスクを認知症の人たちが高齢者の人達ができないかなと思っていて、タクシー会社に提案しようと思っていたところなんですよ。ちょっとまって、タクシーの運転手さんだったの、って。タクシー側にとっても、よくないといけないから、タクシーの運転手さんをしていたあなたが、こんなふうだったらできるんじゃない、って思い付いたら教えて一、って。

(本人の工夫を共有して見えてくるケアプラン)

このシートを使うことによって、それなりに本人さんが自分の中で工夫してやり続けてることがやっぱりたくさんあって、そういうのをねもっと私たちが知ることで、できなかったことだとか、そんなふうにやっておられる、それいいねって他の人にも転用してほしいし、こんな風にしてる人がいるよーとか。だけどここまで自分で頑張ったけど、ここから先がまだできないところがあるんだ、とかだったら、そこを介護保険なり、ケアプランの中で、じゃあここができるためには、自分の工夫だけではできないかもしれないけれど、こんなのはどう、とケアマネさんが考えてくれるとすごいいいプランになるな、って。

色々わかってくるとなんかちょっとワクワクすると言うか、その人がしておられる工夫が、ちょっとやりにくくなったときに、次の新しい工夫を一緒に考えてあげるほうがいいのかなって。可能性がみえてくるというか、ケアプランを使っても、この人らしくいけるような何かきっかけになるかもしれないなって、これをケアマネさんが見ることで、なんか変わるかもしれん、可能性がみえたというか、そんな気はしました。最初はあんまり思わんかったんですけどね。

したいことがあるけ、バリアに感じるんだって、やっぱりそんだけしたいことを持ち続けるって、なかなかない、できにくいじゃないですか、今働くために、とか、野球やるために、って自分のやりたいことのためにできていることって、すごいな一って、羨ましいなって、すごい思えてきていて、そのためにどうやったらできるかを考えたりとか、すごいな一って。ぜひこれからももっとそれが続くように、なんかできたらいいなと思ったり、私もそういったことを作りたいな一って逆に思う。

(10) 大分県



左から、安部 志織さん, 荒金 理恵さん、吉川 浩之さん

く安部 志織さん:県として取り組んだきっかけ>

国の大綱の中に入っているとのも大きかったんですけど、国の大綱に入っているので、県としてす すめないといけないなっていうのを感じていたので、そこでお話をいただいて、あまり大分県として取 りくんでいたことではなかったので、今回せっかくなので、ワーキンググループの方と一緒に出来た らなって思いはありました。

(デイサービスとともに)

バリアフリーシートで認知症のご本人さんのご意見をきくというところが一番大きかったと思うので、なでしこガーデンデイサービスさん(吉川さん)が普段から取り組まれてますし、このバリアフリーに関して、思いが共通してるところがあるなっていうのは感じていたので、ぜひ吉川さんと一緒に、というところで声かけさせて頂きました。

(ワークショップの様子)

大分県でワークショップした時は、なでしこさんの方に協力いただいて、当事者の方3人に入っていただいて、ご本人さんにもバリアフリーシートを作ったものを、本人さんの口から発表いただくっていうところは、他県さんとちがったところだったのかなと思ってるんですけど、本人さんからの話を聞いて、自分たち支援者がバリアと思ってたところが実はそうじゃなかったりとか、良かれと思ってやってたことが実は本人さんのできることを妨げる、じゃないんですけど、そういうふうな形になってたっていうところを、実際に話を聞いて気づかれていたので、ここはすごく、今回ワークショップとして大きな成果だなと言うか、学んでいただきたかったことを、理解してもらえたなというのは思います。

(ワークショップの成果)

行政の方とか地域包括支援センターの方とか、認知症地域支援推進さんが参加してくださってたんですけど、皆さん、感想の中で、必ずと言っていいほど、やっぱり本人の意見を聞いていかないといけないなっていうのを感じて頂いてたので、そういう事考えるきっかけの一つとして大きかったんじゃないかなっていうのは思います。

く荒金 梨恵さん(認知症地域支援推進員):ワークショップに参加した感想>

研修会とかっていうのにあまり参加をしたことがなかったんですね。ただ本当に、参加することで、 現場だったら、なんかもう、体が動いちゃうと言うか、支援するのに体が動いちゃうんですけど、こん な風にちゃんと順序立てて、今までの自分の動き方って、支援の仕方がちょっと学べたなと言うか、 そういう風に動いてなかった自分がわかったというのと、本当に県がすごく今頑張ってくれてるなって いうのが私達こっちの側にも伝わってくるので、そしてなでしこさんが大分市にあるっていうことで、 やっぱりこういう風な本人さんと、当事者の方と接する機会も多いので、もうちょっと改めて私もなん とか力になれたらなっていうふうに思っています。

く吉川 浩之さん:行政や推進員とともに>

本人ミーティングやピアサポートの委託事業宅もやってますけど、本人ミーティングって、任意といえば任意というか、いろんな形があるじゃないですか、カフェみたいな感じのあれなんだけども、行政が必ず来てくれて、推進員が来てくれて、一緒にやってる感はありますね。たとえば今日、休みじゃないですか。ここ、こうやって来てくれるだけで、なんかいいですね。市もたまに本人ミーティングに来てくれるし、全部必ず本人ミーティングにも県は皆勤で来てくれるし。しょっちゅう来ますね。いろんな研修とか、アセスメントとか色んな研修やるときに、誰誰さんどうかなとか、誰誰さんにも手伝ってもらえないかなって、当事者の人とか話す時も、もうイメージできてるんですよね。うちの利用者、いわゆる当事者の人たちを知ってるし、向こうも安部さん(県庁職員)っていう、あれ安部さんね、って感じで知ってるレベルなので、イメージしやすい。今日なんか、一緒に昼飯食べてるっていう、戸上さん、はい、おにぎり、って渡している。

(バリアフリーシートに取り組んだきっかけ)

安部さんからお話をいただいて、バリアフリーの研修をされるってことで。6、7年前から、大分大学で理工学部とか経済学部の人に、認知症の話をしてくれ、って、何で理工学部とか経済学部とかなんですかって言ったら、ユニバーサルデザインを学ぶ人たちに話してくれって言われて話すようになってから、すごくユニバーサルデザインとかバリアフリーとかをよく考えるようになって、認知症の世界で何がバリアか、とか、そもそもバリアが良いものか悪いものなのかって、そういうのを考えるようになったんで、興味があったんで、すぐ受けます、「はい」って、言った。

(やりたいことがあるからこそのバリア)

バリアっていうのは、人によって全然違う。何がバリアなのかは。何かしたいから、何か障壁があって、できない。ってことはバリアがあるって事は、やりたい事があるっていうのの裏返しではないか、と思ってるんで、バリアがあるって聞いたら、何がしたいんだろうっていうことがね、探る。だから、決してバリアが悪いもんではなくて、バリア、イコール、この人には何か意欲があるんだって。病気とか認知症の部分とか、認知症の症状とか、その病気とかをバリアにしにくい作りになってるな、とか、だから、とか記憶障害があるからとか見当識障害があるからとか言うのではなくて、もっと違う、本人の思いがあって、これをしたいのにじゃあこれをどうしようといって、病気にも入ってかないような仕組のシートになってるな、っていう気はしましたね。

(バリアフリーシートを使ってみて)

シートなんですけど、良いと思った点が、普通のアセスメントシートとかって情報シートとかって、おしなべて書いてあるじゃないですか。これは、本人のライフスタイルとか、すごくリアルに臨場感あふれて出てきていて、それが聞く人に分かりやすい。ケアプランにも引っ付けて、担当者会議の時に、ケアプランにバリアフリーシートをつけたら、すごくわかりやすいですよね。

(バリアの発見をゴールにしない)

バリアを最後にもっていかないのが、せっかく、ここまでいったら、バリアをなくすことで、どんな地域っていうの、なにかゴールにもっていける、一つ細工があるとすごく地域が、が一っといくのかなと思って。またバリアは違う種類であっても、そのバリアをゴールにしないで、バリアがいっぱいあることによって、目立つところが一緒になる可能性あるんで、ここが違うバリアであってもゴールが同じところへ向かえる可能性って非常に高いかなと思って。

参考資料

認知症バリアフリー全国調査 調査票

1)都道府県用

認知症バリアフリー・本人参画 全国調査 【都道府県用】						
貴自	1治体(の概要をご記入ください(令和4年1月1日	時点、あるいは直近の状況)			
			回答欄			
	1	都道府県名				
	2	認知症施策担当部署名(主となる部署)				
×Γ	設問1 都道府県事業として、認知症バリアフリーに関連した事業(※)の取組状況について伺います。 ※「認知症施策推進大綱(令和元年6月18日、認知症施策推進関係閣僚会議)」に示された「認知症のバリ フリーの推進に関連した取組」					
	複数回	答:下記の選択肢で、該当する場合は数字の	の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入	回答欄		
	1	都道府県として、管内全体を対象とした事業を	行っている。			
	2	都道府県として、管内の一部の市町村等を対象	東とした事業を行っている。			
	3	都道府県として、管内の一部の市町村と共同事	事業を行っている。			
		都道府県として、管内の市町村を対象とした支 る。	援事業や取組(会議開催等を含む)を行ってい			
	5	その他				
	6	直轄した事業、支援事業は行っていない。				
		本設問の選択肢「1」~「5」に該当した方 へ:右欄に既存の事業名を教えてください				
	設問2 貴都道府県では、自地域に住んでいる認知症の人の日ごろの暮らしの様子について、認知症施策 ご担当者が情報を得る機会がありますか。					
	複数回	答:下記の選択肢で、該当する場合は数字の	の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入	回答欄		
	1	担当課(者)が、 認知症の本人から、直接話を *右の回答欄に「1」を記入した方へ:どのような				
	'					
	2	担当課(者)が、 管内市町村を通じて、情報を *右の回答欄に「1」を記入した方へ:どのような				
		担当課(者)が、認知症地域支援推進員を通し	* * 			
	3	*右の回答欄に「1」を記入した方へ:どのような				
	4	担当課(者)が、 若年性認知症支援コーディネ				
		* 右の回答欄に「1」を記入した方へ: どのような	は場か具体的に教えてください(下欄へ)			
	5	担当課(者)が、 認知症の当事者団体・グルー *右の回答欄に「1」を記入した方へ:どのような				
	3					
		担当課(者)が、 認知症疾患医療センターや 医	療機関・団体を通じて、情報を得る 機会があ			
	6	る。 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:どのような	よ場か具体的に教えてください(下欄へ)			
	J					

	担当課(者)が、介護サービス、福祉サービス事業者団体等を通じて、情報を得る機会が	
_	ある。	
7	* 右の回答欄に「1」を記入した方へ:どのような場か具体的に教えてください(下欄へ)	
8	担当課(者)が、行政内の他部署(認知症担当外の部署)から情報を得る機会がある。	
9	担当課(者)が、 地域の企業や商業施設等(交通・金融・流通・生活関連等)から情報を得る 機会がある。	
	その他 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:内容を具体的に教えてください(下欄へ)	
10		
11	話を聞いたり、情報を得る機会は無い。	
3 【	設問2で選択肢「11」以外に該当した方へ】貴都道府県ではどのような情報を得るこ	とがありまし
複数回	3答 :下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入	回答欄
1	スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物等に関する本人の困りごとや要望	
2	スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物等に関する本人の工夫	
3	バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する際の本人の困りごとや要望	
4	バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する際の本人の工夫	
5	銀行や郵便局などの窓口やATMを利用する際の本人の困りごとや要望	
6	銀行や郵便局などの窓口やATMを利用する際の本人の工夫	
7	 外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の困りごとや要望	
8	 外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の工夫	
9	 住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の困りごとや要望	
10		
11	日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の困りごとや要望	
12	日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の工夫	
13	行政サービスの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する本人の困りごとや要望	
10	その他、日々の暮らしの中の本人の困りごとや要望 * 右の回答欄に「1」を記入した方へ:内容を具体的に教えてください(下欄へ)	
14	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	その他、日々の暮らしの中の本人の工夫	
15	* 右の回答欄に「1」を記入した方へ: 内容を具体的に教えてください(下欄へ)	
4 貴	 都道府県では、以下に関する本人の希望をきいたことがありますか。	
複数[③答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入	回答欄
1	本人が行きたいところややりたいことについての、本人の希望	
2	地域の中での集まりや楽しみについての、本人の希望	
	15 W	
3	就労についての、本人の希望	

1 ある。 2 現在はないが、今後の計画や展開を検討する必要性を感じる。 3 取組は無いが、関連する担当部署や管内市町村等に、情報提供(共有)を行っている。 4 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 1 活かしては、な人の暮らしの様子に関して得られた情報を、介護保険事業支援計画等いますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 2 活かしてはいない。 1 活かしてはいない。 1 ある。 2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 本設問で選択肢がら該当するものを一つ選び、数字を記入 「認知症が、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 本設問で選択肢で、認知症がリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 参考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「」、該当しない場合は数字の「の」を記入 都道府県の認知症施策を推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「」、該当しない場合は数字の「の」を記入 和道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 本、道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 本、道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。	答欄					
2 現在はないが、今後の計画や展開を検討する必要性を感じる。 3 取組は無いが、関連する担当部署や管内市町村等に、情報提供(共有)を行っている。 4 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ださい(右欄へ)		記入 回答欄)選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入			
3 取組は無いが、関連する担当部署や管内市町村等に、情報提供(共有)を行っている。 4 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 四名			ある。	1		
本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 1		込要性を感じる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	現在はないが、今後の計画や展開を検討する	2		
本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ)		村等に、情報提供(共有)を行っている。				
を具体的にご記入ください(右欄へ)			無い。	4		
下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 1 活かしている。 2 活かしてはいない。 37 貴都道府県では、本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、都道府県の他部署や関連機関、警察等)との連携による地域づくり事業等に活かす取組はありますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 1 ある。 2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 58 貴都道府県が、「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 考]「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答:下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 8 教道 中間の担当理(表)が原管する事業や即組が多く、本人の意見や力を活かすための事業						
1 活かしてはいない。 2 活かしてはいない。 2 活かしてはいない。 37 貴都道府県では、本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、都道府県の他部署や関連関、警察等)との連携による地域づくり事業等に活かす取組はありますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 1 ある。 2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ:内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 38 貴都道府県が、「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 表別「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 を数回答:下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 8 新道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 8 新道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。	りゅう かいまた かいまい かいまい かいまい かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かい	して得られた情報を、介護保険事業支援計画等に活				
1 活かしている。 2 活かしてはいない。 2 活かしてはいない。 37 貴都道府県では、本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、都道府県の他部署や関連関、警察等)との連携による地域づくり事業等に活かす取組はありますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 1 ある。 2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 58 貴都道府県が、「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 オ]「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 和道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。	 今欄	記入	己の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を	下記の		
2 活かしてはいない。 17 貴都道府県では、本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、都道府県の他部署や関連機関、警察等)との連携による地域づくり事業等に活かす取組はありますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 1 ある。 2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 18 貴都道府県が、「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 ま]「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 2 新道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。						
17						
選関、警察等)との連携による地域づくり事業等に活かす取組はありますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 1 ある。 2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 18 貴都道府県が、「認知症バリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 都道府県の初知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。						
1 ある。 2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 38 貴都道府県が、「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 和道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。		こ活かす取組はありますか。	、警察等)との連携による地域づくり事業等に	関、蓍		
2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 38 貴都道府県が、「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 和道庭県の担当理(者)が所管する事業や取組が多く、本人の意見や力を活かすための事業		記入				
3 無い。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 18 貴都道府県が、「認知症バリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 2 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。						
本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容を具体的にご記入ください(右欄へ) 18 貴都道府県が、「認知症パリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。 考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 2 新道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。		是供(共有)を行っている。				
を具体的にご記入ください(右欄へ) [18] 貴都道府県が、「認知症バリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、いることを教えてください。			無い。			
いることを教えてください。 考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 都道府県の担当理(考)が延管する事業や取組が多く、本人の意見や力を活かすための事業						
いることを教えてください。 考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示されています。 複数回答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 1 都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 都道府県の担当理(考)が延管する事業や取組が多く、本人の意見や力を活かすための事業						
和道府県の認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 和道府県の担当理(考)が所管する事業や取組が多く、本人の意見や力を活かすための事業		本人からの発信支援」が示されています。	ることを教えてください。 「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人	いるこ 考】「認		
都道府県の担当課(者)が所管する事業や取組が多く、本人の意見や力を活かすための事業			《四台:「 記り選択版 C、該ヨ9 る場合は数十0			
2 を実施する余裕がない。			都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点	1		
3 管内市町村において、認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての意識や優 先順位が低い、考え方の違いが大きい。		計が多く、本人の意見や力を活かすための事業	都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点 る。 都道府県の担当課(者)が所管する事業や取約	2		
本人の意見を聞く機会や場をつくっても、認知症の本人が集まらない、本人に知らせることが できない。			都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点 る。 都道府県の担当課(者)が所管する事業や取終 を実施する余裕がない。 管内市町村において、認知症の本人の意見を	2		
その他 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:内容を具体的に教えてください(下欄へ) 5		聞き施策に反映することについての意識や優	都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点る。 都道府県の担当課(者)が所管する事業や取続を実施する余裕がない。 管内市町村において、認知症の本人の意見を 先順位が低い、考え方の違いが大きい。 本人の意見を聞く機会や場をつくっても、認知!	2		
		聞き施策に反映することについての意識や優 立の本人が集まらない、本人に知らせることが	都道府県の認知症施策の全体方針に本人視点る。 都道府県の担当課(者)が所管する事業や取続を実施する余裕がない。 管内市町村において、認知症の本人の意見を 先順位が低い、考え方の違いが大きい。 本人の意見を聞く機会や場をつくっても、認知犯できない。 その他 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:「	2 3 4		

設問9 「認知症施策推進大綱」では、都道府県における「地域版認知症本人大使(希望大使)」の創設に言及しています。貴都道府県における大使の創設状況について教えてください。				
- [下記の)選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入	回答欄	
	1	既に創設している(今年度内の創設を含む)。		
	2	次年度(2022年度)創設予定で計画している。		
	3	時期は不確定だが、創設を具体的に計画している。		
	4	創設について、今後検討を行っていく。		
	5	検討や計画を行う予定はない。		
		本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 創設時期、大使の名称、人数等を教えてください (右欄へ)		
その	他、「	認知症パリアフリー」について、ご自由にご記入ください		
		設問は以上です。ご協力、ありがとうございました。		
	本フ	アイルは右欄のアドレスにご提出ください res01@jdwg.org		

2)市区町村用

認知症バリアフリー・本人参画 全国調査 【市区町村用】 貴自治体の概要をご記入ください(令和4年1月1日時点、あるいは直近の状況) 都道府県名 市区町村名 2 |地方公共団体コード ↓参照:総務省HP 3 http://www.soumu.go.jp/denshijiti/code.html |認知症施策担当部署名(主となる部署) |設問1 貴市区町村では、自地域に住んでいる認知症の人の日ごろの暮らしの様子について、行政担当者が 情報を得る機会がありますか。 **复数回答:**下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 回答欄 行政の担当課(者)、又は直営の地域包括支援センターが、**認知症の本人から、直接話を聞 く**機会がある。 |*右の回答欄に「1」を記入した方へ:「どのような場」か教えてください(下欄へ) 行政の担当課(者)又は直営の地域包括支援センターが、本人の家族や身近な人から、直 接話を聞く機会がある。 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:「どのような場」か教えてください(下欄へ) |行政の担当課(者)又は直営の地域包括支援センターが、自治会や民生委員、近隣住民の 3 |**方等から、直接話を聞く**機会がある。 管内の地域包括支援センターを通じて、情報を得る機会がある。 4 |管内の**介護サービス事業者を通じて、情報を得る**機会がある。 管内の医療機関(かかりつけ医)を通じて、情報を得る機会がある。 6 認知症地域支援推進員を通じて、情報を得る機会がある。 7 |**若年性認知症支援コーディネーターを通じて、情報を得る**機会がある。 8 行政内の他部署(認知症担当外の部署)から情報を得る機会がある。 |地域の企業や商業施設等(交通・金融・流通・生活関連等)から情報を得る機会がある。 10 定期的な調査をおこなっている。 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:「調査(事業)名、頻度、対象等」の概略を教えてください (下欄へ) 11 不定期な調査をおこなっている。 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:「調査(事業)名、頻度、対象等」の概略を教えてください (下欄へ) 12 その他 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:内容を具体的に教えてください(下欄へ) 13 14 話を聞いたり、情報を得る機会は無い。

設にか。		設問1で選択肢「14」以外に該当した方へ】	貴市区町村では、どのような情報を得る	ことがありま	した
	複数回	図答: 下記の選択肢で、該当する場合は数字の	「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入	回答欄	
	1	スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物質	等に関する本人の困りごとや要望		
	2	スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い物質	等に関する本人の工夫		
	3	バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する	祭の本人の困りごとや要望		
	4	バスや電車、タクシー等の交通機関を利用する	祭の本人の工夫		
	5	銀行や郵便局などの窓口やATMを利用する際の	D本人の困りごとや要望		
	6	銀行や郵便局などの窓口やATMを利用する際の	の本人の工夫		
	7	外食や出前(配食サービス含)など食事に関する	6本人の困りごとや要望		
	8	外食や出前(配食サービス含)など食事に関する	5本人の工夫		
	9	住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等	等)に関する本人の困りごとや要望		
	10	住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等	等)に関する本人の工夫		
	11	日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流な	どに関する本人の困りごとや要望		
	12	日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流な	だに関する本人の工夫		
	13	行政サービスの広報(チラシ、パンフレット、ホー	ムページ)に関する本人の困りごとや要望		
	14	その他、日々の暮らしの中の本人の困りごとや引 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:内容を具体			
	14				
	15	その他、日々の暮らしの中の本人の工夫 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:内容を具体	体的に教えてください(下欄へ)		
設問	月3 貴	市区町村では、以下に関する本人の希望	をきいたことがありますか。		1
	複数回	<mark>]答:</mark> 下記の選択肢で、該当する場合は数字の		回答欄	
	1	本人が行きたいところややりたいことについての 			
	2	地域の中での集まりや楽しみについての、本人の	の希望		
	3	就労についての、本人の希望			
	4	医療機関や介護サービスについての、本人の希	·望		
		t市区町村では、本人の暮らしの様子に関り 仕組みや取組がありますか。	して得られた情報を、本人や家族のより。	よい暮らしへ:	活か
	下記の	選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記	己入	回答欄	
	1	ある。			
	2	現在は無いが、仕組みづくりや取組の必要性を	感じる。		
	3	無い。			
		本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容 を具体的に教えてください(右欄へ)			
	-	t市区町村では、本人の暮らしの様子に関い かす取組がありますか。	して得られた情報をもとに、自地域の認知	印症施策や関	月連
	下記の)選択肢から該当するものを一つ選び、数字を言	2入	回答欄	
	1	ある。			
	2	取組は無いが、関連する担当部署等に情報提供	t(共有)を行っている。		
	3	無い。			
		本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容 を具体的に教えてください(右欄へ)			

|設問6 貴市区町村では、本人の暮らしの様子に関して得られた情報を、介護保険事業計画・高齢者福祉計 画策定に活かしていますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 回答欄 活かしている。 活かしてはいない。 2 |設問7 | 貴市区町村では、得られた情報を、行政の他部署や関連組織(交通機関、警察等)との連携による地 域づくり事業等に活かす取組はありますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 回答欄 ある。 1 2 取組は無いが、適宜、庁内や関連組織に情報提供(共有)を行っている。 3 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容 を具体的に教えてください(右欄へ) |設問8 貴市区町村では、「認知症施策推進大綱(令和元年6月18日、認知症施策推進関係閣僚会議)」で示 されている「認知症バリアフリー」の推進にもとづいたなんらかの取組を行っていますか。 下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入 回答欄 行っている。 1 現在は行っていないが、取組の必要性を感じる。 2 3 行っていない。 本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容 を具体的に教えてください(右欄へ) 設問9 貴市区町村が、「認知症バリアフリー」推進等において、本人視点の反映を行っていく上で、課題等、 感じていることを教えてください。 【参考】「認知症施策推進大綱」では、「認知症の人本人からの発信支援」が示され、市区町村は「認知症の人 本人の視点を認知症施策企画・立案や評価に反映するよう努める」とされています。 **複数回答**:下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入 回答欄 1 認知症施策の全体方針に本人視点の反映が示されていない、又は不明確である。 認知症の本人の意見を聞き施策に反映することについての、役所内の意識や優先順位が低 2 担当者が事業や取組でやることが多く、本人の意見や力を活かす余裕がない。 3 施策担当者が、自分の意見を発信する地元の本人に出会えていない、出会う場・機会がな 4 5 地元に住む本人には、自分の意見を言えるような人がいない。 認知症への先入観(旧い認知症観)が強く、本人の発信や参画が実現できるような状況では 6 ない。 7 機会や場をつくっても、認知症の本人が集まらない、本人に知らせることができない。 本人や家族からの相談時、本人の意見を聞き活かすための機会にできていない。 Ω 認知症カフェが、本人の意見を聞き活かすための機会にできていない。 9 本人ミーティングが、本人の意見を聞き活かすための機会にできていない。 10 |市区町村内の地域/場によって、本人の意見や力を活かそうとする意識に差がある。 本人が地域の様々な機会や場に参加したくても、送迎や付き添う人の確保ができない(課題 12 がある)。

本人が地域の様々な機会や場に参加したくても、家族が「無理」「話せない」等と考えていて、

|行政や地域包括の担当者が、本人発信や社会参画への支援の考え方や方法がわからない。

家族等が本人の代わりに話す場合が多く、「本人自身の声・意見」を聞けないことが多い。

13

14 15 理解・協力が得られない。

	16	行政や地域包括の担当者が、本人の考えや体験、工夫を施策や事業等にどう反映させてい けばいいかわからない。			
	その他 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:内容を具体的に教えてください(下欄へ)				
	17				
その	その他、「認知症バリアフリー」について、ご自由にご記入ください				
		設問は以上です。ご協力、ありがとうございました。			
	本フ	ァイルは右欄のアドレスにご提出ください res02@jdwg.org			

3)認知症疾患医療センター用

		リー・本人参画 全国調査	
	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■	・患医療センター用】 ■	
-	────────────────────────────────────	ロ中ち、まないけ声にの代わり	
2ンツ -	ーの概要をご記入ください(令和4年1月1 		
1	都道府県名	回答欄	
	40000000000000000000000000000000000000		
2	センター名(医療機関名)		
3	センターの種別: 1. 基幹型 2. 地域型 3. 連携型	* 該当する数字を右欄にご記入ください	
4	ご記入者の資格: 1. 医師 2. 看護師 3. 保健師 4. 精神保健福祉士 5. 理学療法士 6. 作業療法士 7. 社会福祉士	* 主たる職務として該当する数字一つを右欄にご記入くださいその他は、下欄に内容をご記入ください	
	8. 介護福祉士 9. その他		
引1 責	tセンターでは、認知症の人の日ごろの暮	事らしの様子について情報を得る機会があ	りますか。
複数		の「1」、該当しない場合は数字の「0」を記入	回答欄
1	来院(所)する 認知症の本人から、直接話を * 右の回答欄に「1」を記入した方へ: どのよう るか具体的に教えてください(下欄へ)	聞いている。 な立場の職員が、どのような場で話を聞いてい	
2	来院(所)する本人の家族や身近な人から、 * 右の回答欄に「1」を記入した方へ: 来院(所いるか具体的に教えてください(下欄へ)	話を聞いている。 ・)する本人の家族や身近な人から、話を聞いて	
	管内の 市町村を通じて、情報を得る 機会があ	± Z	
3			
4	管内の地域包括支援センターを通じて、情報 + 1 45 10 日本 2 人群サービュ 東 巻 本 2 2 10		
5	本人が利用する介護サービス事業者を通じ		
6	地域の医療機関(かかりつけ医)を通じて、		
7	認知症地域支援推進員を通じて、情報を得	· る 機会がある。	
8	若年性認知症支援コーディネーターを通じて	て、情報を得る 機会がある。	
9	来院者を対象にした調査を行っている。 *右の回答欄に「1」を記入した方へ:調査(事 (下欄へ)	業)名、頻度、対象等の概略を教えてください	
	 その他 * 右の回答欄に「1」を記入した方へ:	内容を具体的に教えてください(下欄へ)	
10		,	
11	話を聞いたり、情報を得る機会は無い		
引2 【	。 設問1で「11」以外に該当した方へ】貴セ:	、 <mark>ンターでは、どのような情報を得ることがあ</mark>	りましたか
	■答:下記の選択肢で、該当する場合は数字		回答欄
1	スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い	物等に関する本人の困りごとや要望	
2	スーパーや商店、コンビニ等での日々の買い	物等に関する本人の工夫	
3	バスや電車、タクシー等の交通機関を利用す	る際の本人の困りごとや要望	
		- :	

6 銀行や郵便局などの窓口やATMを利用する際の本人の工夫 7 外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の困りごと 8 外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の工夫 9 住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の 10 住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の 11 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の 12 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の 13 貴センターの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する その他、日々の暮らしの中の困りごとや要望	の困りごとや要望 の工夫 の困りごとや要望 の工夫 本人の困りごとや要望 さい(下欄へ)		
8 外食や出前(配食サービス含)など食事に関する本人の工夫 9 住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の 10 住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人の 11 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の 12 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人の 13 貴センターの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する	の困りごとや要望 の工夫 の困りごとや要望 の工夫 本人の困りごとや要望 さい(下欄へ)		
9 住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人(10 住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人(11 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人(12 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人(13 貴センターの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する	の工夫 の困りごとや要望 の工夫 本人の困りごとや要望 さい(下欄へ)		
10 住まい(居住環境)やインフラ(電気・ガス・水道等)に関する本人(11 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人(12 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人(13 貴センターの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関するス	の工夫 の困りごとや要望 の工夫 本人の困りごとや要望 さい(下欄へ)		
11 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人 12 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人 13 貴センターの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する	の困りごとや要望 の工夫 本人の困りごとや要望 さい(下欄へ)		
12 日々の近所づきあいや旧知の人たちとの交流などに関する本人 13 貴センターの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する	の工夫本人の困りごとや要望さい(下欄へ)		
13 貴センターの広報(チラシ、パンフレット、ホームページ)に関する	本人の困りごとや要望		
	さい(下欄へ)		
その他、日々の暮らしの中の困りごとや要望			
* 右の回答欄に「1」を記入した方へ: 内容を具体的に教えてくだる	さい(下欄へ)		
	さい(下欄へ)		
その他、日々の暮らしの中の本人の工夫 * 右の回答欄に「1」を記入した方へ: 内容を具体的に教えてくだる			
設問3 貴センターでは、以下に関する本人の希望をきいたことがな	ありますか。		
複数回答:下記の選択肢で、該当する場合は数字の「1」、該当しない	い場合は数字の「0」を記入 回答欄		
1 本人が行きたいところややりたいことについての、本人の希望			
2 地域の中での集まりや楽しみについての、本人の希望			
3 就労についての、本人の希望			
4 医療機関や介護サービスについての、本人の希望			
設問4 貴センターでは、本人の暮らしの様子に関して得られた情報 そうとする仕組みや取組がありますか。	服を、本人や家族のよりよい暮らしへ活か 		
下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入	回答欄		
1 ある。			
2 現在は無いが、仕組みづくりや取組の必要性を感じる。			
3 無い。			
本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容 を具体的に教えてください(右欄へ)			
設問5 貴センターでは、本人の暮らしの様子に関して得られた情報がす取組がありますか。	服を、地域の認知症支援や関連事業に活 		
下記の選択肢から該当するものを一つ選び、数字を記入	回答欄		
1 5 5.			
2 取組は無いが、今後、地域の自治体や関係団体等と協議している	きたい。		
3 無い。			
本設問で選択肢「1」を選択した方へ: 内容 を具体的に教えてください(右欄へ)			

	引6 認知症疾患医療センターとして、地域の自治体(地域包括支援センターや認知症地域支援推進 と連携するうえで、重要だと考えていることを教えてください。	負
設問てい	明7 認知症疾患医療センターとして、地域の医療機関(かかりつけ医等)と連携するうえで、重要だることを教えてください。	と 考え
その	D他、「認知症パリアフリー」について、ご自由にご記入ください	
	設問は以上です。ご協力、ありがとうございました。	
	本ファイルは右欄のアドレスにご提出ください res03@jdwg.org	

令和3年度 老人保健事業推進費等補助金 (老人保健健康增進等事業分)

地域における実践的な「認知症バリアフリー」の 取組の推進に関する調査研究事業 報告書

発 行:一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ http://www.jdwg.org/

令和4(2022)年3月